

第170図 2号窯跡側面図

体崩落層である。そのうち細別6層上面に瓦がのることからこの面が最終操業面と確認した(B期)。また、細別6層下面に構築時の床面(A期)があることから操業面2面を確認した。地滑りで崩落した燃焼部付近では、大別1層、細別8層を確認した。大別1層は燃料残滓層で、にぶい褐色砂質シルト、黒褐色シルト、褐色シルト、黒色シルトの互層である。

【灰原】崩落した窯体を覆うように存在していた1号灰原aがこれである。

【出土遺物】軒丸瓦・丸瓦・軒平瓦・平瓦が出土した。総破片数は56点で、2点図示した。大別1層より丸瓦・平瓦、大別2層上面から細弁蓮華文軒丸瓦・平瓦が出土している。

### 3号窯跡(SO3)(第172～175図・第11表)

【確認状況】調査区北部の南斜面、F-22グリッドに位置する。Ⅲ層上面で確認した。崩落した燃焼部は、整地層上面で確認している(写真23-4)。残存状態は悪く、煙出部から焼成部にかけては後世の削平を受け、焼成部から燃焼部は地滑りにより大きく2段に崩落している。燃焼部は西にずれ崩落涯の底面まで落ちている。焼成部だけが原位置をとどめている。Ⅲ層を床面とし、壁・天井をスサ入りに粘土で構築している。他の遺構との重複関係はなく、隣接する窯との間隔は西側の2号窯跡で1.5m、東側の4号窯跡で2.85mである。

【窯体構造】半地下式無段の竈である。(階は地滑りのため不明)

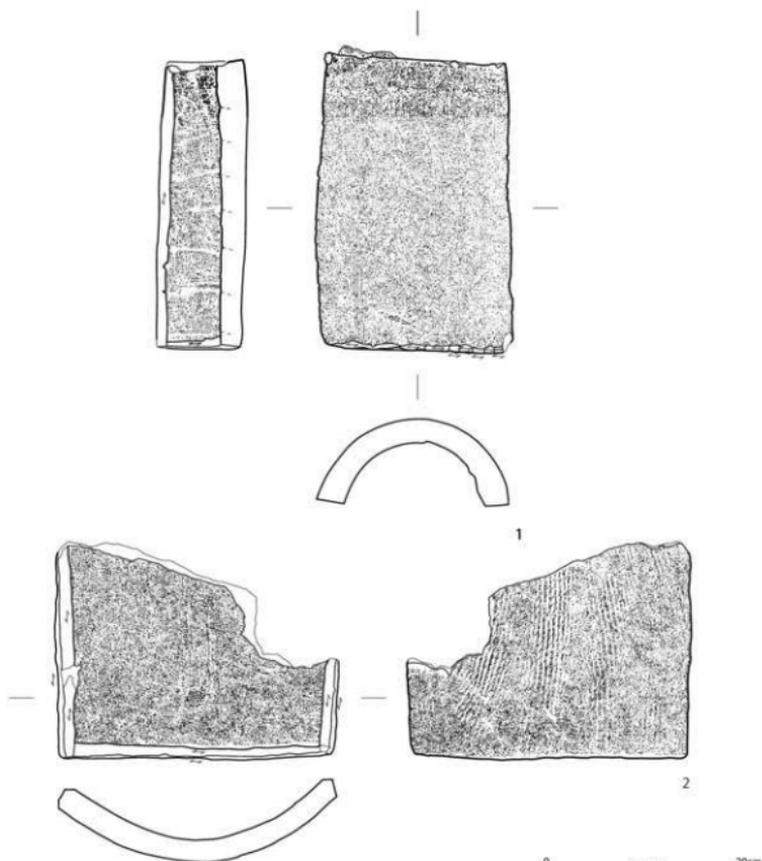
【規模】残存長1.7m、幅50cm、壁高35cmである。

【中軸線の方向】N-1°-W

【操業面数】1面(構築時床面)

【煙出部】削平されて残存してない。

【焼成部】平面形は、長方形である。残存長1.7m、最大幅50cm、残存壁高35cmである。床面は崩落により凹凸が見られ、灰白色硬化の範囲は少なく、崩落面に黄褐色硬化部分が現れている。24°の角度で傾斜する。



番号	遺構名 グリッド	層位	編年	最大径 (cm)	広さ幅 (cm)	狭さ幅 (cm)	厚さ (cm)	瓦当径 長(cm)	瓦当径 厚2(cm)	色調	成形・調査 備考		登録 番号	写真 図版
											内面	外面		
1	2号窯跡	1	丸瓦	31.5+	18.0	-	3.0	-	-	内面：5YR 3/1 凸面：10R 4/2	内面：粘土細面→布目織 自然焼 凸面：縄文キ→ロケロナデー→ヘラケズリ 自然焼 内面：側面・広端面→ヘラケズリ 自然焼		F-072	49-1
2	2号窯跡	1	平瓦	22.3+	27.2	-	2.6	-	-	内面：7.5YR 4/2 凸面：10YR 5/2	内面：糸切り織→ナデケシ 凸面：糸切り織→縄文キ→ナデ 内面：ヘラケズリ		G-220	48-7

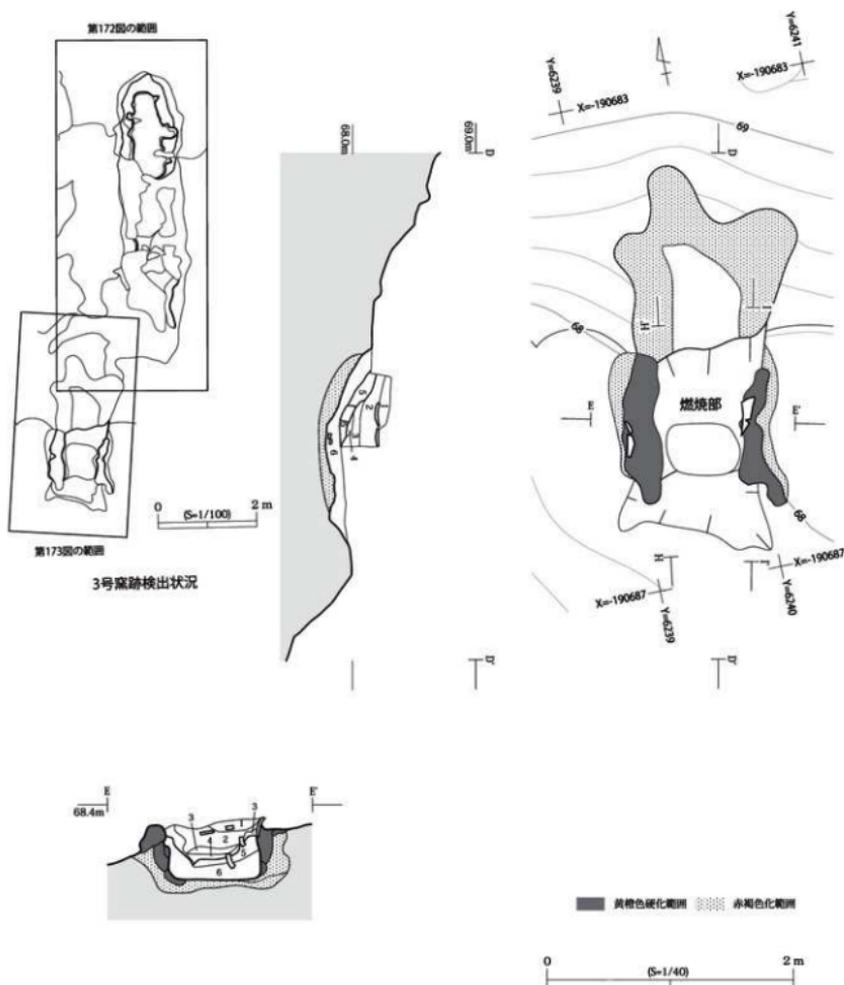
第171図 2号窯跡出土遺物

床面の瓦の状態が不規則であり、焼台の列は明確ではない。壁はほとんどが崩落しているが、残存する壁面は床面からほぼ垂直に立ち上がり、上部ではスサ入り粘土が認められる。竈内で奥壁の立ち上がりを確認した（写真23-3）。奥面ではスサ入り粘土が貼られた状況は認められなかった。崩落した両側面で、直径1～2cmの円形の構架材痕を25ヶ所検出した（写真23-5・6）。痕跡は列状に、竈の斜面に対して平行に並んでいた。中でも西側壁では2列確認され、造りかえの可能性が考えられる。壁面からの鉛直角は13～60°である。天井はスサ入り粘土で壁上部から構築されている。焼台は、確認できなかった。

被熱状況は、残存する壁・床面は灰白色硬化している。上部では灰白色硬化面が崩落し、崩落面の黄褐色硬化部



第172図 3号跡跡平面図・土層断面図



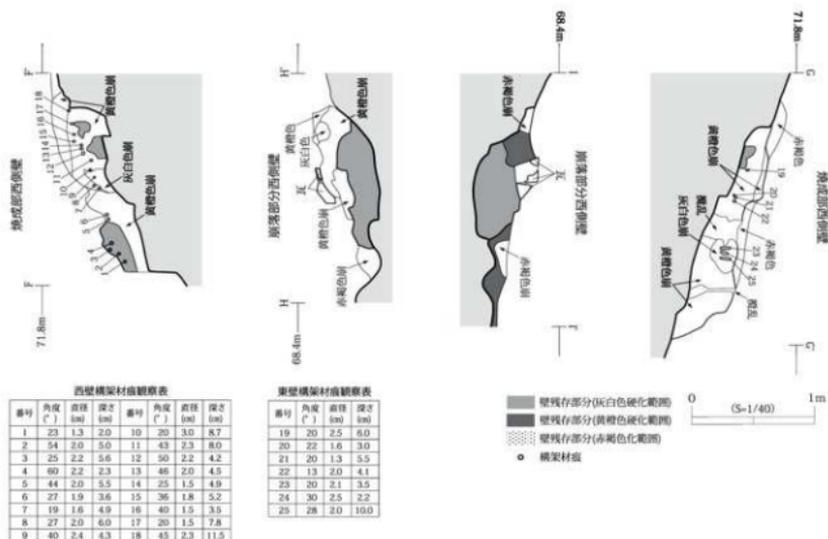
## 3号窯跡

層位	土色	土性	特徴	層位	土色	土性	特徴
1	黒10YR4/4	シルト	炭入層(崩落(大別1期)シルト(陶)を含む。炭土粒を少量含む。	3	黒10YR4/4	シルト	炭体崩壊層(大別2期)
2	黒10YR4/4	シルト	炭入層(崩落(大別1期)シルト(碎陶)・シルト(陶7.5YR4/6)を含む。炭土粒を少量含む。	4	黒10YR3/2	粘土	炭体崩壊層(大別2期) スサを含む。

## 3号窯跡崩落部分

層位	土色	土性	特徴	層位	土色	土性	特徴
1	黒10YR3/2	砂質シルト	(大別1期) 炭土ブロックを少量含む。炭化物粒を散見含む。	4	炭黄黒10YR3/2	シルト	(大別1期) 炭土粒・炭化物粒を含む。
2	炭黄黒10YR6/2	砂質シルト	(大別1期) 炭土ブロックを多量含む。	5	相模5Y3/2	シルト	(大別2期) 炭土粒を多量含む。炭化物を含む。
3	にぶ・黄黒10YR7/3	砂質シルト	(大別1期) 炭土ブロックを少量含む。	6	黒10YR2/1	シルト	(大別2期) 炭化物を多量含む。炭土粒を少量含む。

第173図 3号窯跡燃焼部崩落部分平面図・土層断面図



第174図 3号窯跡側面図

分が斜面としてみられる。窯体の断ち割り調査では、内側から外側へ灰白色硬化（1cm）、黄褐色硬化（30cm）、赤褐色化（12cm）の状況を確認した。そのうち、赤褐色化部分は焼成部上部の東側では構築面から15cmの深さで変色が認められた。

【 燃 焼 部 】 地滑りで崩落しているが、形状を保っている。平面形は、長方形である。残存長1.3m、最大幅80cmである。床面は凹凸がみられ、28°の角度で傾斜する。壁面は、垂直に立ち上がる。

被熱状況は床面・壁ともに灰白色硬化、黄褐色硬化面がみられ、窯体の断ち割り調査では、内側から外側へ灰白色硬化（4cm）、黄褐色硬化（8cm）、赤褐色化（10cm）の状況を確認した。

【 前 庭 部 】 窯体が崩落していたため確認されなかった。

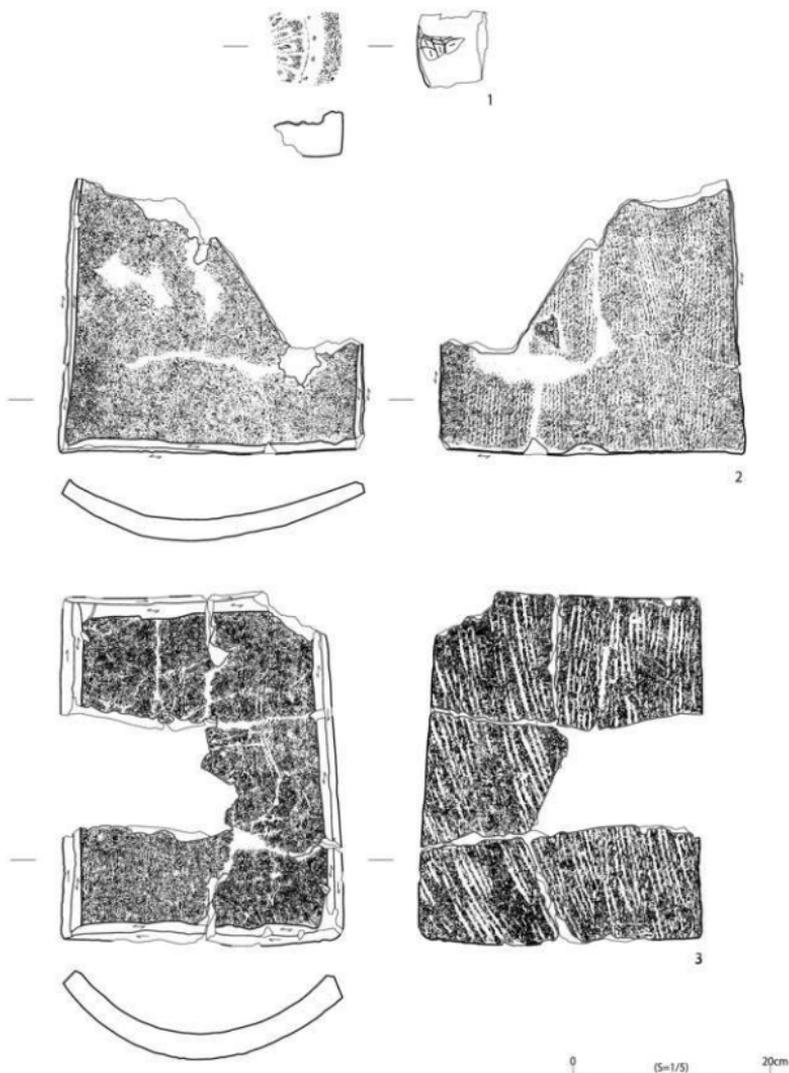
【 堆 積 層 】 大別2層、細別4層を確認した。大別1層は焼土粒を少量に含む褐色シルトの流入堆積層、大別2層は天井崩落材・焼土粒を微量に含む褐色シルトと暗褐色スサ入り粘土の窯体崩落層である。地滑りで崩落した部分では、大別2層、細別6層を確認した。大別1層は焼土粒を含むにぶい黄褐色シルトの流入堆積層、大別2層は黒色シルトの燃料残滓層である。

【 灰 原 】 1号灰原aがこれである。崩落した窯体を覆うように存在している。

【 出 土 遺 物 】 軒丸瓦・丸瓦・平瓦が出土した。総破片数49点で、2点図示した。出土層位は、大別1層より丸瓦・平瓦・方形突出のある平瓦、床面直上より細弁蓮華文軒丸瓦が出土している。

#### 4号窯跡 (S04) (第176・177図・第11表)

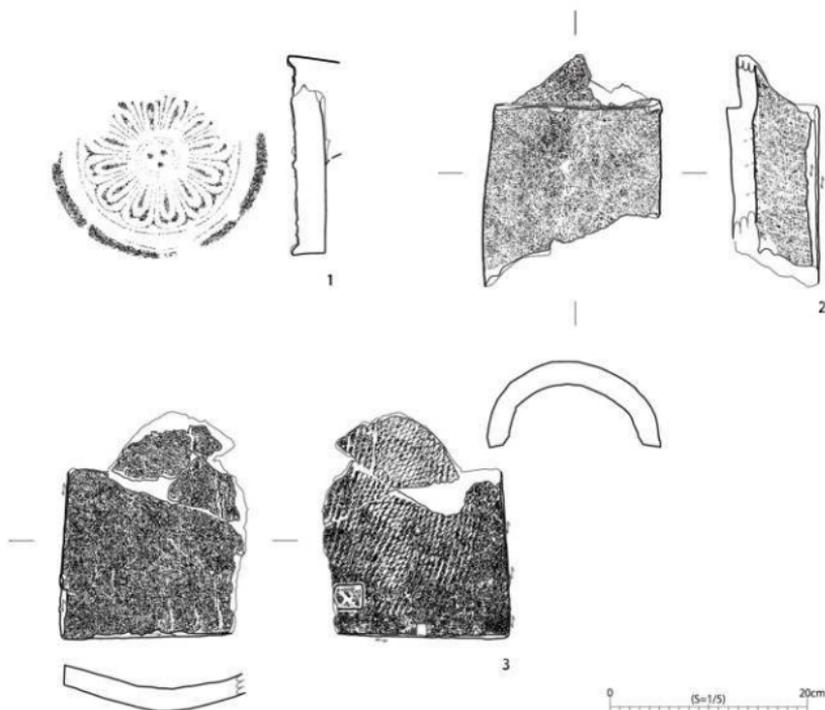
【 確 認 状 況 】 調査区北部の南斜面、F-22グリッドに位置する。Ⅲ層上面で確認した。残存状態は悪く、煙出部から焼成部にかけて後世の削平を受けて失われ、焼成部の一部分が原位置をとどめている。焼成部から燃焼部は地滑りにより崩落し窯体のほとんどが失われている。Ⅲ層を床面とし、壁をスサ入り粘土で構築している。他の遺構との重複関係はなく、隣接する窯との間隔は西側の3号窯跡で2.85m、東側の5号窯跡で2.15mである。



番号	遺物名 フリッド	部位	素材	最大径 (cm)	広径幅 (cm)	狭径幅 (cm)	厚さ (cm)	瓦当面 長(cm)	瓦当面 厚さ(cm)	色調	底面・裏面 備考	登録 番号	写真 図版
1	3号窯跡	4	軒瓦瓦	-	-	-	7.7	3.6	-	瓦当面表：10YR 4/1 瓦当面裏：2.5YR 6/1	瓦当面表：筋、波線・ヘラナデ 自然釉 瓦当面裏：ヘラケズリ 自然釉	F-073	49-5
2	3号窯跡	4	平瓦	28.1	30.5	-	2.2	-	-	底面：2.5Y 5/1 凸面：5YR 4/1	底面：赤目釉 自然釉 波線 筋線・断面・広縁部・ヘラケズリ 凸面：刷印キ 波型付付瓦 平瓦と縁瓦	G-221	49-3
3	3号窯跡	4	平瓦	36.1	28.1	20.2 (26.0)	2.7	-	-	底面：7.5YR5/1 凸面：2.5Y5/1	底面：赤切り筋→赤目釉 凸面：刷印キ 波線：ヘラケズリ	G-222	49-4

第175図 3号窯跡出土遺物





番号	遺物名 ブリード	部位	形状	最大径 (cm)	広幅幅 (cm)	狭幅幅 (cm)	厚さ (cm)	耳当面 長さ(cm)	耳当面 厚さ(cm)	色調	成形・調整 備考	登録 番号	写真 掲載	
1	4号窯跡	3	軒瓦瓦	-	-	-	-	17.4 (20.4)	3.5	耳当面表：N 6/O 耳当面裏：N 5/O	成形：ヘラズリ→ナデ	F-074	49-6	
2	4号窯跡	1	丸瓦	23.7 55.3	513.8	16.8 E	2.4 51.8	-	-	円面：10R5/1 凸面：10R5/1	成形：粘土粘着→毎日塗 凸面：刷叩き→ロウソクナデ	調整：刷面ヘラズリ	F-075	50-1
3	4号窯跡	2	平瓦	24.1	17.3	-	2.4	-	-	円面：5YR6/4 凸面：2.5YR6/3	円面：糸切り籠→毎日塗→ナデ 調整：刷面・広幅面ヘラズリ	凸面：刷叩き 凸面：方形突出	G-223	49-2

第177図 4号窯跡出土遺物

【窯体構造】 半地下式無段の窯竈である。(階は地滑りのため不明)

【規模】 残存長 3.0m、幅 55cm、壁高 65cmである。

【中軸線の方向】 N - 8° - E

【作業面数】 1面(構築時床面)

【煙出部】 削平されて残存していない。

【焼成部】 平面形は、壁面が崩落し捉えられない。残存長 3.0m、最大幅 55cm、残存壁高 65cmである。床面は崩落により凹凸が見られ、一部はうすいスサ入り粘土層の上面を床面としている。19°の角度で傾斜する。焼台の列は、確認できなかった。Ⅲ層は砂質であるため、壁のほとんどが剥離・崩落していた。残存する西側壁では、スサ入り粘土と斜面に対して平行な指ナデの痕跡を確認した。構築材痕はなく、床面から壁にかけての崩落面で構築材の痕跡を2ヶ所確認した(写真 24-4)。天井は残存していない。

被熱状況は床面、壁面ともに灰白色硬化・黄橙色硬化がみられ、窯体の断ち割りでは、内側から外側へ灰白色硬化(1cm)、黄橙色硬化(12cm)、赤褐色化(15cm)の状況が確認された。

【 燃 焼 部 】 窯体が崩落していたため残存していない。

【 前 庭 部 】 窯体が崩落していたため残存していない。

【 堆 積 層 】 大別3層、細別4層を確認した。大別1層は焼土粒を含む褐色シルトの流入堆積層、2層は壁崩壊ブロックを含む褐色シルトの窯体崩落層、3層はオリーブ褐色スサ入り粘土である。

【 灰 原 】 残存していない。

【 出 土 遺 物 】 軒丸瓦・丸瓦・平瓦が出土した。総破片数は41点で、3点図示した。1層より丸瓦、2層より平瓦、3層より細弁蓮華文軒丸瓦が出土している。これらは床面直上から出土しているが、多くは散在している。

#### 5号窯跡 (S05) (第178～181図・第11表)

【 確 認 状 況 】 調査区北部の南斜面、F-22グリッドに位置する。Ⅲ層上面で確認した。残存状態は、煙出部から焼成部にかけて後世の削平を受け、前庭部の一部も地滑りにより崩落している。焼成部、燃焼部、前庭部は原位置をとどめる比較的良好な残存状態の窯である。Ⅲ層を床面とし壁、天井をスサ入り粘土で構築している。他の遺構との重複関係はなく、隣接する窯との間隔は、西側の4号窯跡で2.15m、東側の6号窯跡で1.65mである。

【 窯 体 構 造 】 半地下式無階無段の密窯である。

【 規 模 】 残存長4.35m、幅60cm、壁高65cmである。

【 中軸線の方向 】 N - 10° - E

【 操 業 面 数 】 3面 (A期:構築時床面、B期:細別5層上面、C期:細別3層上面)

【 煙 出 部 】 削平されて残存していない。

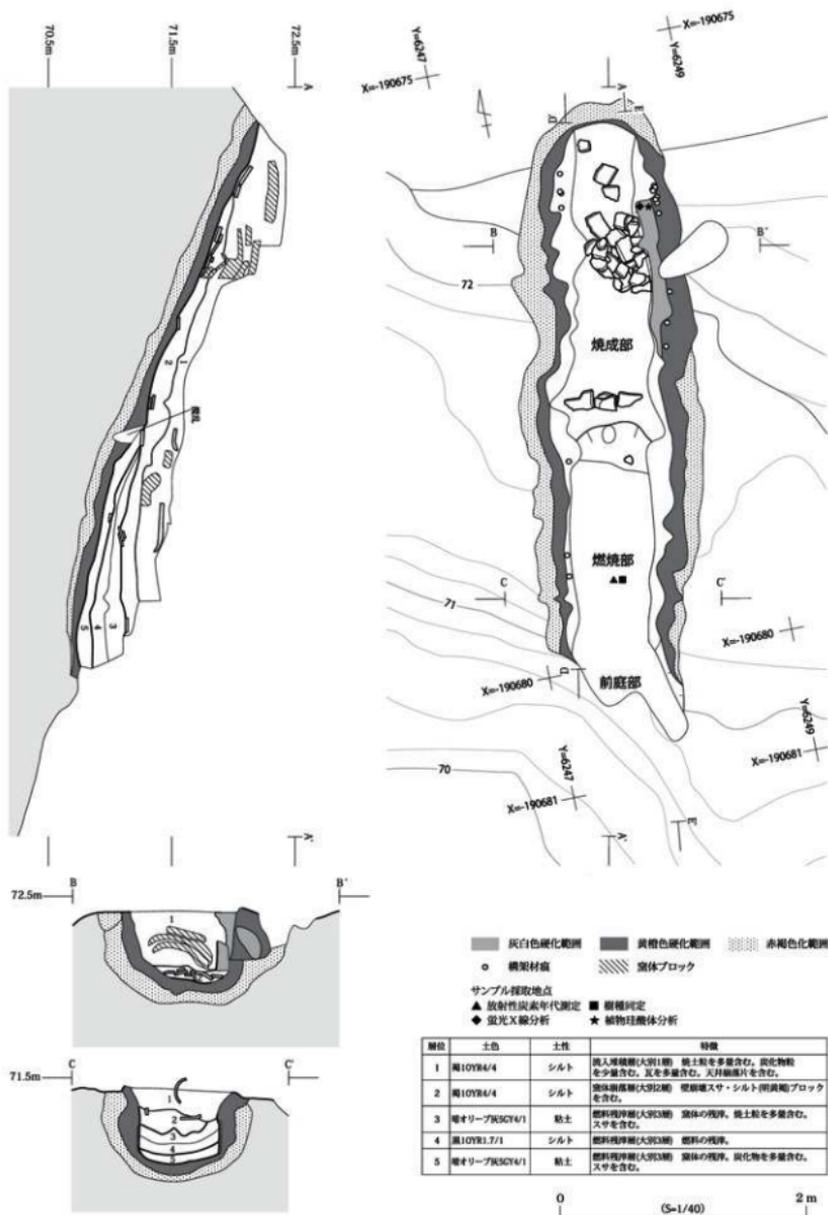
【 焼 成 部 】 平面形は壁面が崩落し、捉える事が出来なかった。残存長2.5m、最大幅60cm、残存壁高55cmである。床面は、崩壊による細かな凹凸が見られる。20°の角度で傾斜する。床面には、融着した瓦がみられ、その多くは散在していた。燃焼部との境には横位置に3枚の平瓦が並べられており、焼台の列とみられる。壁は崩落しているが、東側の一部でスサ入り粘土が認められる。天井は残存していない。構築材痕は、焼成部の崩落面上部で、直径2～3cmの円形や漏斗形をした痕跡14ヶ所を検出した (写真25-2)。

被熱状況は床面、壁面ともに灰白色硬化の範囲は少なく、側壁の崩落面で黄褐色硬化部分のみ見られた。窯体の断ち割り調査では、内側から外側へ灰白色硬化 (10cm)、黄褐色硬化 (8cm)、赤褐色化 (1cm) の状況を確認した。そのうち、赤褐色化部分は構築面から15cmの深さで変色を確認した。

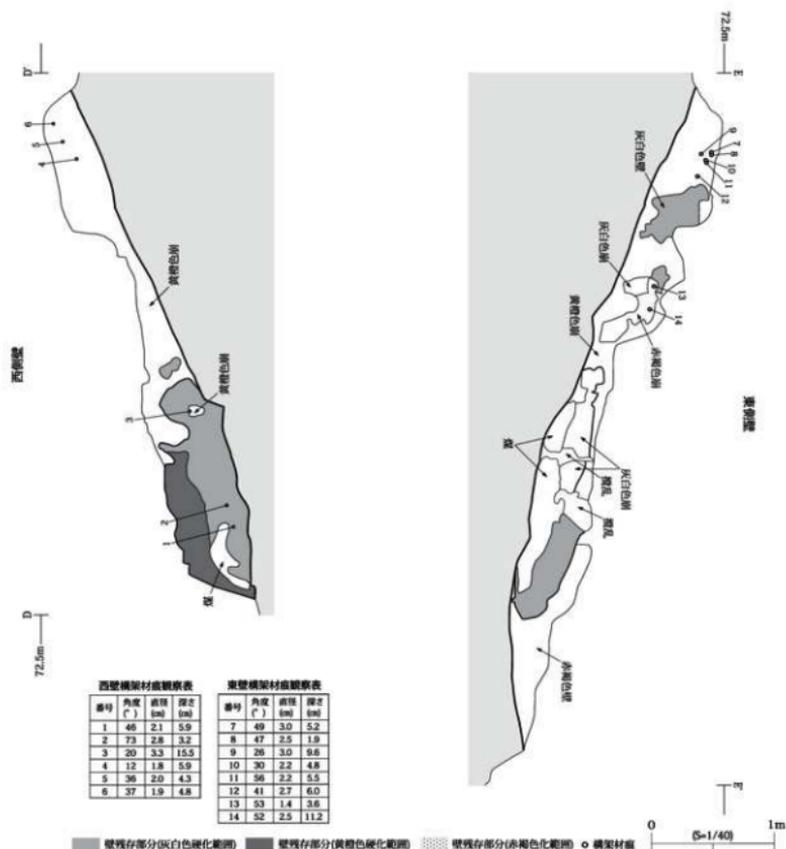
【 燃 焼 部 】 平面形は、焚口がやや狭まる長方形である。残存長1.85m、最大幅60cm、残存壁高65cmである。床面は3面確認した。床面・側壁の残存状態は良好である。A期の床面は凹凸がなく緩やかな斜面で、9°の角度で傾斜する。側壁は床面から垂直に立ち上がるが、上部が崩落しており天井は不明である。壁面には凹凸が見られ、上部でやや開き、壁面のほとんどは煤けて黒色である。被熱状況は残存する下部は灰白色硬化し、崩落した上部は黄褐色硬化している。床面のほとんどは灰白色硬化面である。B期は、A期の燃料残滓層上面に堆積した灰白色硬化したスサ入り粘土層 (細別5層) 上面を床面としている。床面は凹凸がなく、12°の角度で傾斜する。C期は、B期の黒色シルト層上面に堆積した灰白色硬化したスサ入り粘土層 (3層) 上面を床面としている。床面は凹凸がなく、6°の角度で傾斜する。

被熱状況は、残存する壁は灰白色硬化し、崩落面は黄褐色硬化している。床面は、焼成部では灰白色硬化し、燃焼部では黄褐色硬化している。窯体の断ち割り調査では内側から外側へ灰白色硬化 (1cm)、黄褐色硬化 (10cm)、赤褐色化 (4cm) の状況を確認した。赤褐色化部分の、構築面付近の変色は見られなかった。

【 前 庭 部 】 西側が崩落して不明であるが、残存する東側では、平面形は焚口から外側に緩やかに開く。残存長80cm、最大幅60cm、残存壁高55cmである。



第178図 5号窯跡平面図・土層断面図



第179図 5号窯跡側面図

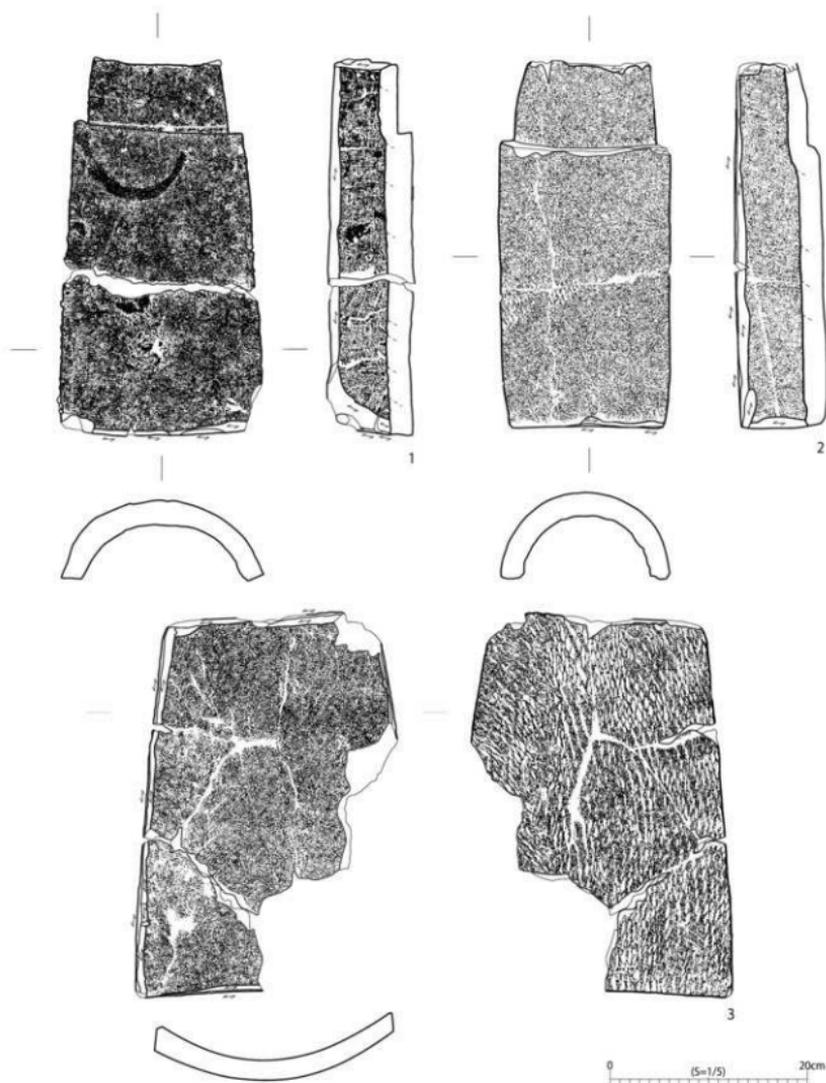
【堆積層】大別3層、細別5層を確認した。大別1層は天井崩落材、多量の瓦や焼土粒、少量の炭化物粒を含む褐色シルトの流入堆積土、大別2層は天井崩落材と褐色シルトブロックを含む褐色シルトの窯体崩落層、大別3層は焼土粒を含むスサ入り粘土と炭化物を含む黒色シルトの互層からなる。

【灰原】崩落涯にわずかに確認できた。前庭部の南側で、灰原の可能性のある黒褐色シルトをわずかに確認した。

【出土遺物】丸瓦・軒平瓦・平瓦が出土している。総破片数は269点で、5点図示した。特に大別1層中に多くの平瓦・丸瓦が見られる。焼成部の床面直上からも出土しているが、これらは散在し原位置をとどめていない。

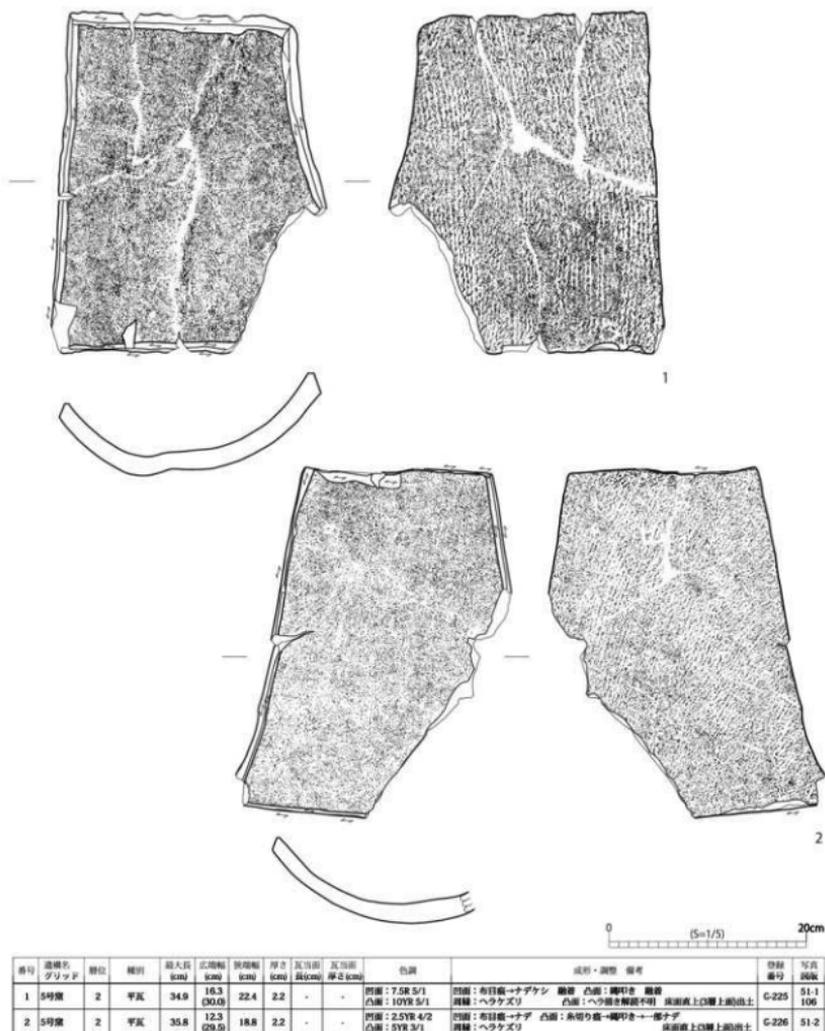
#### 6号窯跡 (SO6) (第182～184図・第11表)

【確認状況】調査区北部の南斜面、F・G-23グリッドに位置する。構築面はⅢ層上面であるが、窯跡群を覆う堆積層の上面で確認している。煙道部から焼成部にかけて削平を受け、燃焼部は壁の崩落が著しく、残存状態は良くない。焼成部から燃焼部、前庭部が原位置をとどめている。Ⅲ層を床面とし壁・天井をスサ入り粘土で構築し



番号	遺物名 フリッド	層位	種類	最大径 (cm)	広径幅 (cm)	狭径幅 (cm)	厚さ (cm)	瓦当面 長さ(cm)	瓦当面 厚さ(cm)	色調	成形・調整 備考	登録 番号	写真 掲載	
1	5号瓦跡	2	丸瓦	36.3 57.3	15.6 (20.5) 514.4	17.2 513.2	2.7 51.9	-	-	内面：2.5YR 3/1 凸面：5R 4/1	内面：粘土結核→布目織 編織 凸面：縄甲子→ロケロナデ 丸瓦と機織 両縁：ヘラケズリ 機織	深面直上凸縁土層出土	F-076	50.2
2	5号瓦跡	2	丸瓦	37.4 58.8	15.3 514.5	16.7 512.5	2.4 52.0	-	-	内面：2.5YR 4/2 凸面：2.5YR 5/3	内面：粘土結核→布目織 凸面：縄甲子→ロケロナデ 両縁：ヘラケズリ	深面直上凸縁土層出土	F-077	50.3
3	5号瓦跡	2	平瓦	39.5 (27.8)	21.8 (21.5)	14.5 (21.5)	2.4	-	-	内面：7.5YR 5/1 凸面：7.5YR 5/1	内面：糸切り筋→布目織→ナデ 凸面：縄甲子 両縁：ヘラケズリ→機織凸縁	深面直上凸縁土層出土	G-224	50.4

第180図 5号竈跡出土遺物(1)



第181図 5号窯出土遺物(2)

ている。他の遺構と直接の重複関係はみられないが、2号灰原の堆積状態から最終作業時期は7号窯跡より新しいと考えられる。隣接する窯との間隔は、西側の5号窯跡で1.65m、東側の7号窯跡で2.15mである。

【窯体構造】 半地下式無階無段の竈窓である。

【規模】 残存長4.85m、幅70cm、壁高65cmである。

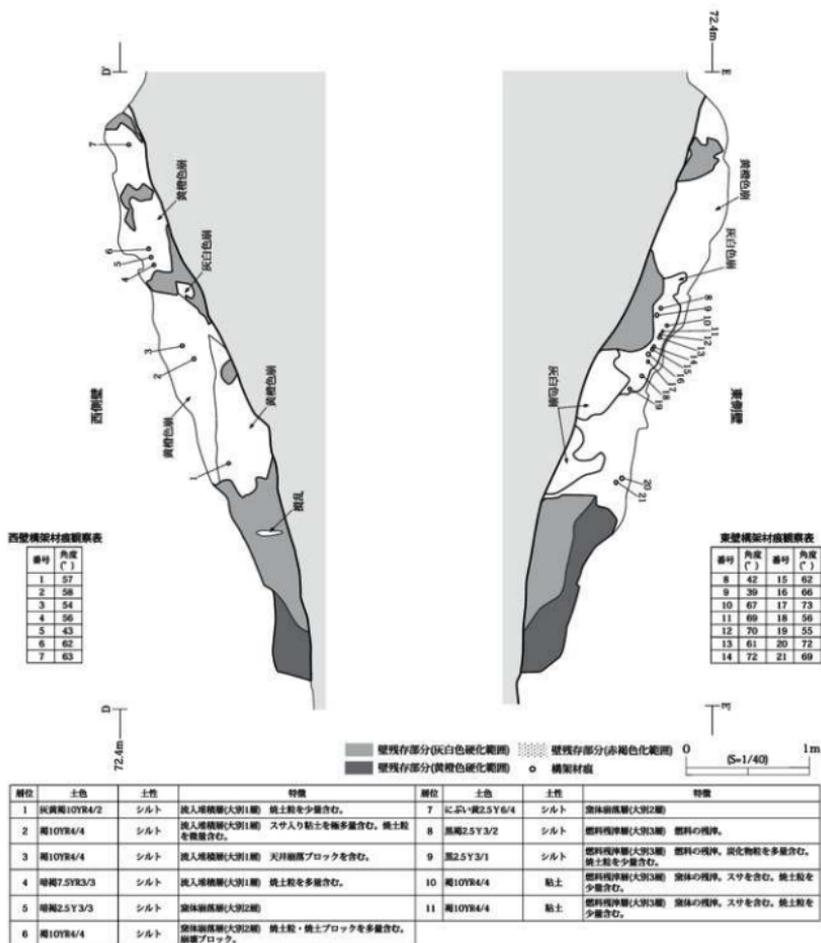
【中軸線の方向】 N-8°-E

【作業面数】 2面(A期:構築面、B期:細別11層上面)

番号	遺構名	層位	種類	最大長 (cm)	凸部幅 (cm)	凹部幅 (cm)	厚さ (cm)	瓦当面 長さ(cm)	瓦当面 厚さ(cm)	色調	説明・調査 備考	登録 番号	写真 掲載	
1	5号窯	2	平瓦	34.9	16.3 (30.0)	22.4	2.2	-	-	凹面: 7.5R 5/1 凸面: 10YR 5/1	凹面: 赤褐色→ナデケシ 凸面: ヘウケズリ	裏面: 凸面: 緑灰色 陶質 凸面: ヘウケズリ	G-225	51-1 106
2	5号窯	2	平瓦	35.8	12.3 (29.5)	18.8	2.2	-	-	凹面: 2.5YR 4/2 凸面: 5YR 5/1	凹面: 赤褐色→ナデ 凸面: ヘウケズリ	凸面: 赤褐色→陶印キ→一部ナデ 表面直上凸層上陶質土	G-226	51-2



第182図 6号窯跡平面図・土層断面図

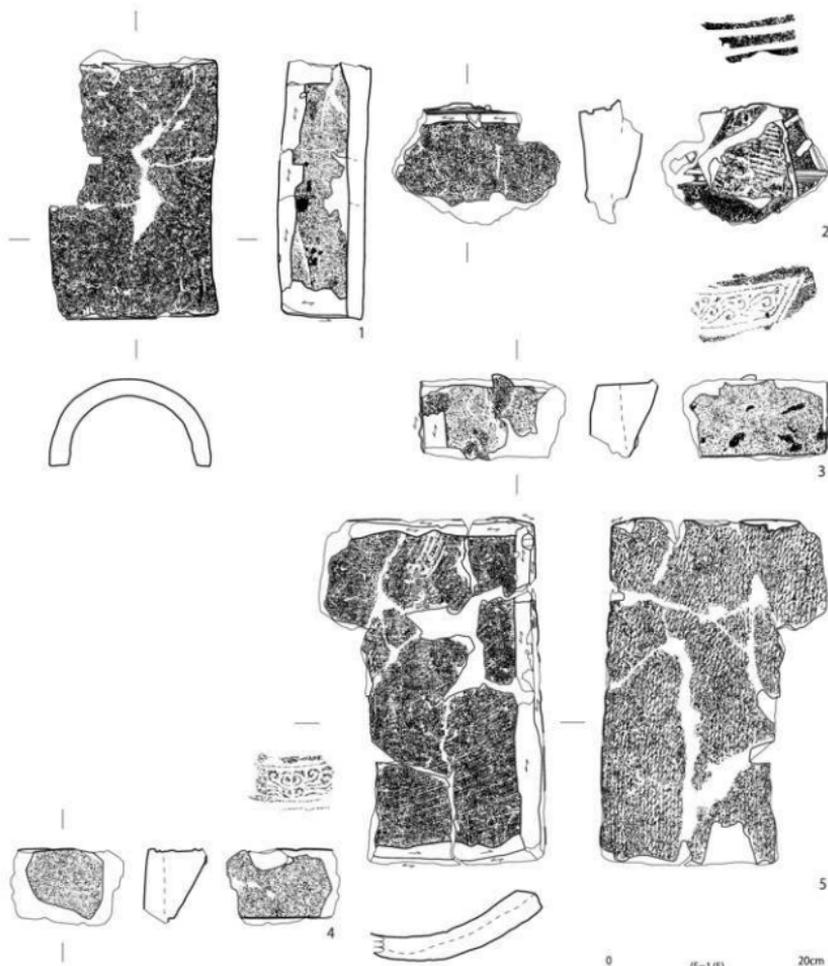


第183図 6号窯跡側面図

【煙出部】削平されて残存していない。

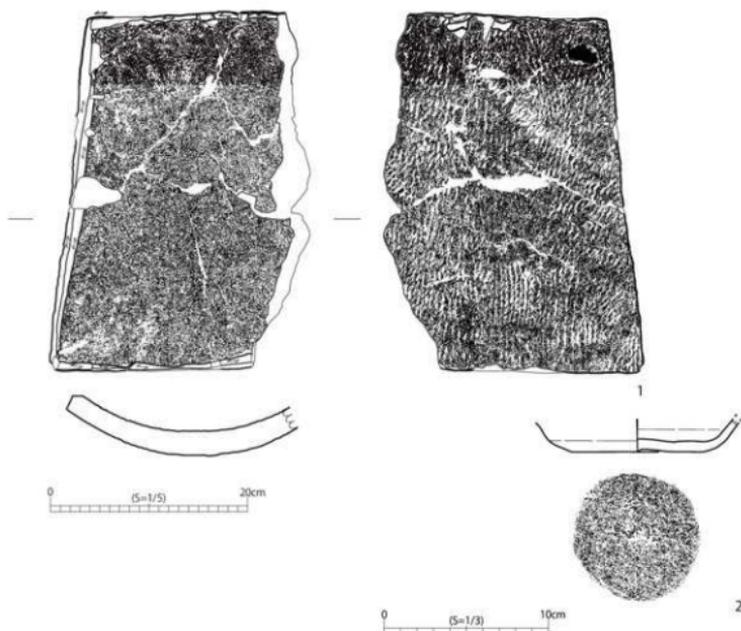
【焼成部】平面形は、壁面が崩落し捉えられない。残存長2.05 m、最大幅65cm、残存壁高55cmである。床面は2面確認した。B期は、11層上面に遺物がのることから最終作業面としてとらえた。A期は、11層下面に構築時の床面がある。B期床面はゆるやかな凹凸があり、24°の角度で傾斜する。A期床面は、一部欠損が見られ、比較的細かな凹凸がみられ、21°の角度で傾斜する。焼台は、上方で凸面を上にして、横位に置かれた平瓦1枚を確認したが、配置等は不明である。構築材痕は、壁上部に床面の傾斜に対して平行に並んだ直径2cmの円形や蒲鉾形をした痕跡22ヶ所を検出した(写真26-1)。残存面のスサ入り粘土を除去した面、崩落面の上部で確認した。

被熱状況は、床・壁ともに灰白色硬化面がほとんどを占めている。壁は東側の一部でスサ入り粘土が認められるが、灰白色硬化面は崩落しており確認できなかった。A期の天井は上部が崩落しているため不明である。



番号	遺物名 グリッド	層位	種別	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	表層幅 (cm)	厚さ (cm)	瓦当面 長(cm)	瓦当面 厚さ(cm)	色調	成形・調整 備考	登録 番号	写真 掲載	
1	6号窯跡	7	丸瓦	27.3- 31.2	14.0 (16.0) 至	13.6 (17.0) 至	2.0 至	-	-	内面：10R 6/1 凸面：7.5YR 5/1	内面：粘土糊塗→布目肌 凸面：ロクロナデ 自然釉、織草 瓦縁：断面・広端面ヘラケズリ	F-078	51-3	
2	6号窯跡	7	軒平瓦	12.2	9.8	-	-	4.6	-	瓦当面：10YR 6/2 断面：2.5Y 5/1 内面：5R 4/1 凸面：10YR 6/2	瓦当面ヘラケズリ→ヘラ掻き垂瓦文 断面：織草 内面：赤切筋→布目肌→ナデ 凸面：自然釉のため不明 瓦縁：広端面ヘラケズリ 床面直上(土)層上掘出土	G-227	51-6	
3	6号窯跡	6	軒平瓦	8.3	12.2	-	-	6.0	-	瓦当面：5Y 6/1 断面：5Y 6/1 内面：5Y 6/1	瓦当面：指 自然釉 断面：自然釉のため不明 内面：自然釉のため不明 瓦縁：断面・広端面ヘラケズリ	床面直上(土)層上掘出土	G-228	51-5
4	6号窯跡	7	軒平瓦	7.8	9.0	-	-	6.3	-	瓦当面：指 断面：5YR 5/1 内面：7.5YR 5/1 内面：10YR 5/1	瓦当面：指 断面：織草→ナデ 内面：布目肌→ナデ 瓦縁：広端面ヘラケズリ	床面直上(土)層上掘出土	G-229	51-4
5	6号窯跡	11	平瓦	35.4	17.9	18.9	3.0	-	-	内面：2.5YR 4/2 凸面：10YR 4/1	内面：粘土糊塗→布目肌 凸面：織草→赤切筋 瓦縁：ヘラケズリ 断面：たたら粘土製り合せ肌	床面直上出土	G-230	50-1

第184図 6号窯跡出土遺物(1)



番号	遺物名 グリッド	層位	種類	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	狭幅幅 (cm)	厚さ (cm)	瓦当面 長さ(cm)	瓦当面 厚さ(cm)	色調	成石・調整 備考	色録 番号	写真 図版
1	6号窯跡	4	平瓦	36.6	19.9+	20.0+	2.5	-	-	内面：5YR5/1 凸部：5YR5/2	内面：ナゲケン 凸部：陶甲き 織布 凸部：ヘラケズリ→鉄線地付面	G-231	S2-4
番号	遺物名 グリッド	層位	種類	口径 長さ(cm)	底径 幅(cm)	高さ 厚さ (cm)	重さ (g)	色調	成石・調整 備考	色録 番号	写真 図版		
2	6号窯跡	4	瓦蓋 鉢	-	8.0	6.5	-	外周：10YR7/2 内周：10YR6/2	外周：ロクロナデ 底面：ヘラすり 内周：ロクロナデ	E-029	S2-2		

第185図 6号窯跡出土遺物(2)

B期は、A期の床面に薄くスサ入り粘土を貼り、その上面を床面としている（細別11層上面）。中央部より上ではほとんど見られないが、下部で厚くなっている。床面には焼台とみられる瓦が散在し、自然釉で融着している（写真25・8・9）。

窯体の断ち割り調査では、灰白色硬化（8cm）、黄橙色硬化（16cm）、赤褐色化（12cm）の状況を確認した。しかし、縦断面上部では、灰白色硬化、黄橙色硬化の間に赤褐色化が見られた。また、横断面では灰白色硬化と黄橙色硬化の間に中間色（12cm）の硬化が見られた。赤褐色化の、構築面付近の変色は認められなかった。

【燃焼部】 平面形は、焚口がやや狭まる長方形である。残存長2.8m、最大幅70cm、残存壁高65cmである。床面は、2面確認した。焼成部との境には横位に瓦が並べられている。また、床面の時期を表す堆積の違いもこの地点で認められる。A期の床面は、凹凸がなく、 $10^\circ$ の角度で傾斜する。上部が灰白色硬化、下部が赤褐色化部分であることを確認した。側壁は、床面から垂直に立ち上がる。天井は不明である。B期は、A期の床面に堆積したスサ入り粘土層（細別11層）上面を床面としている。床面は凹凸のない斜面で、 $9^\circ$ の角度で傾斜する。被熱状況は、床・壁面ともに灰白色硬化している。

窯体の断ち割り調査では灰白色硬化（4cm）、黄橙色硬化（4cm）、赤褐色化（8cm）の状況を確認した。赤褐色化部の、構築面付近の変色は見られなかった。

構架材痕は、壁上部に床面傾斜に対し平行に並んだ直径2cmの円形や筒錐形をした痕跡を22ヶ所検出した。残存面でスサ入り粘土を除去した面、崩落した壁の上部でも確認している。

【前庭部】壁面は燃焼部から焚口ではほぼ直角に屈折し、灰原に向かって緩やかに屈曲している。残存長45cm、残存幅1.0m、残存壁高40cmである。床面は燃焼部からわずかに高くなっている。壁面は焚口から屈折した箇所は急に立ち上がるが、内湾している両壁は緩やかに立ち上がる。

【堆積層】大別3層、細別11層を確認した。大別1層は少量の焼土粒を含む褐色シルトの流入堆積層、大別2層は多量の焼土粒、天井崩落材を含む褐色スサ入り粘土の窯体崩落層、大別3層はスサ入り粘土と多量の焼土粒を含む暗褐色シルト層の灰原に続く燃料残滓層である。そのうち細別11層上面に瓦が並ぶことから、この面が最終操業面と確認した（B期）。また、細別11層下面に構築時の床面（A期）があることから操業面は2面と確認した。

【灰原】6～9号窯跡の各窯跡の灰原の範囲は、平面では明確に区分できず、一塊の2号灰原と捉えた。重複関係については断面観察によって確認した。2号灰原の範囲は長さ7.5m、幅14.5m、厚さ30～50cmである。窯跡の細別8層が2号灰原1層、細別9層が2号灰原3層である（第209図）。本窯跡に伴う灰原は、焚口前面主軸延長上に3.0m確認した。

【出土遺物】丸瓦・軒平瓦・平瓦・土師器・須恵器が出土した。総破片数は335点で、7点を図示した。主な遺物としては、大別2層から均整唐草文軒平瓦、大別3層上面から重弧文軒平瓦・均整唐草文軒平瓦・平瓦・丸瓦を出土しているが、ほとんどは原位置を留めていない。これらの瓦は、焼成部上方のA期床面直上から出土した平瓦を除き、最終操業面であるB期の遺物である。

#### 7号窯跡（S07）（第186～192図・第11表）

【確認状況】調査区北部の南斜面、F・G-23グリッドに位置する。構築面は整地層上面であるが堆積層の上面で確認した。残存状態は、煙出部から焼成部にかけて削平されているが、焼成部から燃焼部、前庭部が原位置をとどめている比較的良好な窯である。他の遺構と直接の重複関係はないが、2号灰原の堆積状態（第209図D～F）から6号窯跡より古いことが認められる。Ⅲ層を床面とし壁、天井をスサ入り粘土で構築している。隣接する窯との間隔は、西側の6号窯跡で2.10m、東側の8号窯跡で2.15mである。

【窯体構造】半地下式無階無段の窯室である。

【規模】残存長5.25m、幅70cm、壁高70cmである。

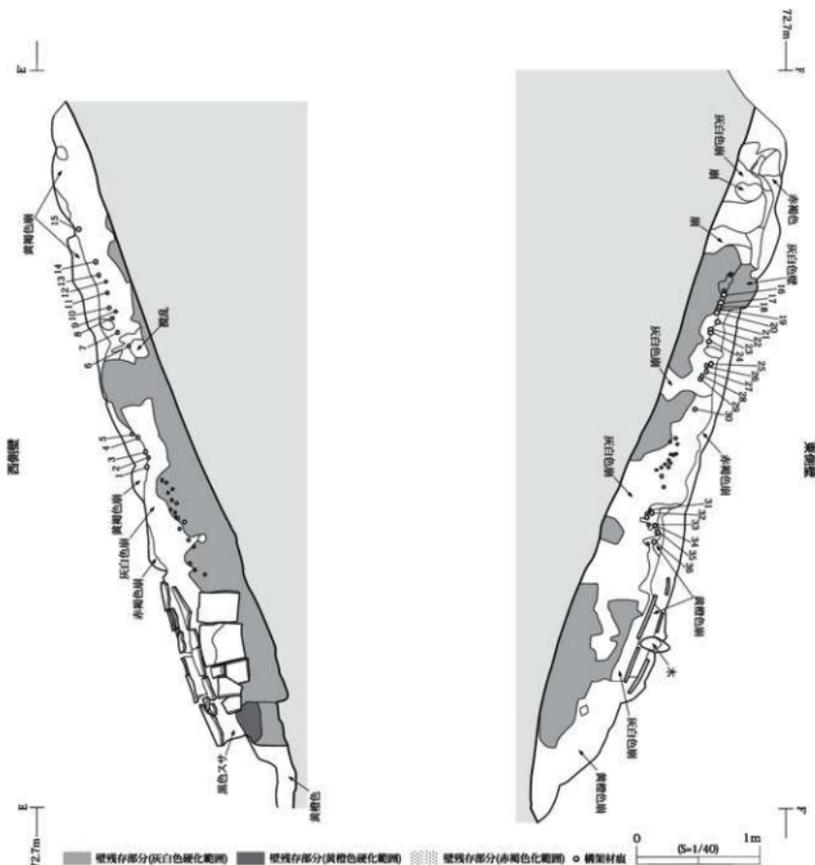
【中軸線の方位】N-13°-E

【操業面数】4面（A期：構築時床面、B期：細別11層上面、C期：細別9層上面、D期：細別6層上面）

【煙出部】削平されて残存していない。

【焼成部】残存長2.95m、最大幅70cm、残存壁高70cmである。A期構築時の床面の平面形は、長方形をしている。床面は4面である。床面は良好に残存し平坦で、22°の角度で傾斜する。壁は、西側のほとんどが崩落しているが、東側の残存状態は良好でスサ入り粘土が見られる。構築材痕は、直径2cmの円形や半円形をした痕跡を37ヶ所検出した（写真27-7～11）。そのうち、円形のものには壁面ではスサ入り粘土を除去した面、半円形のは崩落面上部で認められた。これらは構築材先端の痕跡で、床面の傾斜と平行に並んでいた。壁面からの鉛直角は、38～55°を測る。これらはC期では床面の中に覆われることから、A・B期にともなう構築材とみられる。D期については、天井材が残っていることから構築材の存在は明らかである。B期以降の床面は、焼成部上部ではA期床面と同じ面を床面としており、下部では面を異にしている。その下部では、B期の床面はA期の床面に堆積したスサ入り粘土（細別11層）上面を床面としている。床面には自然釉で融着した瓦が散在していたが、燃焼部



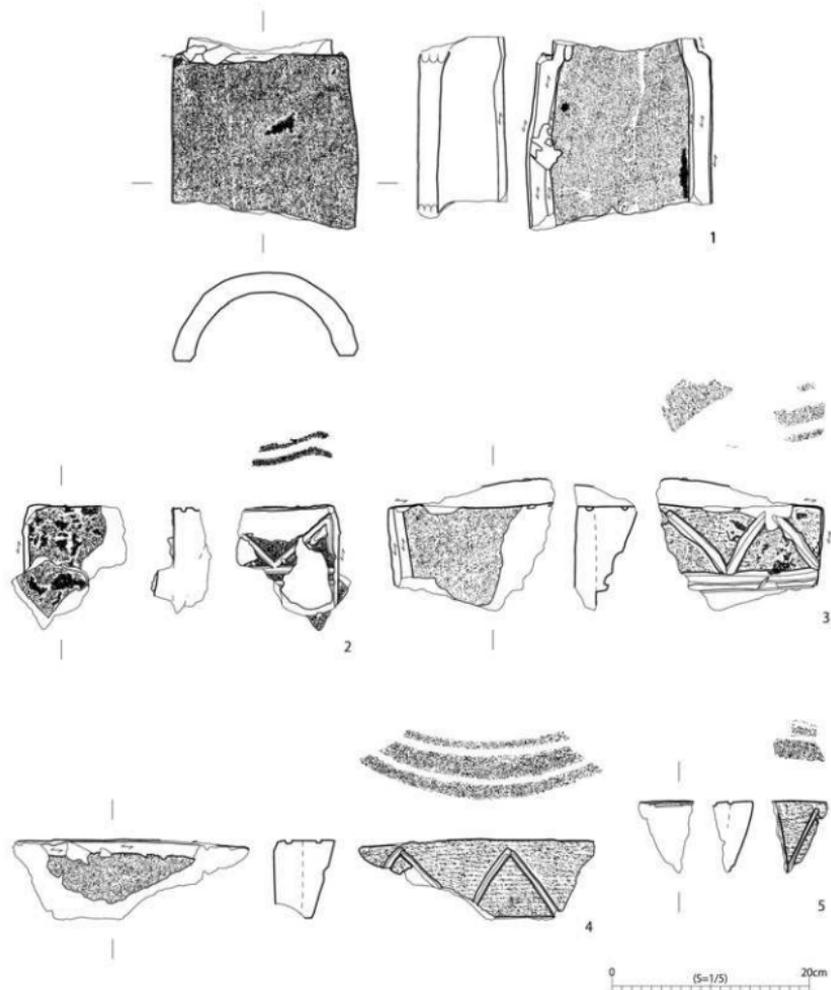


番号	内径 (°)	直径 (mm)	深さ (mm)	形状	先端形	番号	内径 (°)	直径 (mm)	深さ (mm)	形状	先端形
1	38	2.3	7.0	○	-	9	45	1.6	2.5	○	-
2	49	3.0	7.5	○	-	10	45	2.2	3.8	□	-
3	50	2.6	8.4	○	-	11	42	1.0	2.9	□	△
4	50	2.2	6.1	○	-	12	36	1.1	4.0	△	-
5	50	2.3	10.3	○	-	13	48	1.8	2.3	△	-
6	52	2.0	3.1	○	-	14	53	1.8	3.6	□	-
7	48	2.6	4.9	○	-	15	60	1.8	2.3	○	-
8	52	2.4	8.4	○	-						

番号	内径 (°)	直径 (mm)	深さ (mm)	形状	先端形	番号	内径 (°)	直径 (mm)	深さ (mm)	形状	先端形
16	56	3.3	15.2	○	-	27	61	2.0	6.1	○	-
17	44	2.2	6.0	□	-	28	58	2.8	3.9	□	-
18	34	2.5	11.3	○	-	29	64	2.1	7.6	○	-
19	40	2.6	10.3	○	-	30	65	2.3	3.8	○	-
20	49	2.3	7.5	○	-	31	68	4.1	12.2	○	-
21	45	2.1	8.3	○	-	32	62	2.2	9.8	○	-
22	41	2.5	10.2	○	-	33	61	2.6	8.9	○	-
23	50	2.4	9.8	○	-	34	66	2.6	9.8	○	-
24	48	1.4	7.8	○	-	35	65	1.8	12.8	○	-
25	52	3.0	7.3	○	-	36	71	2.4	13.1	○	-
26	55	2.8	9.6	○	-						

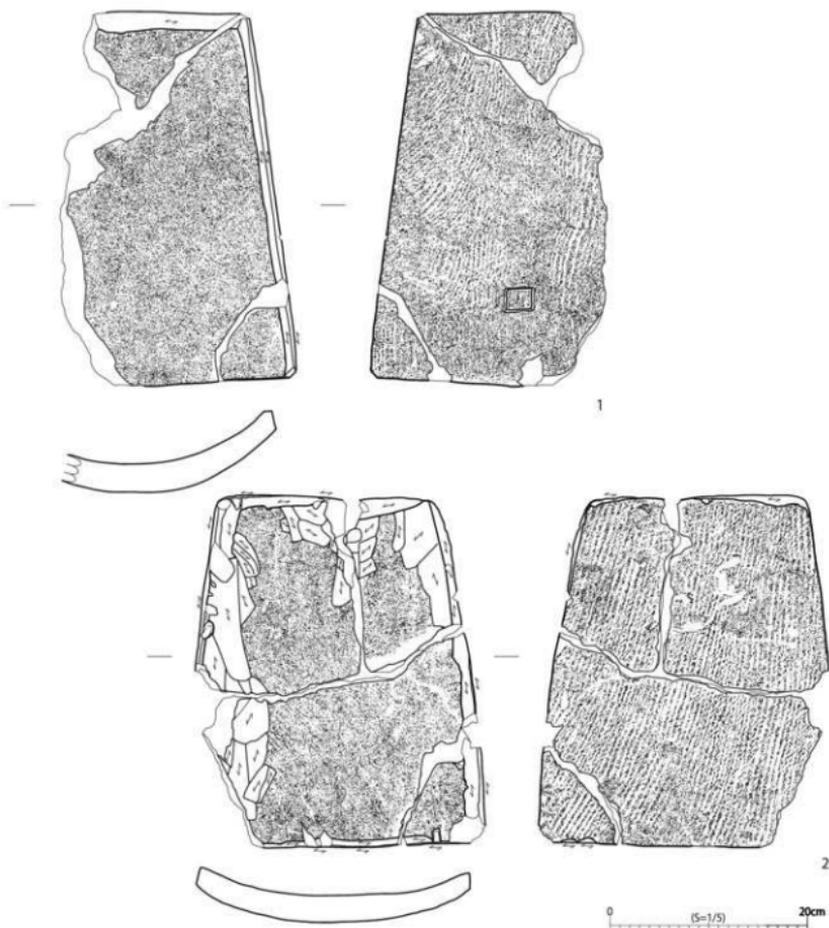
層位	土色	土性	特徴	層位	土色	土性	特徴
1	黒10YR4/4	シルト	植入溝跡層(大層1層) 粘土粒を極少量含む。	8	黒層10YR3/2	シルト	燃料残滓層(大層3層) 燃料の残滓。
2	黒10YR4/4	シルト	築体跡層(大層2層) 天开部積スサを少量含む。	9	黒層10YR5/6	粘土	燃料残滓層(大層3層) 燃料の残滓。スサを含む。
3	黒10YR4/4	シルト	築体跡層(大層2層) 中央部にシルト(灰白-黄褐色)を含む。	10	黒層10YR5/6	粘土	燃料残滓層(大層3層) 築体の残滓。スサを含む。
4	灰白-黄層10YR4/3	シルト	燃料残滓層(大層3層) 築体の残滓。天开部積スサを少量含む。灰化物を少量含む。	11	黒層10YR3/2	シルト	燃料残滓層(大層3層) 燃料の残滓。
5	黒10YR1.7/1	シルト	燃料残滓層(大層3層) 燃料の残滓。灰化物を含む。粘土粒を少量含む。	12	黒層10YR3/2	シルト	燃料残滓層(大層3層) 燃料の残滓。
6	黒10YR4/4	粘土	燃料残滓層(大層3層) 築体の残滓。スサを含む。中央部グライ化。	13	灰白-黒2.5Y6/4	粘土質シルト	敷層 灰化ブロックを少量含む。粘土粒を少量含む。
7	黒10YR5/1	粘土	燃料残滓層(大層3層) 築体の残滓。スサを含む。				

第187図 7号竈跡側面図



番号	遺物名	部位	形状	最大長 [cm]	広幅幅 [cm]	狭幅幅 [cm]	厚さ [cm]	瓦当部 長[cm]	瓦当部 厚さ[cm]	色調	成形・調査 備考	登録 番号	写真 図版
1	7号窯跡 アリッド	6	丸瓦	19.6+ 至1.8	17.1 至14.8	2.4 至	-	-	-	内面：10YR3/1 凸面：10YR4/1	内面：布目織 凸面：糊印キ→ロクナデ→ヘラナデ 肩縁：ヘラケズリ 轡縁	自然釉 床面土着上赤土	F-079 52-3
2	7号窯跡	3	軒平瓦	12.8	9.1	-	2.7	-	-	瓦当部：10YR 4/1 轡部：10YR 6/2 内面：10YR 5/2	瓦当部：ヘラケズリ→ヘラ抜き垂瓦文 轡部：ナデ→ヘラ抜き垂瓦文 内面：平瓦大轡縁のため不明 凸面：轡縁のため不明 肩縁：垂瓦→ヘラケズリ		G-232 52-5
3	7号窯跡	3	軒平瓦	10.5	16.4	-	5.8	-	-	瓦当部：5Y 5/1 轡部：5Y 6/1 内面：2.5Y 5/1 凸面：5Y 5/1	瓦当部：ヘラケズリ→ヘラ抜き垂瓦文 平瓦と轡縁 轡部：糊印キ→ヘラ抜き垂瓦文 内面：布目織→布目織→ナデ 凸面：ナデ		G-233 52-6
4	7号窯跡	3	軒平瓦	8.2	23.6	-	6.1	-	-	瓦当部：2.5Y 4/1 轡部：10YR 4/1 内面：2.5Y 5/1	瓦当部：ヘラケズリ→ヘラ抜き垂瓦文 轡部：糊印キ→ヘラ抜き垂瓦文 内面：布目織→ナデ 肩縁：広幅面→ヘラケズリ		G-234 53-1
5	7号窯跡	1	軒平瓦	7.3	3.4	-	4.0	-	-	瓦当部：N 4/0 轡部：10YR 6/1	瓦当部：ヘラケズリ→ヘラ抜き垂瓦文 轡部：糊印キ→ヘラ抜き垂瓦文		G-235 53-2

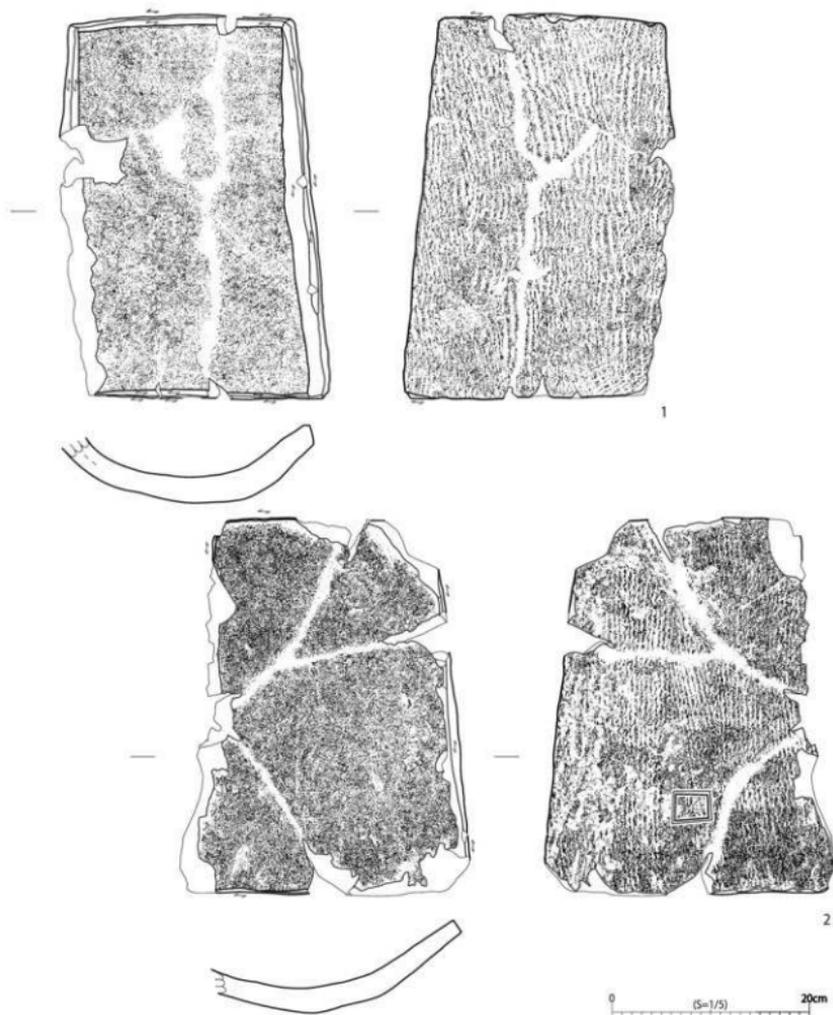
第188図 7号窯跡出土遺物(1)



番号	遺物名 フリット	層位	種類	最大径 (cm)	広径幅 (cm)	狭径幅 (cm)	厚さ (cm)	瓦当面 長さ(cm)	瓦当面 厚さ(cm)	色調	成形・調整 備考	登録 番号	写真 撮影
1	7号窯跡	天井 礫土	平瓦	38.2	17.7	14.9	3.0	-	-	凹面：10YR 5/1 凸面：7.5YR 5/1	凹面：ナデケシ 凸面：陶甲キ→ナデケシ 肩縁：ヘラケズリ	G-236	53.3
2	7号窯跡	天井 礫土	平瓦	36.0	21.0 (30.2)	21.8	3.2	-	-	凹面：10YR 5/1 凸面：10YR 5/1	凹面：鼻切縁→鼻目縁→一帯ヘラケズリ 凸面：鼻切縁→陶甲キ→庄底 肩縁：ヘラケズリ→庄底	G-237	53.4

第189図 7号窯跡出土遺物(2)

この境には焼台とみられる平瓦が横位に2列配されている(写真27.6)。その他の配置は不明である。C期の床面は、燃焼部における堆積層によって区分される。B期床面に部分的に堆積したスサ入り粘土層(細別9・10層)の上面を床面としている。D期床面は、燃焼部がA～C期より大きく上部に移動している。C期の床面から70cmの堆積(細別6～8層)がありその上面を床面としている。天井は側壁上部の皿層からスサ入り粘土で構築され、その一部は形をとどめたまま落下していた(写真27.2)。厚さ8cmである。内面は灰白色硬化し、窯の傾斜方向に対して平行に半截竹管状の構築材の痕跡を検出した(写真27.7)。間隔はほぼ接し、幅3cmである。

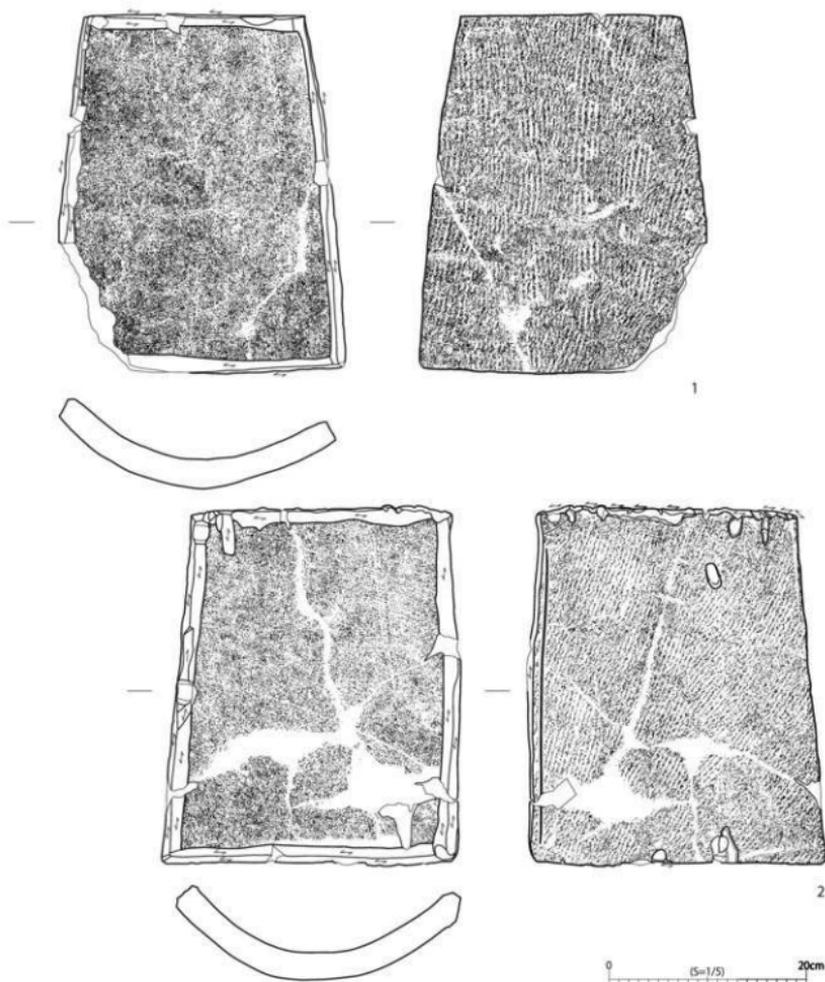


番号	遺物名	部位	種別	最大長 (cm)	広幅幅 (cm)	狭幅幅 (cm)	厚さ (cm)	瓦当面 長(cm)	瓦当面 厚さ(cm)	色調	成形・調査 備考	登録 番号	写真 掲載	
1	7号窯	天井 磁土	平瓦	39.3	23.1 (29.9)	22.4	3.0	-	-	西面：10YR 4/2 凸面：7.5YR 4/2	凸面：黒切面→赤目面→ナダ 凸面：黒切面→黒目面→ヘラツズリ	断面：たたら粘土製り合せ産	G-238	54-1
2	7号窯	天井 磁土	平瓦	38.7	11.5+	16.1+	2.7	-	-	西面：5YR 7/4 凸面：7.5YR 7/3	凸面：黒切面→赤目面→ナダ 凸面：黒切面→黒目面→ヘラツズリ	断面：黒切面→黒目面→ヘラツズリ 凸面：方彫突出	G-239	54-2

第190図 7号窯出土遺物(3)

窯体の断ち割り調査では灰白色硬化(6cm)、黄橙色硬化(10cm)、赤褐色被熱(17cm)の状況を確認した。赤褐色被熱部分の、構築面付近の変色は認められなかった。

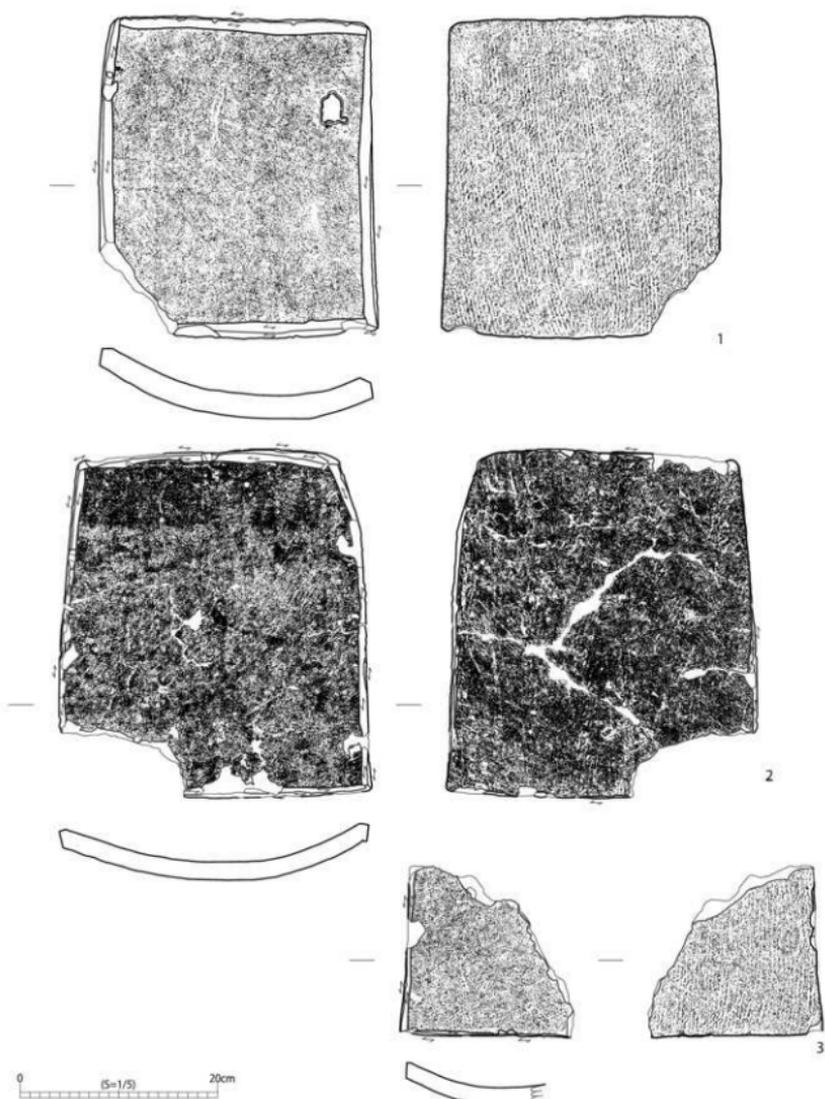
【 燃 焼 部 】 4期を確認した(A～D期)。残存長2.0m、最大幅60cm、残存壁高40cmである。A期の平面



番号	遺構名 グリッド	階位	種類	最大径 (cm)	広さ幅 (cm)	深さ幅 (cm)	厚さ (cm)	瓦当径 長(cm)	瓦当径 厚さ(cm)	色調	形状・調整 備考	発掘 番号	写真 図版	
1	7号溝跡	天井 敷瓦土	平瓦	36.7	21.6 (29.6)	22.3	3.0	-	-	凹面：7.5YR 4/1 凸面：2.5YR 4/4	凹面：ヘラクスリ→ナデ 凸面：磨り金 両縁：ヘラクスリ	G-240	54-3	
2	7号溝跡	9層 上面	平瓦	36.9	29.7	26.3	2.8	-	-	凹面：2.5Y 5/1 凸面：10YR 4/1	凹面：糸切面→毎日瓦 凸面：磨り金→一部ヘラナデ 両縁：ヘラクスリ→瓦風、両端部押収瓦	凹型台座痕 壁縁面材	G-242	55-1

第191図 7号窯跡出土遺物(4)

形は長方形である。床面は良好に残存し凹凸がなく、6°の角度で傾斜する。側壁は、垂直に立ち上がる。被熱状況は、床面、壁面ともに灰白色硬化している。B期の平面形は長方形をしており、A期床面に堆積したスサ入り粘土層（細別11層）を床面としている。A期より15cm高くなっている。被熱状況は灰白色を示している。C期の平面形も長方形で、B期床面に堆積したスサ入粘土（細別9層）上面を床面としている。側壁は、西側壁に平瓦6枚



番号	遺物名	部位	種類	最大径 (cm)	広径幅 (cm)	狭径幅 (cm)	厚さ (cm)	瓦当径長 (cm)	瓦当径厚さ (cm)	色調	成形・調整	備考	登録番号	写真図版	
1	7号窯跡	9層 上面	平瓦	33.1 (28.4)	17.4 (28.4)	25.3	2.6	-	-	内面：10YR 3/2 凸面：10YR 4/1	内面：赤切肌→赤目肌→ナデ 凸面：赤切肌→焼印き→一部ナデ	瓦縁：ヘラケズリ	壁輪縁材	G-241	55-2
2	7号窯跡	大井 縁土	筒切瓦	35.6	18.7 (31.5)	26.3	1.9	-	-	内面：7.5YR 6/2 凸面：10YR 4/1	内面：赤切り肌→赤目肌 焼印 凸面：赤切り肌→焼印き→ナデ	凹型台付直	瓦縁：ヘラケズリ→圧直	H-031	55-3
3	7号窯跡	6	平瓦	17.4*	16.2*	-	1.7	-	-	内面：7.5YR 3/1 凸面：10YR 6/2	内面：赤切肌→赤目肌→ナデ 瓦縁：焼印き	焼印 灰面直上出土	瓦縁：ヘラケズリ→焼印直 凸面：ヘラケズリ1	G-243	56-1 106

第192図 7号窯跡出土遺物(5)

が焚口から奥へと並べ立てられていた(写真26-9)。瓦の背面を、スサ入り粘土によって壁に貼り付けたものである。被熱状況は、灰白色硬化していた。天井は、Ⅲ層からスサ入り粘土と平瓦を交互に重ねて構築されていた(写真26-9、27-4)。被熱状況は黄褐色硬化、赤褐色化していた。D期は、細別6層上面を床面とした最終操業面である。A～C期より大きく上方に移動している。平面形は、長方形で床面は良好に残存している。凹凸がなく平坦で2°の角度で傾斜する。壁は西側が大きく崩落している。東側の残存状態は良好でスサ入り粘土が見られ、壁の内部に2段の構築材痕列を確認している(写真28-2)。

窯体の断ち割り調査では灰白色硬化(6cm)、黄褐色硬化(10cm)、赤褐色化(17cm)の状況を確認した。赤褐色化部分の、構築面付近の変色は見られなかった。天井は側壁上部のⅢ層からスサ入り粘土で構築され、その一部は形をとどめたまま落下していた。厚さ8cmである。内面は灰白色硬化し、窯の傾斜方向に対して平行に半截竹管状の痕跡を検出した。間隔はほぼ倍し、幅3cmである。

【前庭部】側壁が燃焼部から焚口で直角に屈折し、灰原に向かって緩やかに湾曲している。残存長1.0m、最大幅90cm、残存壁高50cmである。床面は燃焼部からわずかに傾斜している。壁面は焚口から屈折した箇所は垂直で、湾曲している両壁は緩やかに立ち上がる。

【堆積層】大別3層、細別13層を確認した。大別1層は少量の焼土粒を含む褐色シルトの流入堆積層、大別2層は多量の焼土粒、天井崩落材を含む褐色スサ入り粘土の窯体崩落層、大別3層はスサ入り粘土と多量の焼土粒を含む暗褐色シルト層の灰原に続く燃料残滓層である。そのうち、細別11層上面がB期の床面である。

【灰原】前庭部の主軸延長上に5.6m確認した。6号窯跡灰原との関係では、6号窯跡細別9層より7号窯跡細別7層が古い(第209図D～F)。8号窯跡との関係は確認されなかった。

【出土遺物】丸瓦・軒丸瓦・平瓦・ロクロ土師器・須恵器が出土した。総破片数387点で、14点を図示した。大別1層から均整唐草文軒平瓦、大別2層から重弧文軒平瓦、大別3層から平瓦、丸瓦が出土している。

#### 8号窯跡(S08)(第193～199図・第11表)

【確認状況】調査区北部の南斜面、F・G-23グリッドに位置する。整地層上面で確認した。残存状態は、煙出部から焼成部にかけて削平を受けているが、焼成部、燃焼部、前庭部が残存する窯である。Ⅲ層を床面とし壁・天井をスサ入り粘土で構築している。他の遺構との重複関係はなく、隣接する窯との間隔は7号窯跡で2.15m、9号窯跡で2.8mである。

【窯体構造】半地下式無階無段の窯である。

【規模】残存長5.3m、幅75cm、壁高40cmである。

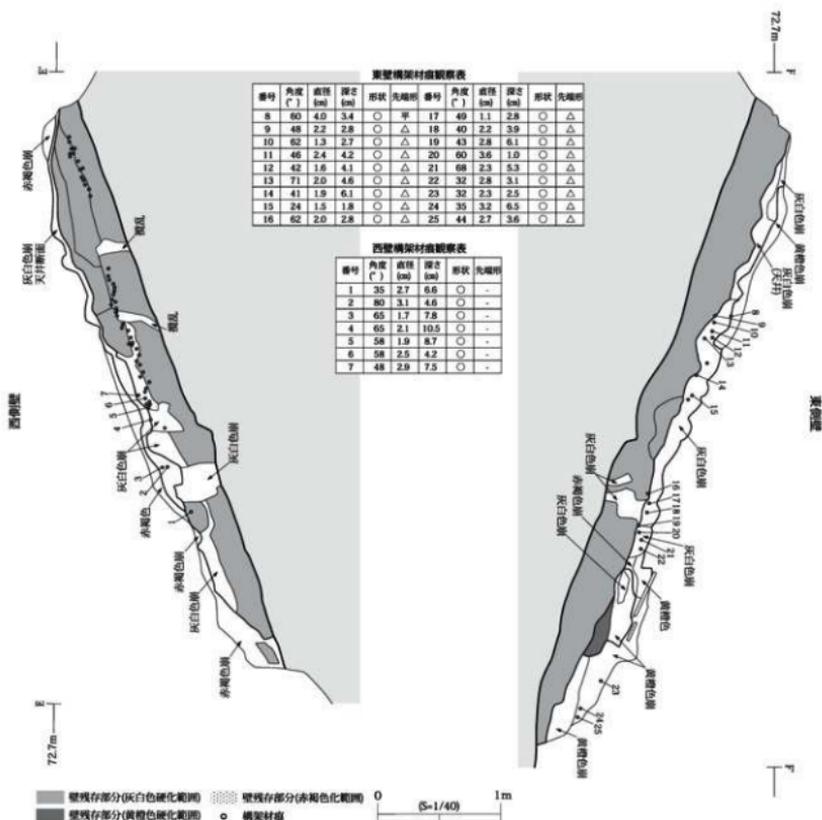
【中軸線の方向】N-12°-E

【操業面数】焼成部で3面、燃焼部で2面(A期:構築時床面、B期:細別8層上面、C期:6層上面)確認した。そのうち燃焼部で見られる面は、焼成部A・B期に対応する面と、C期に対応する面である。これまでの面違いのかさげによる操業面の違いではなく、側壁の修復による造り替えの面である。

【煙出部】削平されて残存していない。

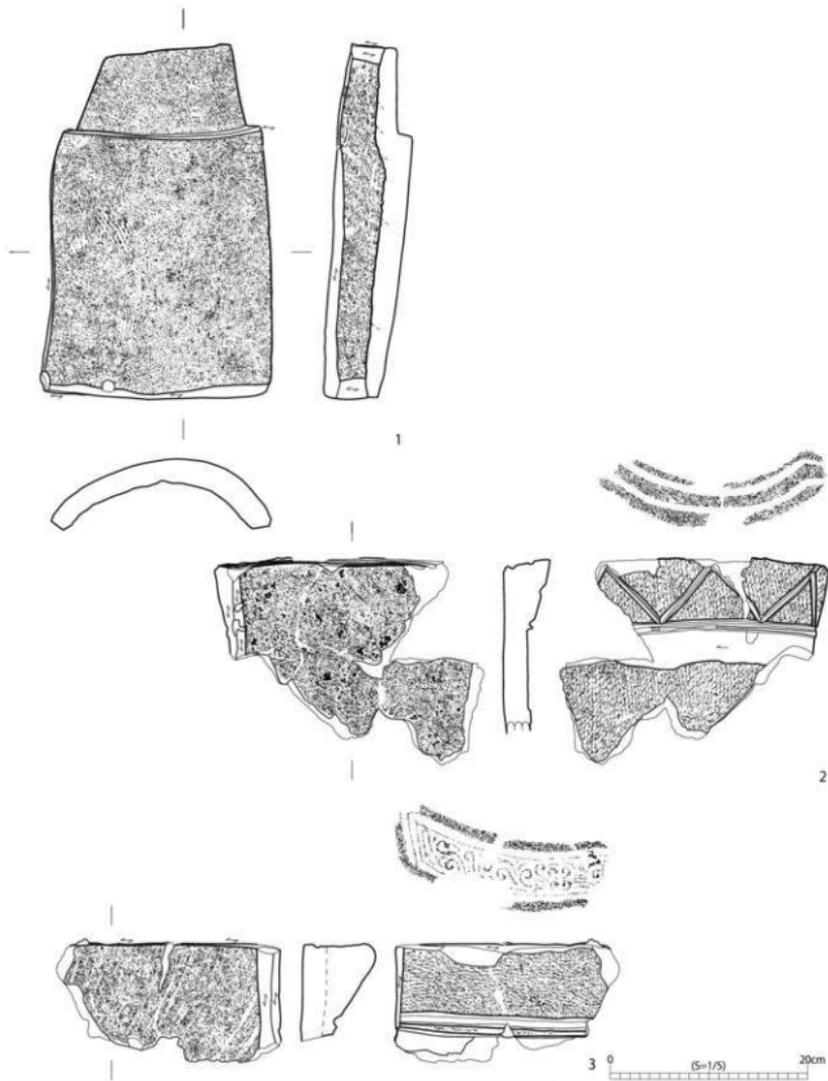
【焼成部】残存長3.6m、最大幅75cm、残存壁高40cmである。A期の平面形は、長方形である。床面は攪乱による凹凸がある。21°の角度で傾斜する。B期床面の平面形も長方形である。A期の床面に堆積するスサ入り粘土上面である。上面には自然軸で融着した瓦がみられ、その多くが散在していたが、横位に並ぶ平瓦は、焼台と考えられる(写真29-2)。16°の角度で傾斜する。C期の床面はB期の床面上に粘土を貼ったもので、上面には燃料残滓層の黒色シルト層が堆積している。21°の角度で傾斜する。側壁は燃焼部に近いところでは垂直に立ち上がるが、煙出部に向かうに従い上部が開いている。





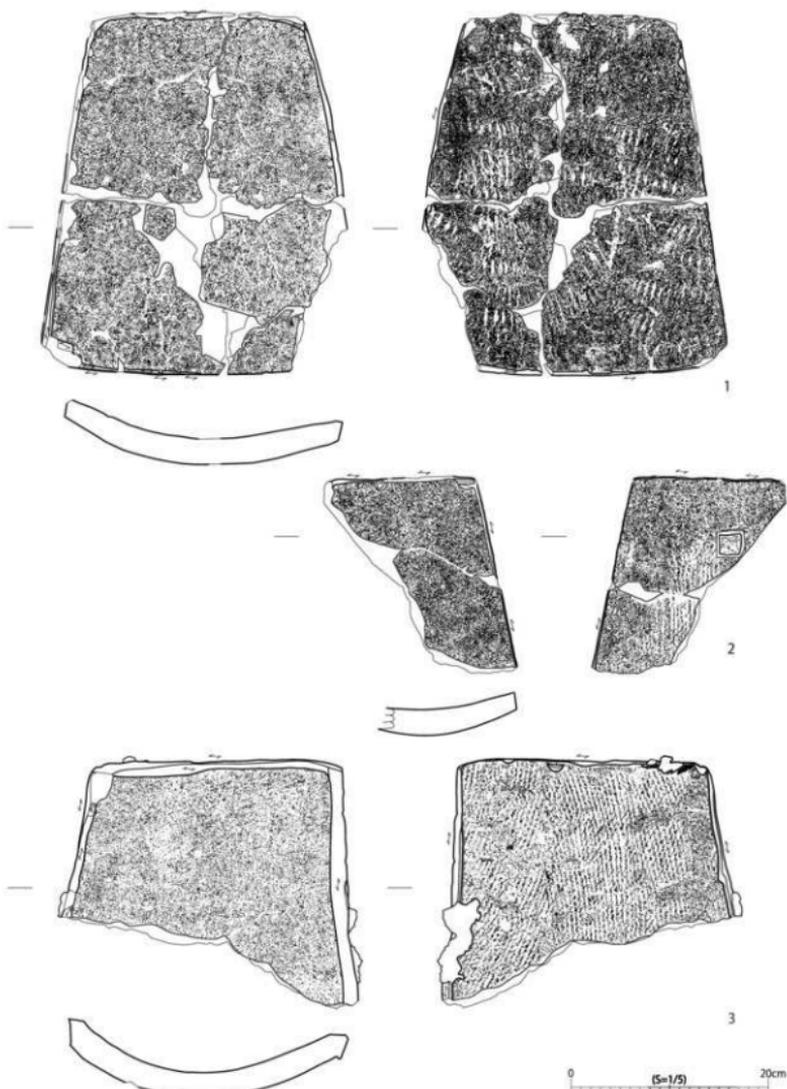
第194図 8号窯跡側面図

構架材の痕跡は、そのほとんどが壁のスサ入粘土に覆われ、それらを除去した面で、直径2～3cmの円形の小穴が2列に並んだ状態で60ヶ所検出した(写真29.6～9)。壁面に痕跡を残す構架材痕に対して、それらと直行する構架材痕・窯斜面に対して並行な構架材痕がみられたが、これらは天井部の構架材の下部である。天井部は、架構されたままの状態を確認した(写真28.7、29.3・4)。天井部はⅢ層からスサ入り粘土を積み、その内側に側壁から繋がる窯斜面に対して平行な構架材の痕跡が認められた。西側壁上部に、指ナデの痕跡を確認した(写真29.5)。



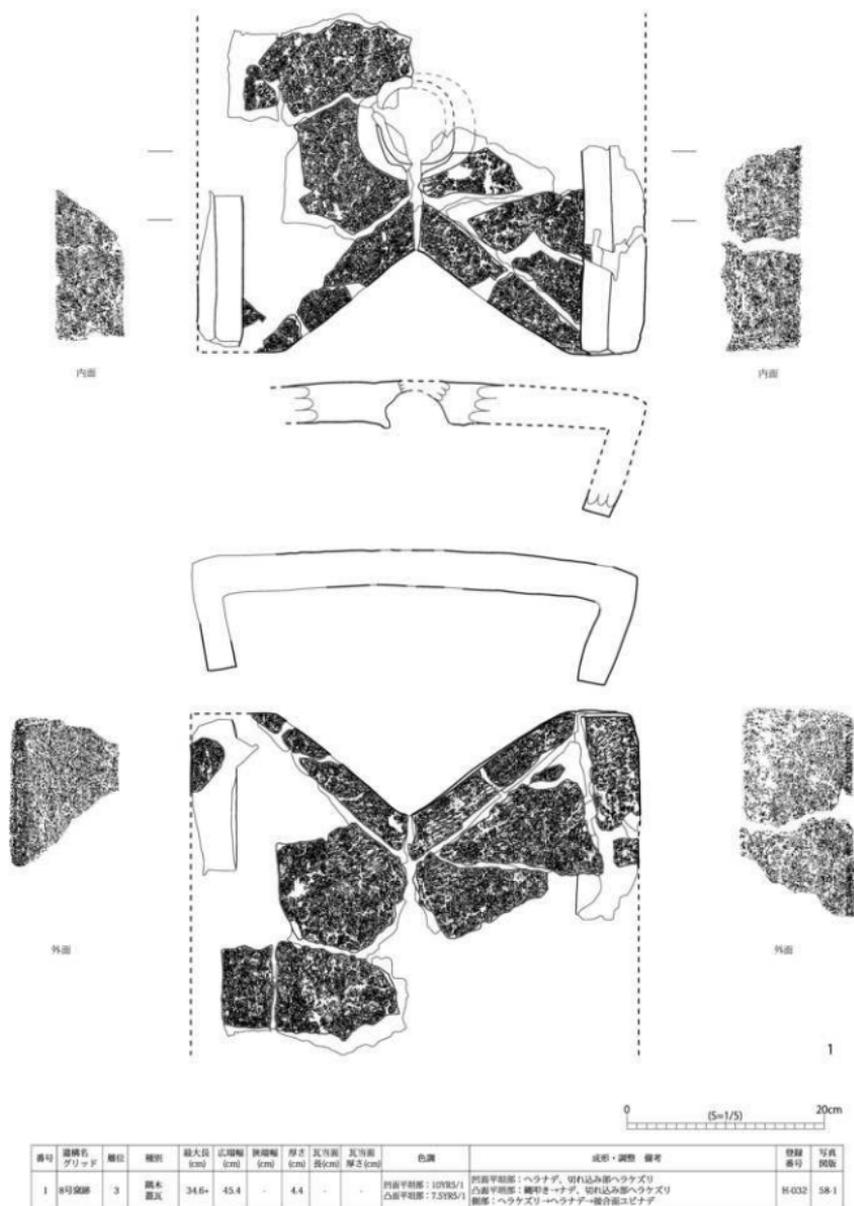
番号	遺物名	層位	種類	最大径 (cm)	広口幅 (cm)	胴幅 (cm)	厚さ (cm)	瓦当面 径(cm)	瓦当面 厚さ(cm)	色調	成形・調査 備考	発掘 番号	写真 番号			
1	8号陶器	3	丸瓦	36.3 39.2	22.5 21.7.2	20.1 21.2.5	2.7 2.1	-	-	片面：5Y 4/1 凸面：5Y 5/1	片面：粘土結晶→布目肌→ナデ 凸面：刷毛キ→ロクロナデ 埋線：ヘラケズリ	床前面上出土	F-080	56-2		
2	8号陶器	3	軒平瓦	12.9+	22.7+	-	2.3	4.7	-	瓦当面：N 6/0 断面：N 5/0 凸面：N 5/0 凸面：刷毛キ	瓦当面：ヘラケズリ→ヘラケズリ 断面：刷毛キ→ヘラケズリ 凸面：布目肌 埋線 凸面：刷毛キ→ヘラケズリ	埋線：側面ヘラケズリ	床前面上出土	G-244	56-4	
3	8号陶器	3	軒平瓦	12.1+	21.2+	-	-	6.9	-	瓦当面：10YR 4/1 断面：10YR 4/1 凸面：2.5Y 5/1 凸面：10R 3/1	瓦当面：滑 断面：刷毛キ→ヘラケズリ 凸面：刷毛キ→布目肌 凸面：刷毛キ→ナデ	埋線：側面ヘラケズリ 凸面：刷毛キ→ヘラケズリ 埋線：側面ヘラケズリ	均整草文横溝 全面磨着	床前面上出土	G-245	56-3

第195図 8号窯跡出土遺物(1)



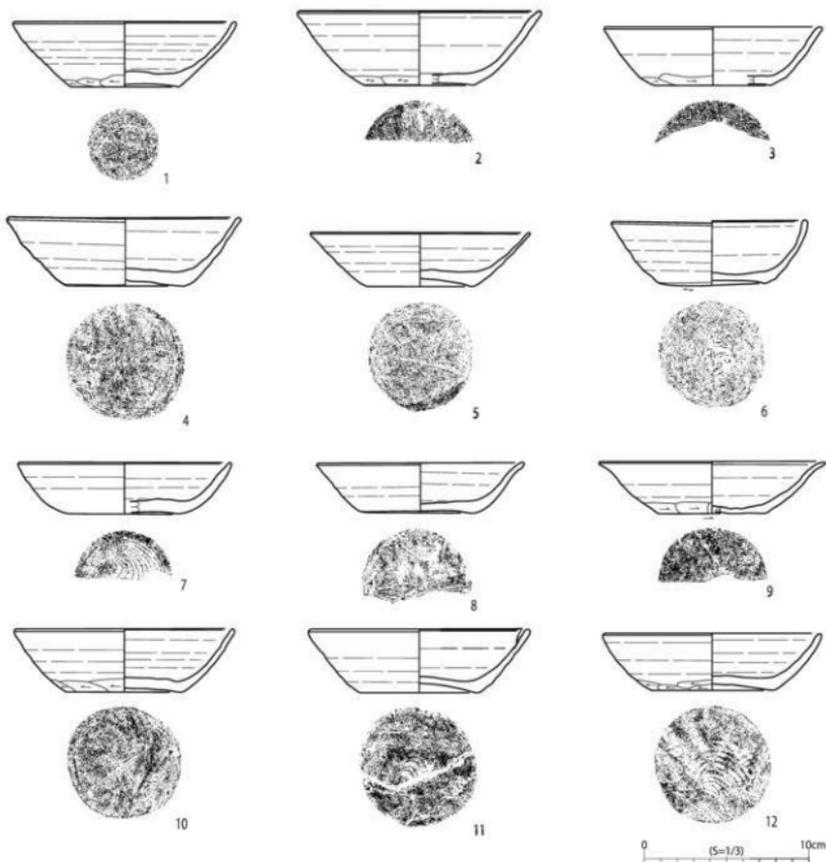
番号	遺構名 アソッド	層位	種類	最大径 (cm)	広径幅 (cm)	狭径幅 (cm)	厚さ (cm)	瓦当面 長さ(cm)	瓦当面 厚さ(cm)	色調	成形・調整 備考	登録 番号	写真 掲載
1	8号穴跡	天井 跡上	平瓦	37.0	22.3 (32.0)	20.9 (21.3)	2.4	-	-	凹面：10R 5/2 凸面：10R 5/2	凹面：ナダケシ 凸面：糸切眼→縄印き→ナデ 両縁：ヘラケズリ	G-246	57-1
2	8号穴跡	5	平瓦	12.1	-	15.3	2.6	-	-	凹面：5YR 4/2 凸面：5Y 4/2	凹面：ナデ 凸面：縄印き→ナデ 断層：側面・狭径面ヘラケズリ→狭径面3線 断面：たたら粘土貼り合付板 凸面：方形窪出	G-247	57-2
3	8号穴跡	5	平瓦	25.8	-	25.4	2.8	-	-	凹面：10YR 4/1 凸面：10YR 3/1	凹面：糸切眼→布目磨 自然釉 凸面：糸切眼→縄印き 両縁：側面・狭径面ヘラケズリ 磨削	G-248	56-5

第196図 8号窯跡出土遺物(2)



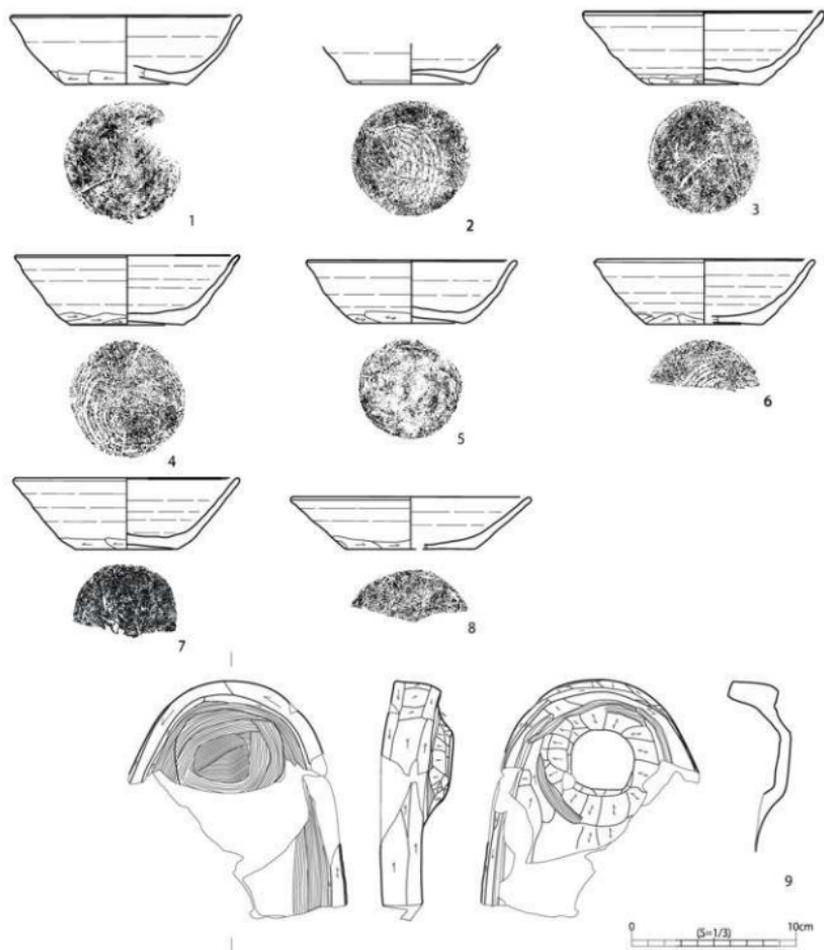
番号	遺物名	層位	種類	最大径 (cm)	口径幅 (cm)	胴径幅 (cm)	厚さ (cm)	瓦当径 長(cm)	瓦当径 厚さ(cm)	色調	成形・調整 備考	登録 番号	写真 図説
1	8号窯跡	3	陶土 瓦片	34.6	45.4	-	4.4	-	-	内面平明部：1D9K5/1 凸部平明部：7.3D95/1	内面平明部：ヘラナデ、切れ込み部ヘラケズリ 凸部平明部：轆轤キナデ、切れ込み部ヘラケズリ 胴部：ヘラケズリ→ヘラナデ→接合面エビナデ	H-032	58-1

第197図 8号窯跡出土遺物(3)



番号	遺物名 フリッド	類別	形状 説明	口径 径(cm)	底径 径(cm)	高さ 径(cm)	高さ 径(cm)	色調	成形・調整	備考	出土 層位	写真 番号
1	8号窯跡	3	築造跡 球	(13.3)	6.5	4.0	-	外底: NS/D 内底: NS/D	外底: ロクロナデ→下端手持ヘラケズリ 内底: ロクロナデ	底面: 切り磨し不明→手持ヘラケズリ 底面: ヘラ書き「×」×2 床面直上出土	E-030	57-4
2	8号窯跡	3	築造跡 球	(14.4)	6.6	4.0	-	外底: 10R5/I 内底: 10R5/I	外底: ロクロナデ→下端手持ヘラケズリ →手持ヘラケズリ 内底: ロクロナデ	底面: 切り磨し不明 床面直上出土	E-031	57-5
3	8号窯跡	3	築造跡 球	(13.0)	(7.0)	3.6	-	外底: 7.5YR5/1 内底: 7.5YR5/1	外底: ロクロナデ→下端手持ヘラケズリ 内底: ロクロナデ	底面: 切り磨し不明→手持ヘラケズリ 床面直上出土	E-032	57-6
4	8号窯跡	3	築造跡 球	14.0	7.0	4.2	-	外底: 5Y7/1 内底: 5Y7/1	外底: ロクロナデ 内底: ロクロナデ	底面: 切り磨し不明→手持ヘラケズリ 底面: ヘラ書き「×」×2 床面直上出土	E-033	57-7
5	8号窯跡	3	築造跡 球	(13.2)	6.3	3.3	-	外底: 3A/0 内底: 3A/0	外底: ロクロナデ 内底: ロクロナデ	底面: 回転糸切り→手持ヘラケズリ 底面: ヘラ書き「×」×2 床面直上出土	E-034	57-8
6	8号窯跡	3	築造跡 球	11.7	6.4	4.0	-	外底: 7.5YR5/1 内底: 7.5YR5/1	外底: ロクロナデ→下端手持ヘラケズリ 内底: ロクロナデ	底面: 切り磨し不明→手持ヘラケズリ 底面: ヘラ書き「×」 床面直上出土	E-035	57-9
7	8号窯跡	3	築造跡 球	(12.8)	6.6	3.2	-	外底: 7.5YR5/1 内底: 7.5YR5/1	外底: ロクロナデ 内底: ロクロナデ	底面: 回転糸切り→一手ナデ 床面直上出土	E-036	57-10
8	8号窯跡	3	築造跡 球	12.4	6.5	3.1	-	外底: 10R5/I 内底: 10R5/I	外底: ロクロナデ 内底: ロクロナデ	底面: 切り磨し不明→ヘラケズリ 床面直上出土	E-037	57-11
9	8号窯跡	3	築造跡 球	13.6	6.6	3.2	-	外底: 10R5/I 内底: 10R5/I	外底: ロクロナデ→下端手持ヘラケズリ 内底: ロクロナデ	底面: 切り磨し不明→手持ヘラケズリ 床面直上出土	E-038	57-12
10	8号窯跡	3	築造跡 球	(13.2)	7.0	3.9	-	外底: 10YR5/1 内底: 10YR5/1	外底: ロクロナデ→下端手持ヘラケズリ 内底: ロクロナデ	底面: 回転糸切り→手持ヘラケズリ 底面: ヘラ書き「×」 床面直上出土	E-039	57-13
11	8号窯跡	3	築造跡 球	(13.6)	7.2	3.9	-	外底: 10YR7/3 内底: 10YR7/3	外底: ロクロナデ 内底: ロクロナデ	底面: 回転糸切り→手持ヘラケズリ 底面: ヘラ書き「×」 床面直上出土	E-040	57-14
12	8号窯跡	3	築造跡 球	(13.0)	7.3	3.5	-	外底: 10YR7/2 内底: 10YR7/2	外底: ロクロナデ→下端手持ヘラケズリ 内底: ロクロナデ	底面: 回転糸切り→手持ヘラケズリ 底面: ヘラ書き「×」 床面直上出土	E-041	57-15

第198図 8号窯跡出土遺物(4)



番号	遺物名 グループ	部位	形状 説明	口径 径2(cm)	底径 径1(cm)	器高 厚1(cm)	径さ 径	色調	形状・調整 備考	登録 番号	写真 掲載
1	8号遺跡	3	築造跡 坪	(13.8)	(7.4)	4.2	-	外底: 10YR6/1 内底: 10YR6/1	外底: ロクロナデ+下層手押ヘラケズリ 底底: 切り磨し不明+手押ちヘラケズリ 内底: ロクロナデ	E-042	57-16
2	8号遺跡	3	築造跡 坪	-	7.2	(2.3)	-	外底: 2.5YR/1 内底: 2.5YR/3	外底: ロクロナデ+下層手押ヘラケズリ 底底: 斜削み切り+手押ちヘラケズリ 内底: ロクロナデ	E-043	57-17
3	8号遺跡	5	築造跡 坪	(14.4)	6.8	4.5	-	外底: 7.5YR6/3 内底: 7.5YR6/3	外底: ロクロナデ+下層手押ヘラケズリ 底底: 切り磨し不明+手押ちヘラケズリ 内底: ロクロナデ	E-044	57-18
4	8号遺跡	5	築造跡 坪	(13.5)	(7.0)	4.3	-	外底: 10YR7/2 内底: 10YR7/2	外底: ロクロナデ+下層手押ヘラケズリ 底底: 斜削み切り+手押ちヘラケズリ 内底: ロクロナデ	E-045	57-19
5	8号遺跡	5	築造跡 坪	(12.4)	6.4	3.9	-	外底: N5/0 内底: N5/0	外底: ロクロナデ+下層手押ヘラケズリ 底底: 切り磨し不明+手押ちヘラケズリ 内底: ロクロナデ	E-046	57-20
6	8号遺跡	1	築造跡 坪	(13.2)	(7.0)	4.0	-	外底: 7.5YR7/3 内底: 10YR6/3	外底: ロクロナデ+下層手押ヘラケズリ 底底: 斜削み切り+手押ちヘラケズリ 内底: ロクロナデ	E-047	57-21
7	8号遺跡	1	築造跡 坪	(13.6)	6.2	4.4	-	内底: 10YR6/2 内底: 0YR6/2	外底: ロクロナデ+下層手押ヘラケズリ 底底: 切り磨し不明+手押ちヘラケズリ 内底: ロクロナデ	E-048	57-22
8	8号遺跡	1	築造跡 坪	(14.2)	(7.8)	3.2	-	外底: 7.5YR6/1 内底: 7.5YR6/1	外底: ロクロナデ+下層手押ヘラケズリ 底底: 切り磨し不明+手押ちヘラケズリ 内底: ロクロナデ	E-049	57-23
9	8号遺跡	1	築造跡 礎	(14.7)	(13.4)	4.5	-	外底: N5/0 内底: N5/0	断面: ナデ, 底縁ナデ+ヘラケズリ 脚部: ヘラケズリ+ナデ 内底: ナデ, ヘラケズリ, 枕	E-050	57-3

第199図 8号窯跡出土遺物(5)

被熱状況は、床面、側壁、天井とも灰白色硬化している。窯体の断ち割り調査では灰白色硬化(8cm)、黄褐色硬化(8cm)、赤褐色化(12cm)の状況を確認した。赤褐色被熱部分の構築面付近の変色は見られなかった。

【**燃 焼 部**】 床面、壁面とも2面(A期・B期)である。残存長1.7m、最大幅65cm、残存壁高40cmである。A期の平面形は、長方形である。床面は良好に残存しており、6°の角度で傾斜する。C期は中心を西に移しているため、東側壁はA期の堆積層を壁としている(写真28-10)。3°の角度で傾斜する。

被熱状況は、床面は灰白色硬化・黄褐色硬化・赤褐色化しており、壁面は灰白色硬化、上方は黄褐色硬化している。窯体断ち割り調査では、燃焼部で黄褐色硬化5cm、赤褐色化12cmの状況を確認した。構築材痕は焚口付近と焼成部境で10ヶ所確認した。

【**前 庭 部**】 西側は掘乱で不明であるが、残存する東側では、側壁が燃焼部から焚口で大きく屈折し、灰原に向かって緩やかに開いている。残存長80cm、残存幅80cm、残存壁高45cmである。床面は燃焼部よりわずかに低い。壁面はほぼ垂直に立ち上がる形状である。

【**堆 積 層**】 大別3層、細別15層を確認した。大別1層にはふい黄褐色シルトの流入堆積層、大別2層は暗褐色シルトの窯体前落層、大別3層にはふい黄褐色スサ入り粘土を含む、暗褐色シルトの燃料残滓層である。

【**灰 原**】 前庭部の中軸線の延長上に6.4mに確認した2号灰原である。窯前面に掘乱があり連続していないが、2層に分層できる。1層は炭化物粒・焼土粒を含む黒褐色シルト、2層が炭化物粒・焼土粒を含む黒色シルトである。

【**出土 遺 物**】 丸瓦・軒平瓦・平瓦・隅木蓋瓦・土師器・須恵器・硯が出土した。総破片数は978点で、28点図示した。出土層位は、大別1層から須恵器環、大別2層から丸瓦・重弧文軒平瓦・均整唐草文軒平瓦・方形突出のある平瓦・平瓦・隅木蓋瓦・須恵器環、大別3層から丸瓦・重弁蓮華文軒平瓦・平瓦・須恵器環・風字硯が出土している。それらの遺物のほとんどが原位置をとどめていない。

#### 9号窯跡(S09) (第200～205図・第11表)

【**確 認 状 況**】 調査区北部の南斜面、F・G-24グリッド、蟹沢地区西地点検出窯跡群の東端に位置する。構築面は整地層であるが、窯跡群を覆うⅡ層下面の窯跡群周辺にのみ存在する窯跡内流入堆積土に近似する堆積層の上面で確認している。残存状態は悪く、煙出部から焼成部にかけて削平を受け、焼成部、燃焼部の一部は後世の掘乱によって削平されている。焼成部、燃焼部、前庭部が残存する。Ⅲ層を床面とし壁・天井をスサ入り粘土で構築している。他の遺構との重複関係はない。西側に隣接する8号窯跡との間隔は2.8mである。

【**窯 体 構 造**】 半地下式無階無段の窯室である。

【**規 模**】 残存長5.05m、幅75cm、壁高50cmである。

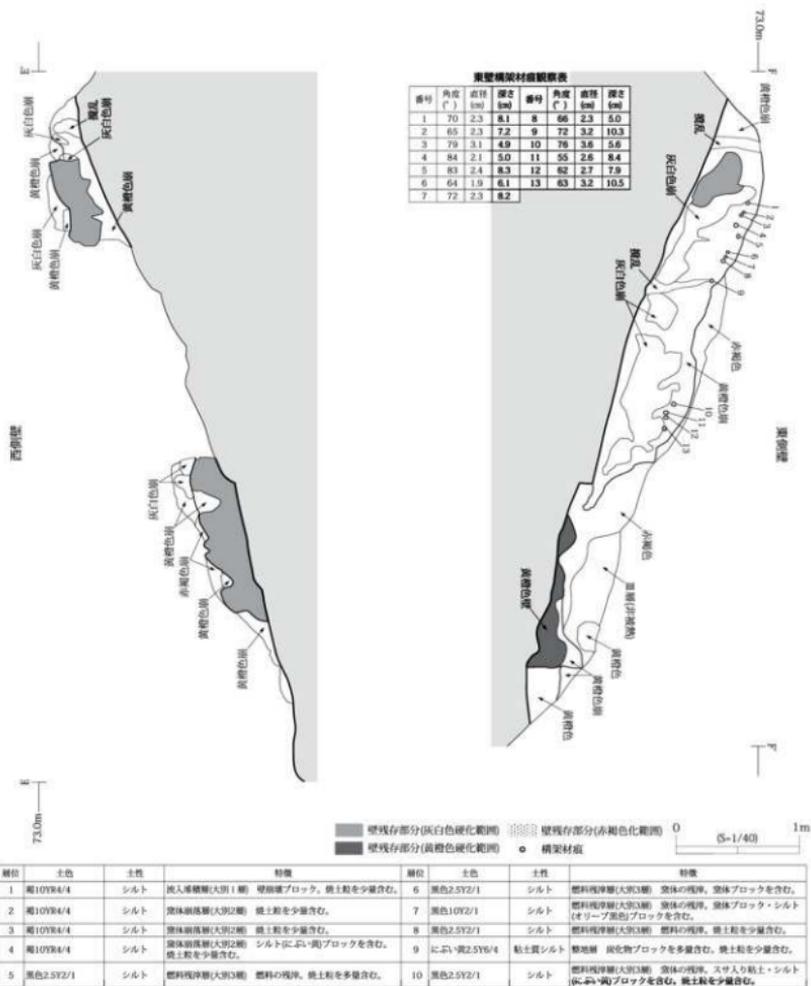
【**中 軸 線 の 方 向**】 N-5°-E

【**操 業 面**】 操業面は床面では2面、焼成部では天井の架け替えの残存痕から3面。

【**煙 出 部**】 削平されて残存していない。

【**焼 成 部**】 残存長2.6m、最大幅65cm、残存壁高50cmである。平面形は、東側下部で広がる長方形である。床面は良好に残存し、中央が凹んでいる。24°の角度で傾斜する。燃焼部との境界は床面の削平により明確ではない。上方の床面直上で多数の瓦を確認した。融着しているものが多いことから焼台と考えられるが、散在し、配列等は確認できなかった(写真30-5)。壁面は、西側は垂直に立ち上がり、東側では内傾している。両壁面とも剥離・崩落しているが、スサ入り粘土の貼り替えの痕跡を確認した。内側から灰白色硬化、赤褐色化している。操業による被熱の変化とみられ、2度の貼り替えが認められたことから、3面の操業面を確認した。構築材痕は、東側壁で直径2～3cmの円形の痕跡を列状に11ヶ所を検出した(写真30-7)。天井部は、西側壁上部、Ⅲ層にスサ入り粘土が





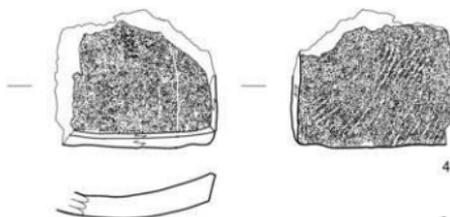
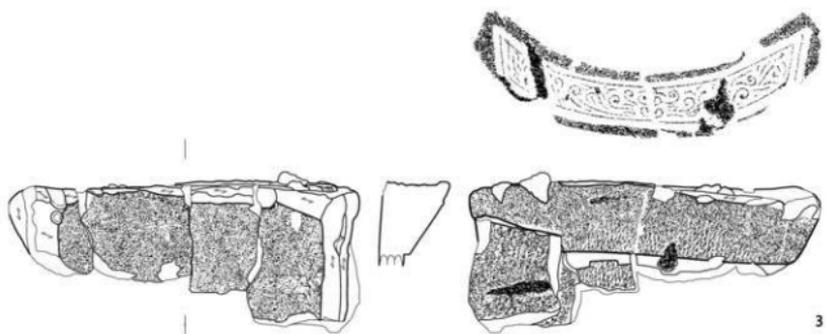
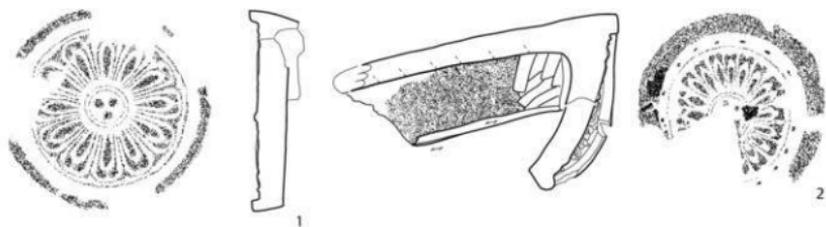
第201図 9号築跡側面図

わずかに残存していた。

被熱状況は、床面は赤褐色化し、側壁はスサ入り粘土の貼り替え毎に赤褐色化、灰白色硬化を繰り返していた。

窯体の断ち割り調査では灰白色硬化(4cm)、黄褐色硬化(7cm)、赤褐色化(10cm)の状況を確認した。赤褐色化部分の、構築面の変色は見られなかった。

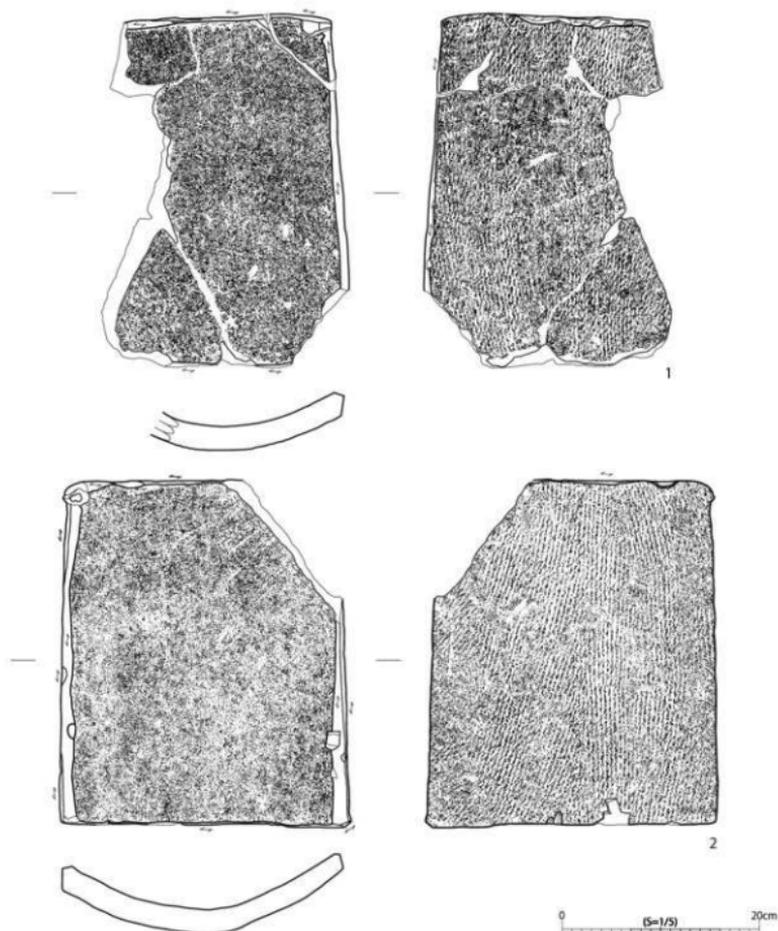
【 燃 焼 部 】 残存長2.45m、最大幅75cm、残存壁高50cmである。A期床面の平面形は、焚口に向かってやや狭まる長方形をしている。床面は焼成部との境が削平されているが、中央が凹んでいる。13°の角度で傾斜する。壁は垂直に立ち上がる。被熱状況は、床面、側面とも黄褐色硬化している。B期床面の平面形は、A期と同様の平面形で、A期床面に整地によってわずかにかさ上げされている。16°の角度で傾斜する。整地層は被熱しておらず、



0 (S=1/5) 20cm

番号	遺物名 ブリード	層位	種類	最大径 (cm)	広径幅 (cm)	狭径幅 (cm)	厚さ (cm)	瓦当径 (cm)	瓦当厚 (cm)	色調	成形・調整 備考	登録 番号	写真 図版	
1	9号窯跡	3	軒丸瓦	5.0+	-	-	-	20.4	3.3	瓦当面表：2.5VR 4/1 瓦当面裏：2.5VR 5/1	瓦当面表：肌 瓦当面裏：ナデ 残縁：ヘラナデ	灰面直上出土	F-081	59-1
2	9号窯跡	1	軒丸瓦	29.5+	-	-	2.3	17.9	3.4	瓦当面表：10VR 6/1 瓦当面裏：10VR 6/1 凸面：N 4/D 凸面：N 4/D	瓦当面表：肌 織葺 瓦当面裏：ヘラケズリ→ナデ 凸面：糸切直→市目直→シビナデ 凸面：ヘラナデ 織葺 残縁：顔面ヘラケズリ 剥離面：キザミズ直		F-082	59-2
3	9号窯跡	4	軒平瓦	11.4+	35.5	-	2.5	6.4	-	瓦当面：N 4/D 裏面：10VR 5/1 凸面：10VR 5/1 凸面：10VR 5/1	瓦当面：筋 織葺 裏面：織甲ミ→ナデ→上端ヘラケズリ 平瓦と織葺 凸面：糸切直→市目直→ナデ 織葺 凸面：織甲ミ→ナデ 残縁：顔面ヘラケズリ		C-249	59-4
4	9号窯跡	4	平瓦	14.1+	14.7+	-	2.6	-	-	凸面：10VR 5/1 凸面：7.5VR 5/1	凸面：糸切直→ナデ 織葺 凸面：織甲ミ 残縁：顔面・広高面ヘラケズリ 断面：粘土和泥り合せ、接合面糸切り直		G-250	59-3

第202図 9号窯跡出土遺物(1)



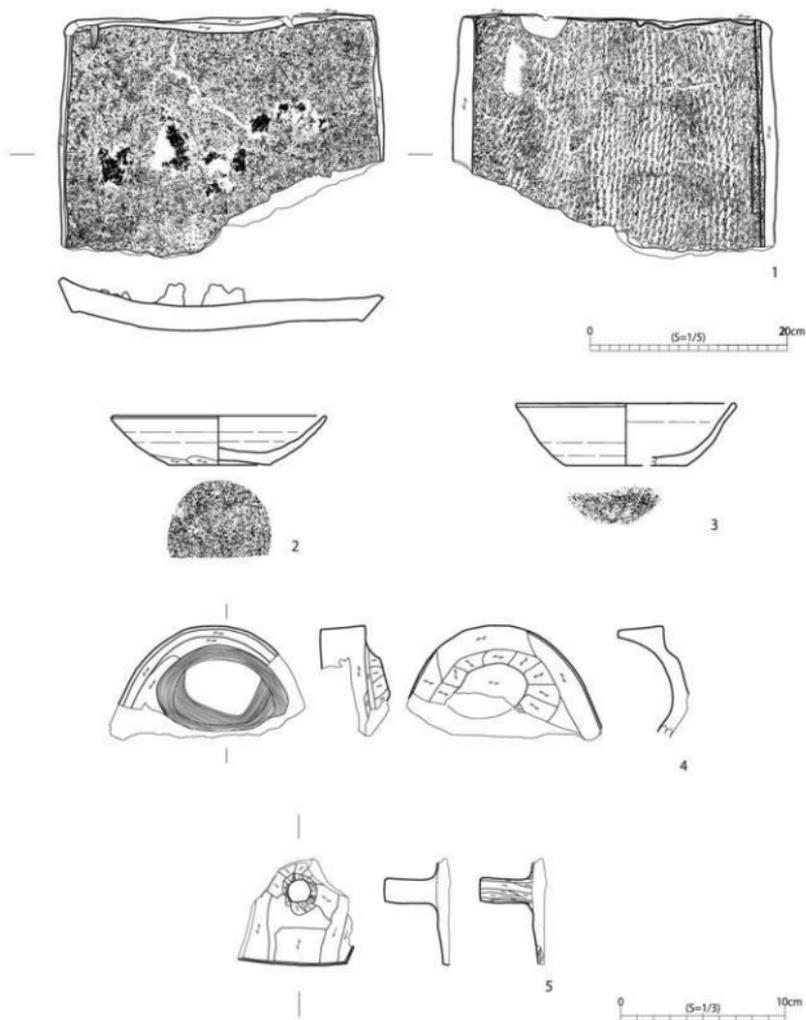
番号	遺構名 グリッド	層位	種類	最大長 (cm)	広幅幅 (cm)	狭幅幅 (cm)	厚さ (cm)	瓦当面 長さ(cm)	瓦当面 厚さ(cm)	色調	成分・調査 備考	登録 番号	写真 撮影
1	9号窯跡	3	平瓦	36.1	12.4	21.1+	2.5	-	-	内面：2.5V4/1 凸面：3YR4/1	内面：赤切り漆→赤目土→ナダクシ 凸面：黒印を 黒線：ヘラケズリ→鉄線刷り痕	G-251	59-5
2	9号窯跡	3	平瓦	35.5	29.2	18.8 (27.5)	2.5	-	-	内面：7.5YR 5/1 凸面：N 5/0	内面：赤切面→赤目土→ナダクシ 黒線：ヘラケズリ→圧痕	G-252	60-1

第203図 9号窯跡出土遺物(2)

A期燃料残滓層を覆っていた。

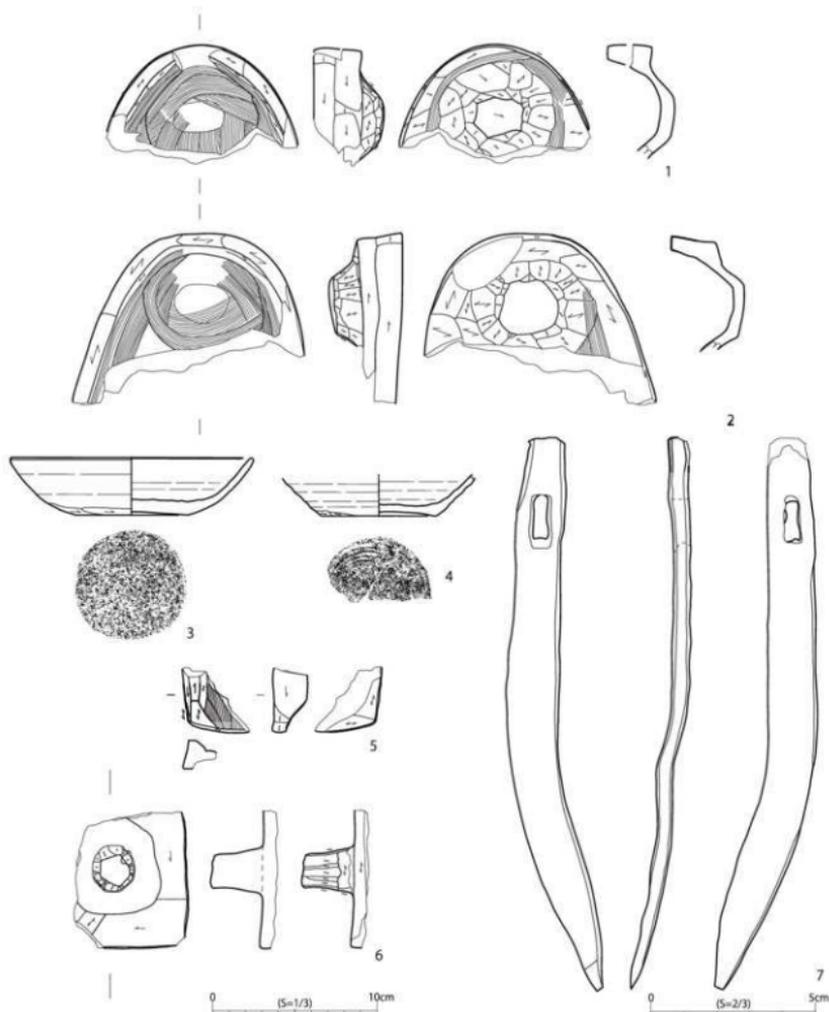
窯体の断ち割り調査では灰白色硬化（層厚2cm）、赤褐色化（8cm）の状況を確認した。赤褐色化部分の上部的変化は見られなかった。

【前庭部】西側は掘乱で不明であるが、残存する東側では側壁が燃焼部から焚口で緩やかに開き、灰原に向かっている。残存長90cm、残存幅1.05m、残存壁高40cmである。床面は、焚口との境で低く段が付き、壁面はほぼ垂直に屈曲して立ち上がる。



番号	遺構名 ブリード	層位	種類	最大長 (cm)	広幅幅 (cm)	狭幅幅 (cm)	厚さ (cm)	瓦当面 長(cm)	瓦当面 厚さ(cm)	色調	形状・調整 備考	登録 番号	写真 図説
1	9号窯跡	1	平瓦	25.0	-	30.2	2.5	-	-	内面: 2.5YR 4/1 外面: 10YR 3/1	内面: 糸切痕 自然釉 凸面: 輪印痕 凹面: 凹印痕 調整: 側面・狭幅部ヘラケズリ→狭幅部圧着 全面自然釉 調整と調整	G-253	60-2
番号	遺構名 ブリード	層位	種類	口径 長さ(cm)	底径 幅(cm)	器高 厚さ(cm)	底さ (g)	色調		形状・調整 備考	登録 番号	写真 図説	
2	9号窯跡	3	須恵器 杯	(12.8)	6.2	3.0	-	外面: 10YR6/2 内面: 10YR6/2	内面: ロケロナデ→下唇付ヘラケズリ 内面: ロケロナデ 底面: 切り難し不明→下唇付ヘラケズリ	底面直上出土	E-051	60-7	
3	9号窯跡	3	須恵器 杯	(13.2)	(7.4)	3.8	-	外面: NS/0 内面: NS/0	外面: ロケロナデ 底面: 切り難し不明→ヘラナデ	底面直上出土	E-052	60-5	
4	9号窯跡	3	須恵器 壺	(7.0)	(11.8)	4.3	-	外面: 5R4/1 内面: 10R4/1	外面: ヘラケズリ→ナデ 調整: ヘラケズリ 内面: ヘラケズリ	底面直上出土	E-053	60-3	
5	9号窯跡	3	須恵器 壺	(6.6)	(7.1)	(4.0)	-	外面: 10R4/1 内面: 文眼	外面: 文眼 調整: ヘラケズリ 内面: ヘラケズリ→蓋ナデ	底面直上出土	E-054	60-12	

第204図 9号窯跡出土遺物(3)



番号	遺物名	群位	種別 形状	口径 長さ(mm)	直径 幅(mm)	高さ 厚(mm)	長さ 径	色澤	成形・調整	備考	登録 番号	写真 掲載
1	9号窯跡	3	瓦器器 底	(7.3)	(11.6)	4.1	-	外面: 5YR4/1 内面: 5YR4/1	外面: ヘラケズリ→ナデ 内面: ヘラケズリ	断面: ヘラケズリ→両縁ナデ	E-055	60-6
2	9号窯跡	3	瓦器器 底	(10.5)	(14.1)	4.5	-	外面: 10R5/1 内面: 10R5/1	外面: ヘラケズリ→ナデ 内面: ヘラケズリ	断面: ヘラケズリ	E-056	60-9
3	9号窯跡	2・3	瓦器器 底	(14.5)	6.8	3.5	-	外面: 10YR7/2 内面: 10YR7/2	外面: ロクロナデ→下縁ナデ 内面: ロクロナデ	断面: 切り廻し不明→下縁ナデ	E-057	60-8
4	9号窯跡	3	瓦器器 底	-	(7.0)	(2.6)	-	外面: 7.5YR5/2 内面: 7.5YR5/2	外面: ロクロナデ→下縁ナデ 内面: ロクロナデ	断面: 両縁面ナデ→ナデ	E-058	60-4
5	9号窯跡	3	瓦器器 底	(4.0)	(4.1)	(1.8)	-	外面: N5/0 内面: N5/0	外面: ナデ 内面: ヘラケズリ	断面: ナデ	E-059	60-10
6	9号窯跡	3	瓦器器 底	(6.4)	(6.5)	(4.1)	-	外面: N5/0 内面: 火肌	外面: 実履 内面: ヘラケズリ→両縁ナデ	断面: 両縁面ナデ→ナデ	E-060	60-13
7	9号窯跡	3	金属製品 不明	17.0	1.6	0.7	64.3	-	上部に長方形の孔あり		N-001	60-11

第205図 9号窯跡出土遺物(4)

【堆積層】大別3層、細別10層を確認した。大別1層は焼土粒を含む褐色シルトの流入堆積層、大別2層は天井崩落ブロックを含む褐色シルトの窯体崩落層、大別3層は主に炭化物粒を含む黒色シルトの燃料残滓層である。

【灰原】前庭部の主軸延長上に7.25m確認した。重複関係はなく、2層に分層できる。1層は焼土粒を含む黒色シルト、2層は炭化物ブロック・焼土粒を含むにぶい黄色シルトである。

【出土遺物】軒丸瓦・丸瓦・軒平瓦・平瓦・須恵器・硯・金属製品が出土した。総破片数は427点で、8点を図示した。出土層位は、大別1層から細弁蓮華文軒丸瓦、大別2層から細弁蓮華文軒丸瓦・平瓦・風字硯・須恵器環・金属製品、大別3層から平瓦が出土している。

## 灰原

1～5号窯跡までの灰原は、地滑りによって崩落しており、これらを1号灰原とした。1号灰原は地滑りの状態によって3分類できる。1号灰原aは地滑りによって移動したもので、地滑りによって開いた空間（滑落崖）に落ちた灰原a1と、地滑りによって大きく移動した土層a2に分けられる。1号灰原bは、大きく移動した土層a2の土塊に覆われた灰原で、地滑りによって移動していない灰原である。また、灰原a1・bについては窯跡内燃料残滓層と一体をなす堆積で、狭義における灰原とみなせるが、地滑りによって大きく移動した土層a2については窯跡内燃料残滓層とは異なる土層とともに廃棄された瓦類が出土している。これを踏まえて狭義の灰原を1号灰原a＝灰原a1・1号灰原b＝灰原bとした。地滑りによる堆積層＝地滑りによって大きく移動した土層a2として表示した。

### 1号灰原a (SQ1a) (第206～208・210～213図)

調査区中央部の南斜面、G・H-21・22グリッドに位置する。東西17.6m、南北10.3mの黒色シルトの範囲である。1～6号窯跡の灰原が地滑りにより崩落し、滑落崖に堆積したものである。堆積土は焼土粒、炭化物粒を含む黒褐色シルトである。遺物は、軒丸瓦・丸瓦・軒平瓦・平瓦・隅切瓦・ロクロ成形の土師器・須恵器・硯・石器が出土した。総破片数は2,513点で、17点を図示した。1層から重弁蓮華文軒丸瓦・均整唐草文軒平瓦・重弧文軒平瓦・隅切瓦・風字硯、2層から重弁蓮華文軒平瓦・均整唐草文軒平瓦・重弧文軒平瓦・隅切瓦・平瓦方形突出・風字硯が出土している。

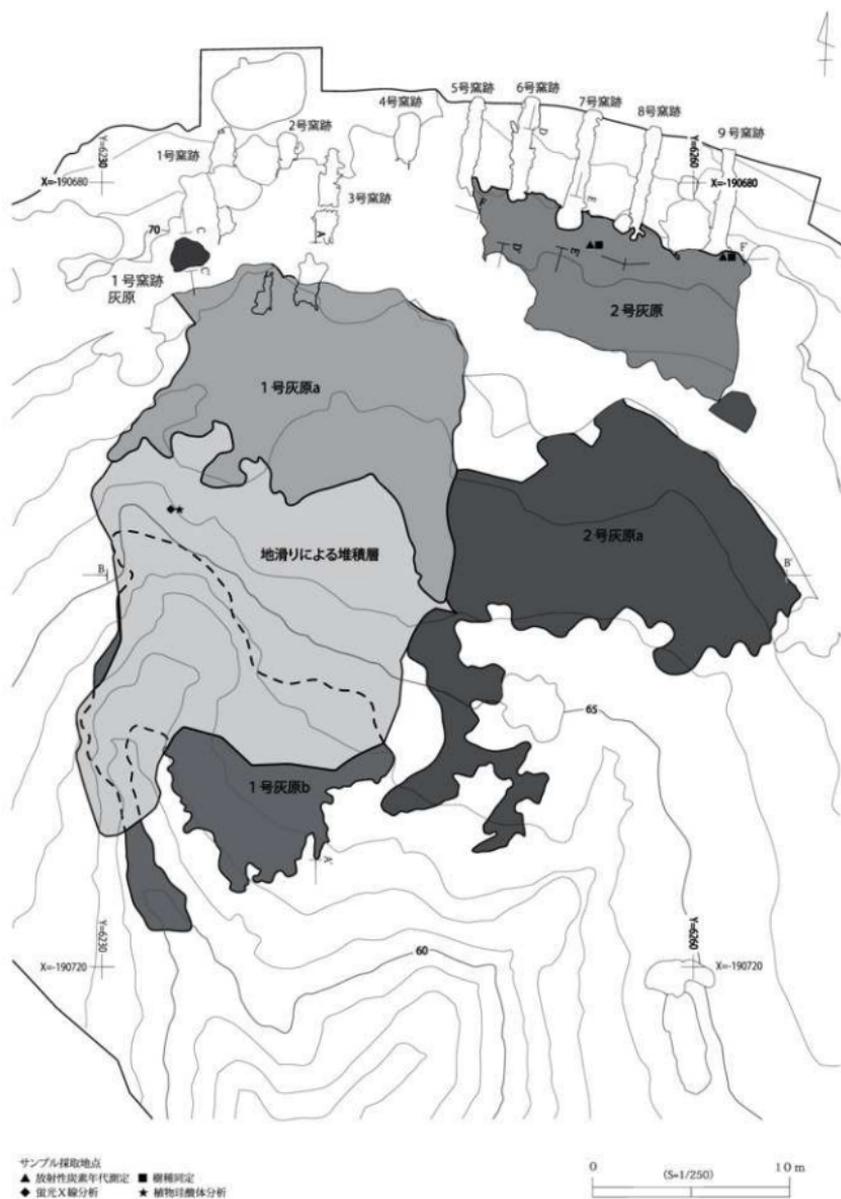
### 1号灰原b (SQ1b) (第206・207・214～217図)

調査区の中央部、G・H-21・22グリッドで確認した東西20.4m、南北14.9mの黒色シルトの範囲である。堆積土は多量の遺物と炭化物粒を含む黒褐色シルト層である。遺物は、軒丸瓦・丸瓦・軒平瓦・平瓦・隅切瓦・ロクロ成形の土師器・須恵器が出土した。総破片数は943点で、14点を図示した。1層から重弁蓮華文軒丸瓦・細弁蓮華文軒丸瓦・重弧文軒平瓦・均整唐草文軒平瓦・隅切瓦・平瓦・須恵器環が出土している。

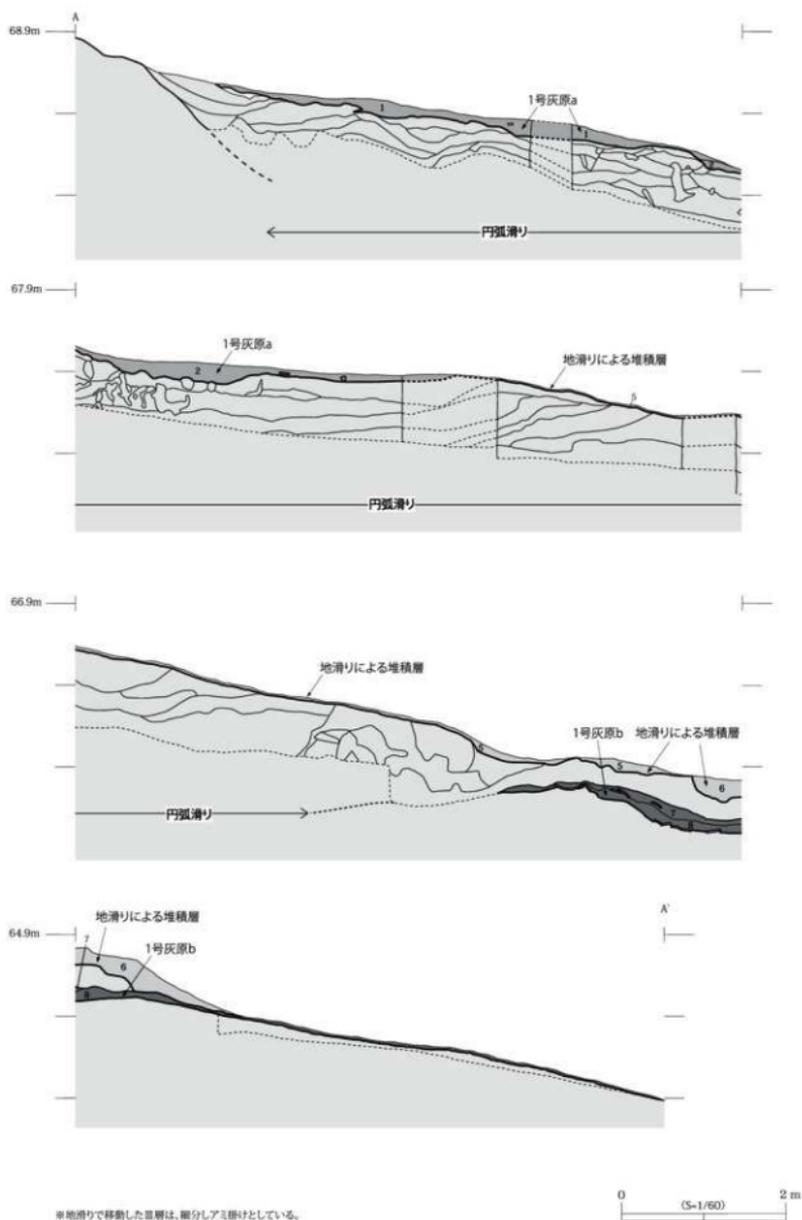
### 地滑りによる堆積層 (第206～208・218～222図)

調査区の中央部、H-21・22グリッドで確認した東西23.0m、南北12.0mのにぶい黄褐色～明黄褐色シルトの範囲である。Ⅲ層の地滑りに由来した堆積層とみられ、1号灰原bを覆う層である。

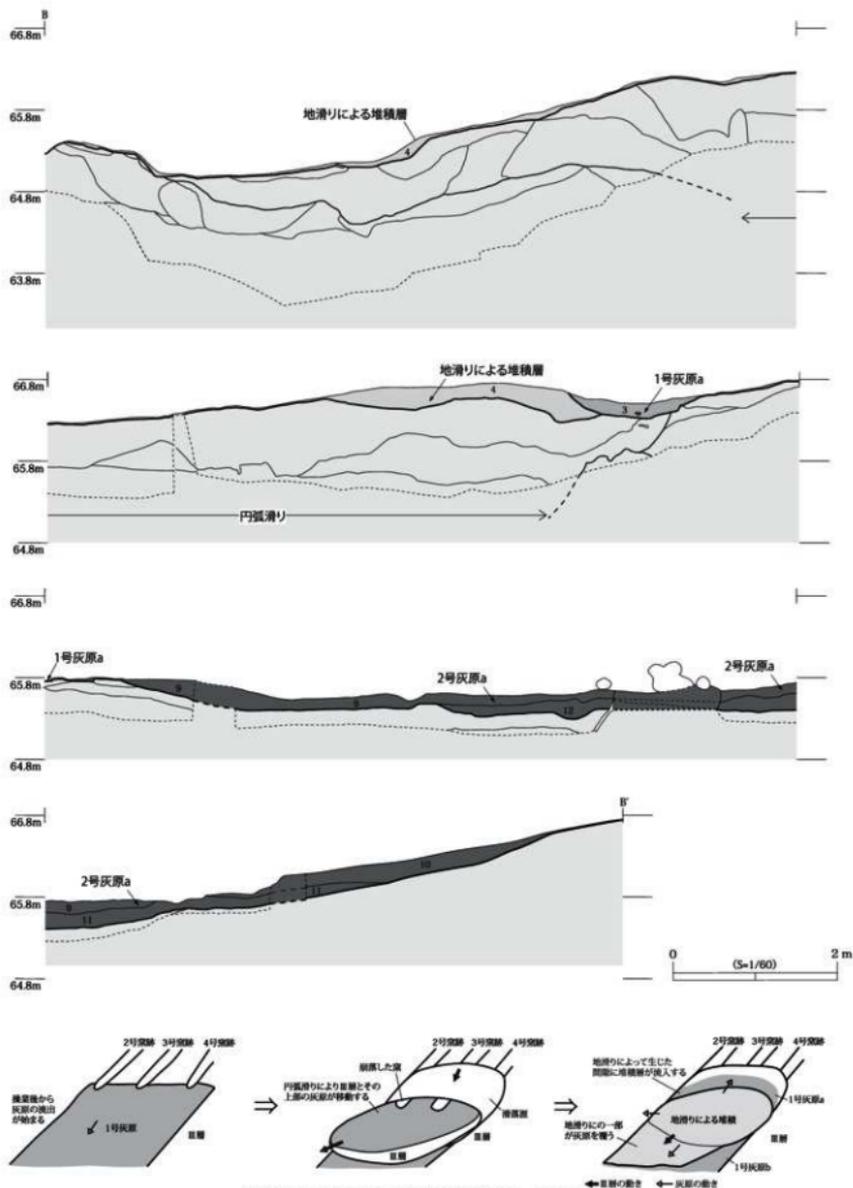
堆積土は2層に分層できる。北半では、にぶい黄褐色でシルトで、南半部では明褐色シルトがみられる。遺物は、軒丸瓦・丸瓦・軒平瓦・平瓦・ロクロ成形の土師器・須恵器・硯・石器が出土した。総破片数は1,099点で、19点を図示した。出土層位は、1層から重弁蓮華文軒丸瓦・細弁蓮華文軒丸瓦・重弧文軒平瓦・均整唐草文軒平瓦・隅切瓦・へら書き「下」平瓦・平瓦、丸瓦・風字硯が出土している。そのうち、細弁蓮華文軒丸瓦の1点は、水切り瓦である。



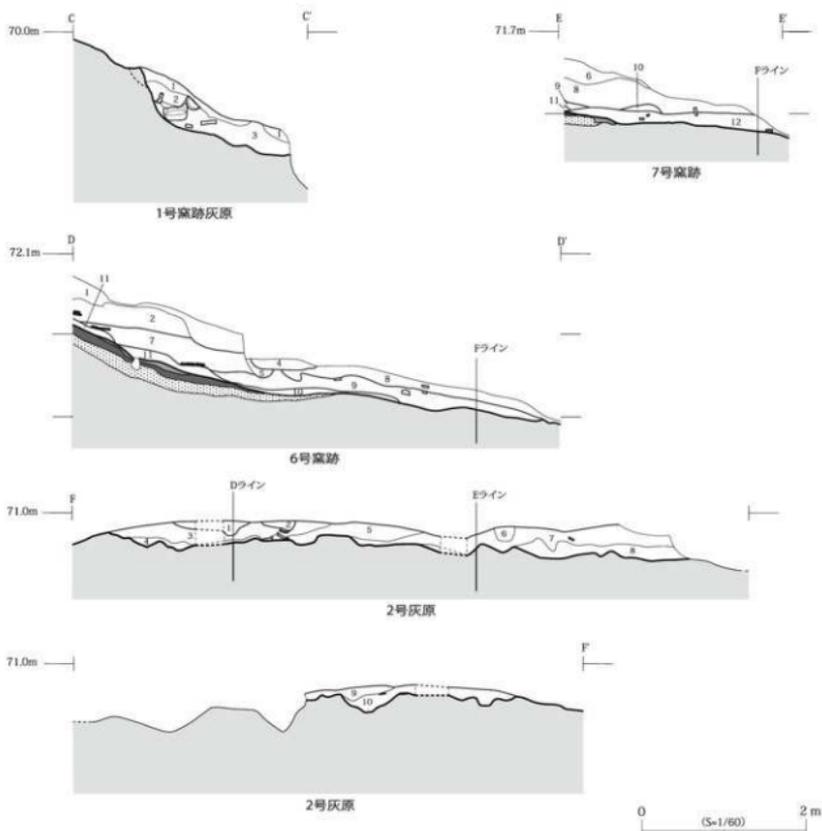
第206図 1・2号灰原平面図



第207図 1号灰原a・b、地滑り土層断面図



第208図 1号灰原a・b、2号灰原a・地滑り土層断面図



1号灰原a・b、地溜りによる堆積層、2号灰原a(第207・208図)

層位	土色	土性	特徴	層位	土色	土性	特徴
1	黒褐7.5YR3/1	シルト	炭化物ブロックを多量含む。腐炭質ブロック・下部に焼土ブロックを少量含む。	7	にぶい褐7.5YR5/3	砂質シルト	明炭褐色土を多量含む。
2	黒褐7.5YR3/1	シルト	炭化物ブロックを多量含む。腐炭質ブロック・下部に焼土ブロックを少量含む。	8	にぶい赤褐色10YR5/3	砂質シルト	炭化物ブロックを少量含む。焼土粒を微量含む。
3	黒褐10YR2/1	シルト	炭化物ブロックを多量含む。焼土粒を少量含む。	9	暗褐10YR3/3	砂質シルト	炭化物粒を少量含む。焼土粒を微量含む。
4	にぶい赤褐10YR5/3	砂質シルト	炭化物ブロックを多量含む。焼土粒を少量含む。	10	暗褐10YR3/3	砂質シルト	腐炭質粒を少量含む。炭化物粒・焼土粒を微量含む。
5	明褐10YR7/6	砂質シルト	腐炭質ブロックを少量含む。	11	にぶい赤褐5YR5/4	砂質シルト	炭化物粒を少量含む。焼土粒を微量含む。
6	明褐10YR7/6	砂質シルト	腐炭質ブロックを少量含む。	12	暗褐10YR3/3	砂質シルト	焼土粒を少量含む。炭化物粒を微量含む。

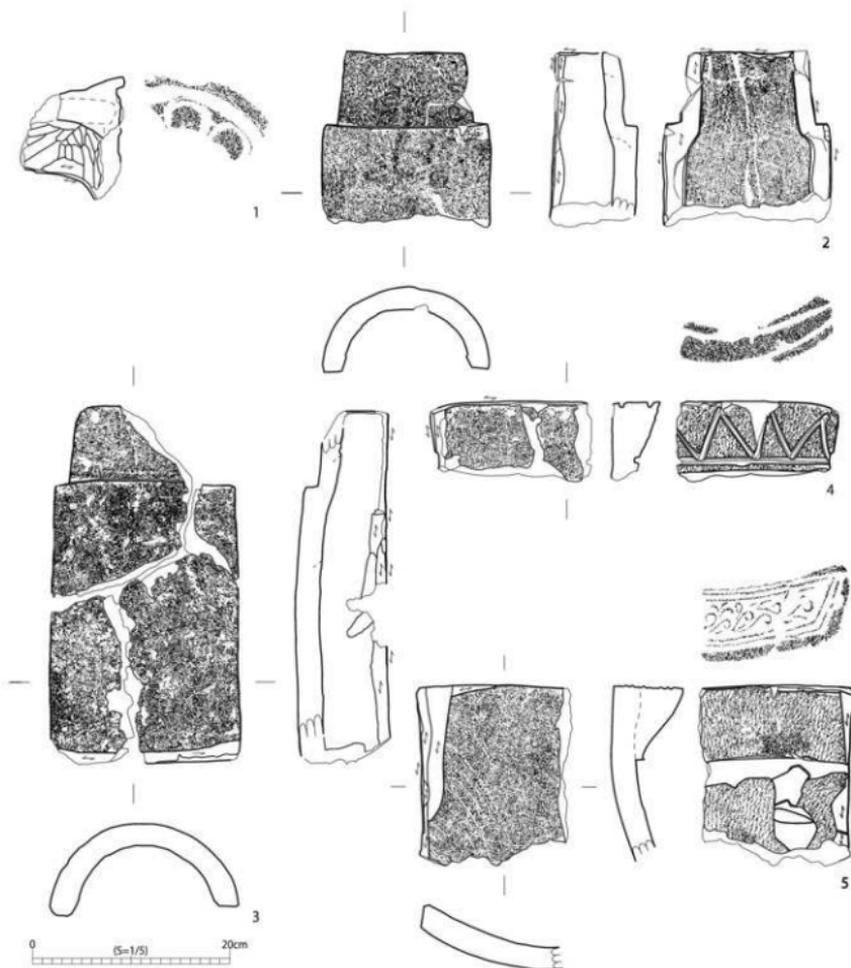
1号窯跡灰原(第209図Cライン)

層位	土色	土性	特徴	層位	土色	土性	特徴
1	にぶい赤褐10YR5/4	シルト	炭色土・炭化物を含む。焼土ブロックを少量含む。	3	黒10YR1.7/1	シルト	炭化物を多量含む。焼土ブロックを含む。
2	黒10YR4/4	シルト	炭色土粒を少量含む。				

2号灰原(第209図Eライン)

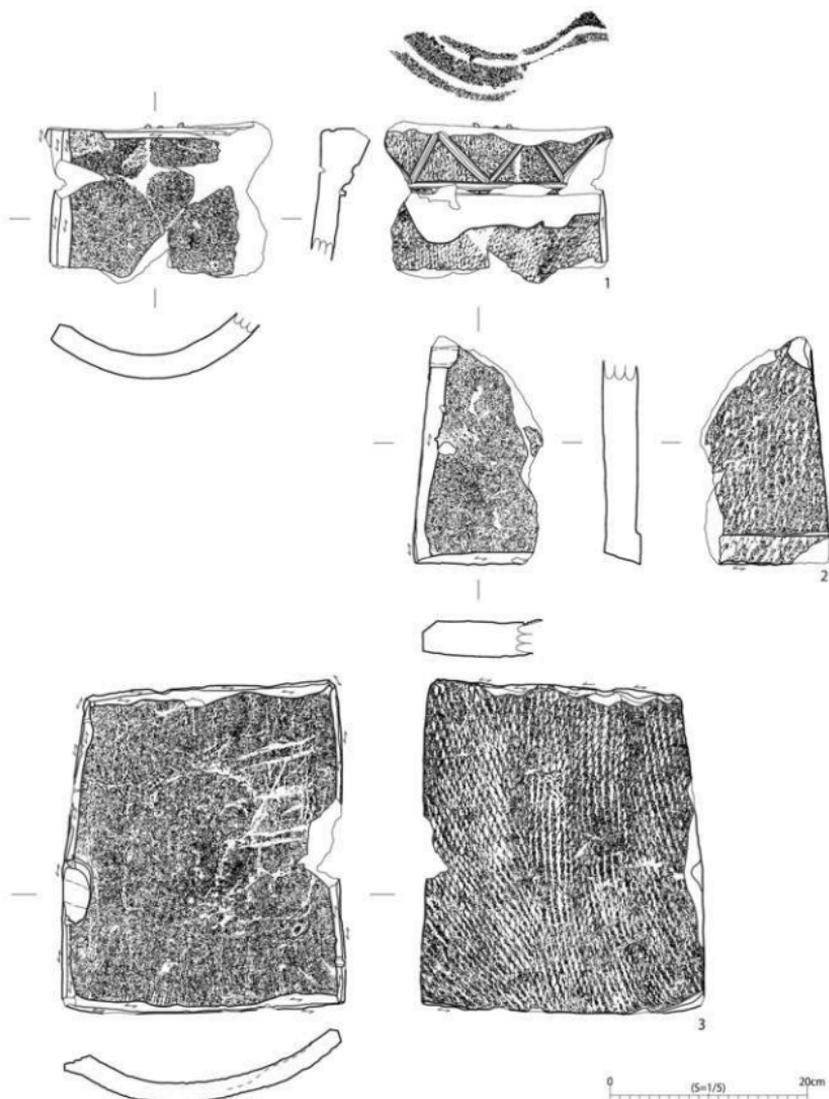
層位	土色	土性	特徴	層位	土色	土性	特徴
1	黒褐2.5Y3/2	シルト	6号窯跡8層に対応	7	黒褐10YR3/2	シルト	焼土粒を少量含む。7号窯跡8層に対応
2	黒褐2.5Y3/2	シルト	6号窯跡9層に対応	8	黒褐10YR3/2	シルト	焼土粒・炭化物粒を少量含む。7号窯跡12層に対応
3	黒褐10YR3/1	シルト	炭化物粒を含む。焼土粒を少量含む。	9	黒褐10YR3/2	シルト	
4	黒褐10YR3/1	シルト	炭色土粒・炭化物粒を少量含む。	10	黒2.5Y2/1	シルト	焼土粒を少量含む。
5	黒褐10YR2/2	シルト		11	にぶい赤褐2.5Y6/4	粘土質シルト	炭化物ブロックを含む。焼土粒を少量含む。
6	黒褐10YR3/2	シルト					

第209図 1号窯灰原・2号灰原土層断面図



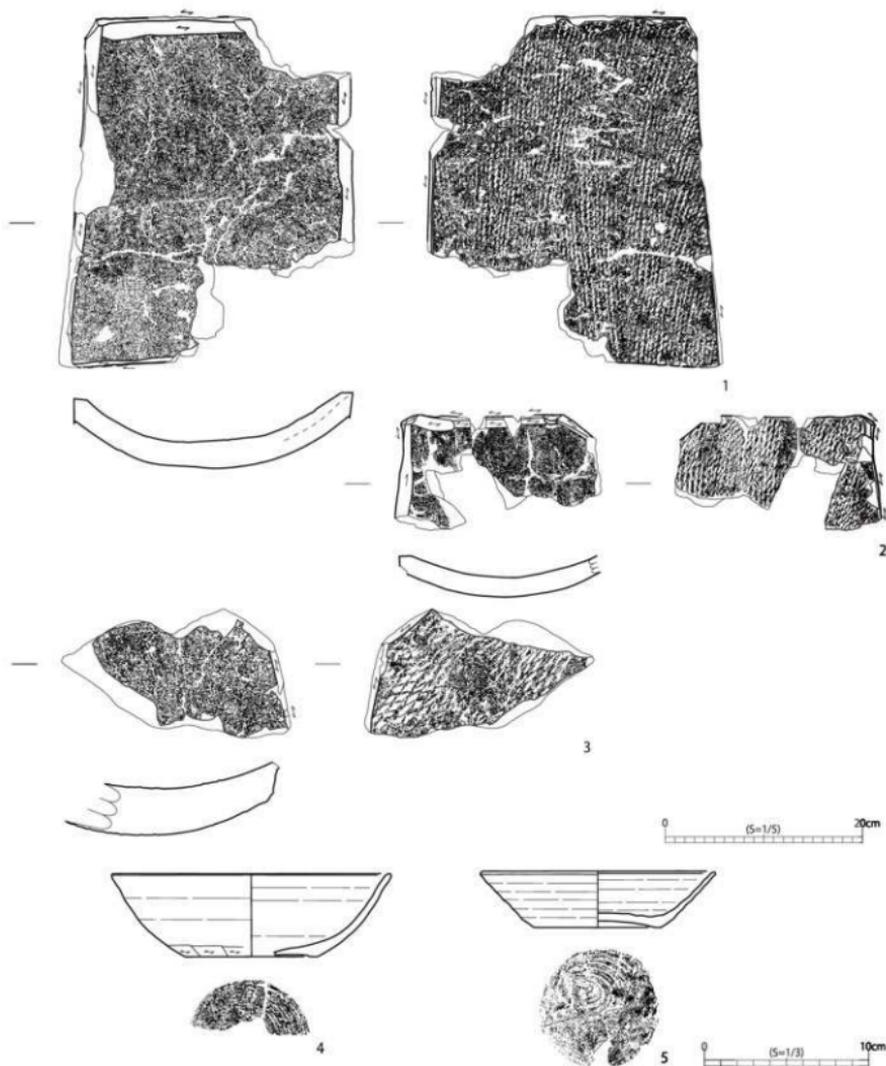
番号	遺物名	種別	種類	最大径 (cm)	広幅幅 (cm)	狭幅幅 (cm)	厚さ (cm)	瓦当面 長さ(cm)	瓦当面 厚さ(cm)	色調	成形・調整	備考	登録 番号	写真 掲載
1	1号灰原a	1	軒瓦瓦	10.5+	-	-	-	12.4+	1.9	瓦当面表: 7.5YR 4/2 瓦当面裏: 2.5Y 4/1 内面: 2.5Y 5/1 凸面: 2.5Y 4/1	瓦当面表: 筋 瓦当面裏: 印籠つぎ→ナデ 内面: ナデ 凸面: ヘラナデ 露縁: 露縁ヘラケズリ		F-083	60-14
2	1号灰原a	1	丸瓦	17.9+ 57.8	-	16.4 51.8	2.3 52.0	-	-	内面: 10YR 3/1 凸面: 2.5Y 5/1	内面: 粘土結核→布目織 凸面: 露印キ→ロケロナデ 露縁: ヘラケズリ		F-084	60-15
3	1号灰原a	1	丸瓦	36.3 57.9	16.2 (18.0) 512.6	18.2 53.7+	2.7 52.1	-	-	内面: 2.5YR 4/2 凸面: 10YR 6/1	内面: 粘土結核→布目織→ナデ 凸面: ロケロナデ 露縁: ヘラケズリ		F-085	61-1
4	1号灰原a	1	軒平瓦	8.1+	15.8+	-	-	3.5+	-	瓦当面: N 3/0 裏面: N 3/0 内面: 10YR 5/1	瓦当面: ヘラケズリ→ヘラつぎ重瓦文 裏面: 露印キ→ヘラつぎ重瓦文 内面: 布目織 露縁: ヘラケズリ		G-254	61-2
5	1号灰原a	1	軒平瓦	18.6+	15.1+	-	2.4	7.0	-	瓦当面: 2.5Y 6/1 裏面: N 4/0 内面: 10YR 5/1 凸面: N 4/0	瓦当面: 筋 裏面: 露印キ→布目織 内面: 糸切り織→布目織→ヘラケズリ 凸面: 露印キ→ナデ 露縁: ヘラケズリ		G-255	61-3

第210図 1号灰原a出土遺物(1)



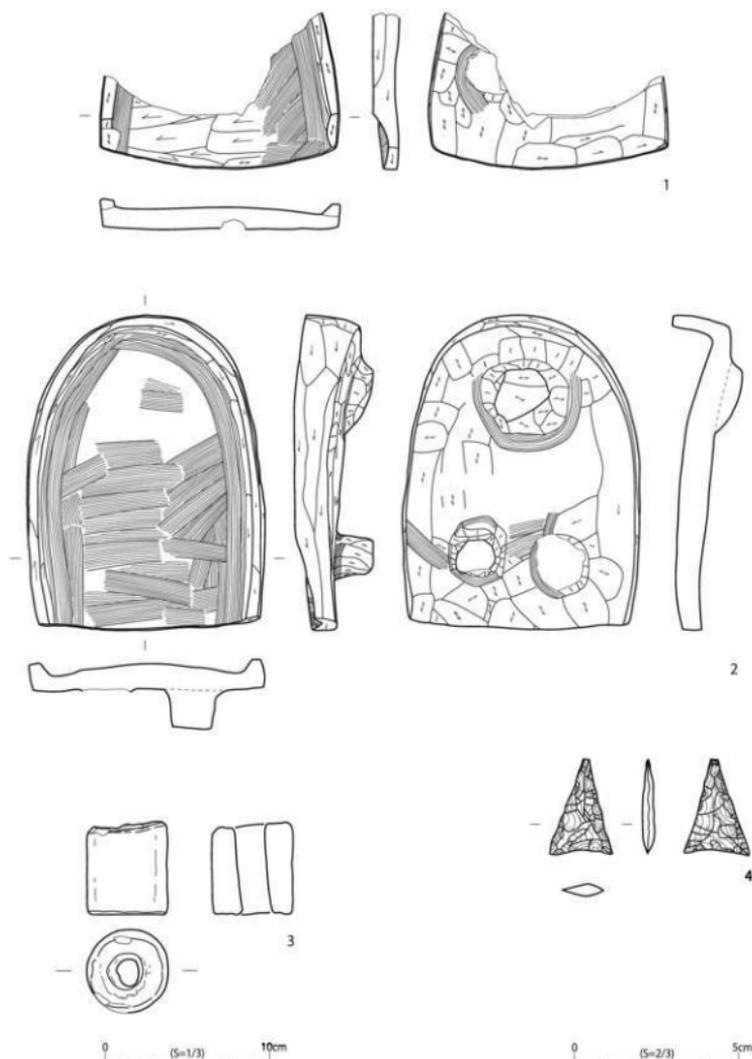
番号	遺構名 グリッド	層位	種類	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	残存幅 (cm)	厚さ (cm)	瓦当面 長(cm)	瓦当面 厚さ(cm)	色澤	成形・調整 備考	登録 番号	写真 図版
1	1号灰原a	1	軒平瓦	15.6	20.8	-	2.3	3.3	-	瓦当面：2.5Y 6/2 裏面：10YR 5/1 内面：2.5Y 6/1 凸面：N 3/0	瓦当面：ヘラケズリ→ヘラ少粗き垂瓦文 縦線 裏面：罫甲子→ヘラ少粗き垂瓦文 内面：赤目粗→ナデ 縦線 凸面：罫甲子→ナデ 縦線：ヘラケズリ	G-256	61.6
2	1号灰原a	1	平瓦	16.6	8.1	-	2.5	-	-	内面：5YR5/1 凸面：7.5R5/1	内面：ナデケシ 凸面：罫甲子 内面台目線 裏線：垂面・広端面ヘラケズリ→横面圧痕	G-257	61.5
3	1号灰原a	1	平瓦	34.2	28.2	25.3	2.1	-	-	内面：2.5YR5/1 凸面：10YR6/1	内面：糸切り器→有目粗→ナデ 凸面：罫甲子→一部ナデ 裏線：ヘラケズリ→圧痕	G-258	62.1

第211図 1号灰原a出土遺物(2)



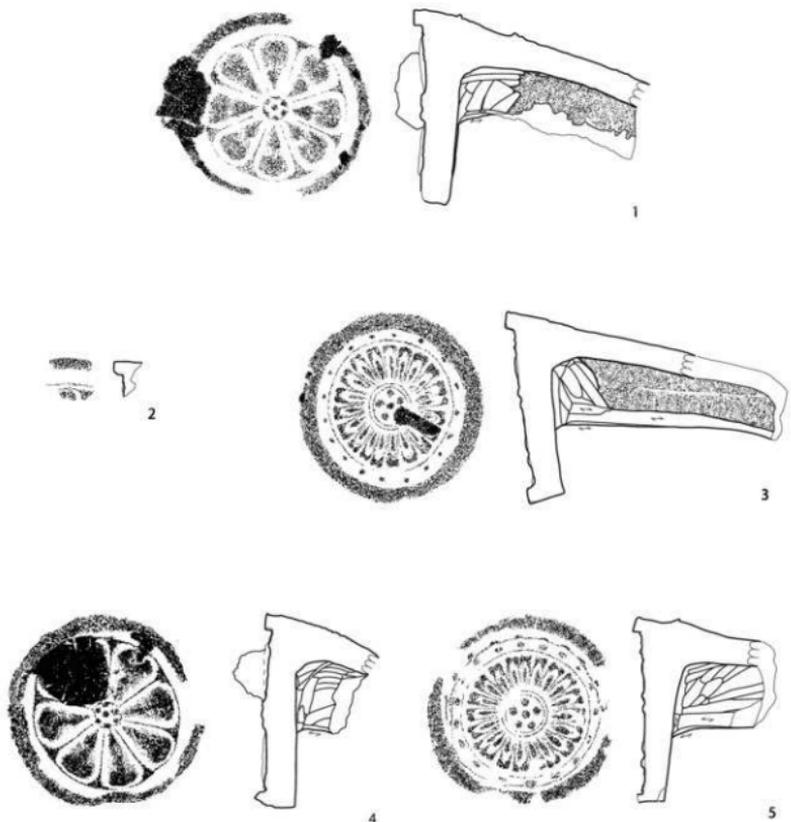
番号	遺構名 アソビ	層位	種類	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	厚さ (cm)	五等面 長(cm)	五等面 厚さ(cm)	色調	成形・調整 備考	登録 番号	写真 図版
1	1号灰原a	1	平瓦	35.8	8.9 (29.8)	13.2 (26.8)	2.9	-	-	外面:2.5V6/1 内面:10V14/1	外面:春日原→ナダケン 凸面:春日原→調切き 調整台圧痕 調整→ヘラケズリ	G-259	62-2
2	1号灰原a	1	隅切瓦	11.8*	-	16.4	2.1	-	-	外面:3A/0 凸面:3A/0	外面:春日原→ナダ 凸面:調切き 調整:調整面→ヘラケズリ→圧痕	H-633	61-4
3	1号灰原a	1	隅切瓦	9.4*	15.6*	-	3.5	-	-	外面:2.5V93/1 凸面:3A/0	外面:春日原→ナダ 凸面:調切き→ナダ 調整:調整面→ヘラケズリ	H-634	62-3
番号	遺構名 アソビ	層位	種類	口径 長さ(cm)	底径 長さ(cm)	高さ 厚さ(cm)	容量 深さ(cm)	寛さ (g)	色調	成形・調整 備考	登録 番号	写真 図版	
4	1号灰原a	1	築込罎 形	(16.8)	(8.0)	5.1	-	-	外面:10V16/1 内面:2.5V16/1	外面:ロカナダ→下職手時→ヘラケズリ 底面:30軸糸切り→手時→ヘラケズリ	E-061	62-4	
5	1号灰原a	1	築込罎 形	(13.9)	(7.7)	3.5	-	-	外面:10V14/1 内面:2.5V4/1	外面:ロカナダ 底面:30軸糸切り→ヘラケズリ 内面:ロカナダ	底面:ヘラケズリ	E-062	62-5

第212図 1号灰原a出土遺物(3)



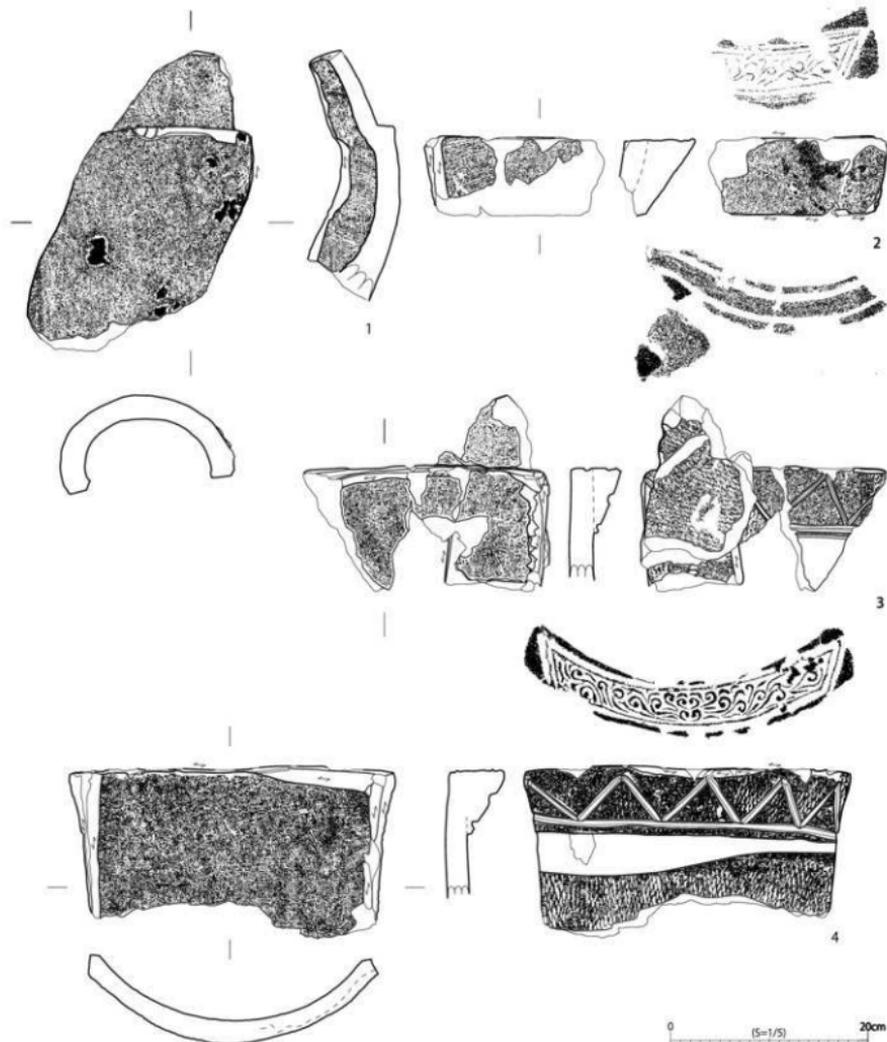
番号	遺物名	単位	形状 説明	口径 長径(cm)	底径 幅(cm)	器高 厚(cm)	重さ (g)	色調	成形・調製 備考	登録 番号	写真 図説
1	1号灰原a	1	須弥器 破	9.0	14.6	(1.9)	-	外面:10R5/1 裏面:10R5/1	外面:ヘラケズリ→ナデ 内縁:ヘラケズリ 器部:筒縁ナデ 裏面:ヘラケズリ	E-063	62.6
2	2号灰原a	1	須弥器 破	19.4	14.5	4.8	-	外面:10YR5/1 裏面:10YR5/1	外面:ヘラケズリ→ナデ 内縁:ヘラケズリ 器部:ヘラケズリ→筒縁ナデ 裏面:ヘラケズリ→面ナデ	E-064	62.9
3	3号灰原a	1	須弥器 破	5.7	5.1	孔径 2.2	147.8	外面:2.5Y6/1	外面:ナデ→削り痕 内面:ナデ	E-065	62.6
4	4号灰原a	1	打製石器 石鏃	2.9	2.0	0.4	1.5	-	石材:珪質頁岩	K-003	62.7

第213図 1号灰原a出土遺物(4)



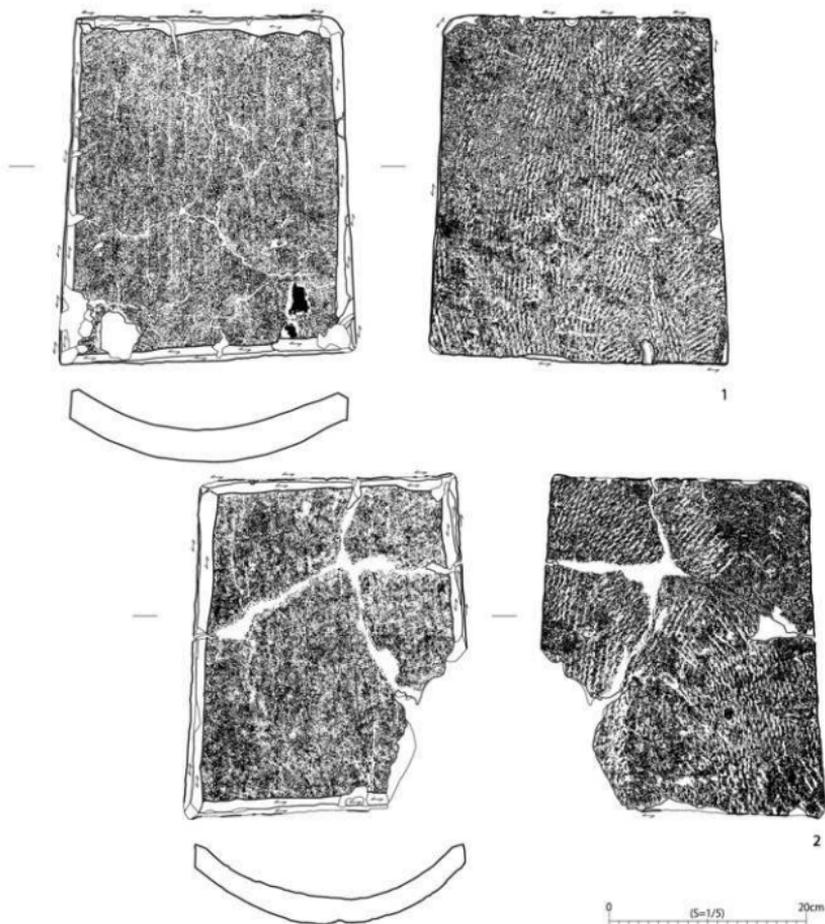
番号	遺物名	群位	種別	最大径 (cm)	広用輪径 (cm)	狭用輪径 (cm)	厚さ (cm)	瓦当面長 (cm)	瓦当面厚さ (cm)	色調	形状・調整	備考	登録番号	写真掲載
1	1号灰銅鏡	1	軒丸瓦	23.8	16.2	-	2.6	10.9	3.8	瓦当面表: 2.5Y 6/1 瓦当面裏: N 4/O 凸面: 10YR 4/1 凸面: 10YR 3/1	瓦当面表: 筋 織物 瓦当面裏: ヘラケズリ→ナナデ 凸面: 粘土層面→粘土層→ナナデ 織物 凸面: 粘土層面 粘土層面 織物 側面ヘラケズリ 織物		F086	63-1
2	1号灰銅鏡	1	軒丸瓦	2.8	-	-	3.6	1.2	-	瓦当面表: 10R4/1 瓦当面裏: N5/O	瓦当面表: 筋 瓦当面裏: 欠損 織物: ヘラナデ		F087	64-1
3	1号灰銅鏡	1	軒丸瓦	28.5	11.0	-	2.5	19.6	3.6	瓦当面表: 10YR 5/1 瓦当面裏: 10YR 4/1 凸面: 10YR 4/1 凸面: 10YR 4/1	瓦当面表: 筋 織物 瓦当面裏: ヘラケズリ→ナナデ 凸面: 粘土層面→粘土層 凸面: 粘土層 織物 側面: ヘラケズリ	凸面: 粘土層面→粘土層→ナナデ 側面: 粘土層面→粘土層→ナナデ 側面: 粘土層面→粘土層→ナナデ 側面: 粘土層面→粘土層→ナナデ	F088	63-2
4	1号灰銅鏡	1	軒丸瓦	11.6	-	-	2.5	10.8	3.5	瓦当面表: N4/O 瓦当面裏: 2.5Y 4/1 凸面: 10YR 4/1 凸面: 10YR 4/1	瓦当面表: 筋 織物と織物 瓦当面裏: ヘラケズリ→ヘラナデ 凸面: 粘土層面→粘土層→ナナデ 凸面: ヘラナデ, 側面: 粘土層面→粘土層面 織物		F089	64-2
5	1号灰銅鏡	1	軒丸瓦	14.5	-	-	2.6	18.9	3.2	瓦当面表: N 7/O 瓦当面裏: N 5/O 凸面: N 5/O 凸面: N 5/O	瓦当面表: 筋 瓦当面裏: ヘラケズリ→ナナデ 凸面: ナナデ 凸面: ヘラナデ, 側面: 粘土層面 側面: ヘラケズリ		F090	64-3

第214図 1号灰原b出土遺物(1)



番号	遺物名	層位	種類	最大長 (cm)	広幅幅 (cm)	狭幅幅 (cm)	厚さ (cm)	瓦当面 長(cm)	瓦当面 厚さ(cm)	色調	成形・調整	備考	登録 番号	写真 掲載
1	1号灰原b	1	丸瓦	30.6 至8.3	14.9 至12.4	2.6 至3.5	51.9	-	-	内面：10YR4/1 凸面：10YR4/2	内面：布目織→一部十字 自然釉 凸面：ヘラナデ 自然釉 瓦縁：ヘラナデリ		F-091	64-4
2	1号灰原b	1	軒平瓦	8.1+	18.3+	-	6.5	-	-	瓦当面：N 5/0 裏面：10YR 6/1 凸面：10YR 5/1	瓦当面：布 裏面：織甲巻 織甲 凸面：布目織→布目織 瓦縁：額面ヘラナデリ		G-260	64-6
3	1号灰原b	1	軒平瓦	12.7+	23.8+	-	2.4	5.0	-	瓦当面：10YR 5/1 裏面：10YR 5/1 凸面：N 5/0 凸面：2.5Y 5/1	瓦当面：ヘラナデリ→少部点雲瓦文 裏面：織甲巻→ナデ→少部点雲瓦文 凸面：布目織→ナデ 凸面：ヘラナデ 平瓦と織甲		G-261	64-5
4	1号灰原b	1	軒平瓦	17.7+	33.1	-	2.2	5.4	-	瓦当面：N 5/0 裏面：N 5/0 凸面：N 5/0	瓦当面：布、織甲ヘラナデリ 裏面：織甲巻→ナデ→少部点雲瓦文、上端部ヘラナデリ 凸面：布目織→ナデ 凸面：織甲巻→ナデ 瓦縁：ヘラナデリ	全面自然釉	G-262	65-1

第215図 1号灰原b出土遺物(2)



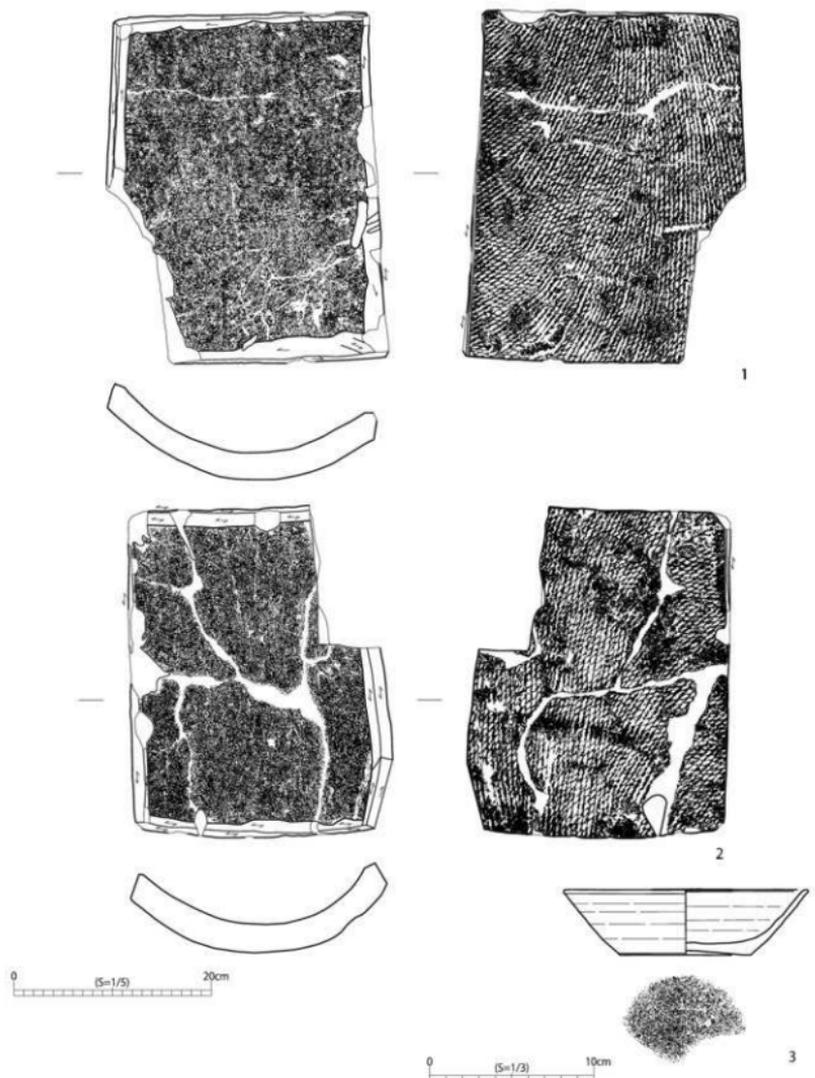
番号	発掘区 グッド	層位	種別	最大径 (cm)	正縁幅 (cm)	取柄幅 (cm)	取柄長 (cm)	瓦当径 (cm)	瓦当厚 (cm)	瓦当厚 (cm)	色調	成形・調整 備考	発掘 番号	写真 図録
1	1号灰原b	1	平瓦	35.7	30.0	26.1	3.5	-	-	-	陶質:赤褐色→赤目模→ナメ 凸部:1895/1	陶質:赤褐色→赤目模→ナメ 窯変土器管 凸部:赤褐色→褐色 黄緑→ヘラケズリ→正縁	G-263	65-2
2	1号灰原b	1	平瓦	33.9	29.1	25.5	2.7	-	-	-	陶質:赤褐色→ナメ 凸部:1895/1	陶質:赤褐色→ナメ 凸部:褐色→ナメ 黄緑→ヘラケズリ→正縁	G-264	65-3

第216図 1号灰原b出土遺物(3)

## 2号灰原 (SQ2) (第206・209・223～226図)

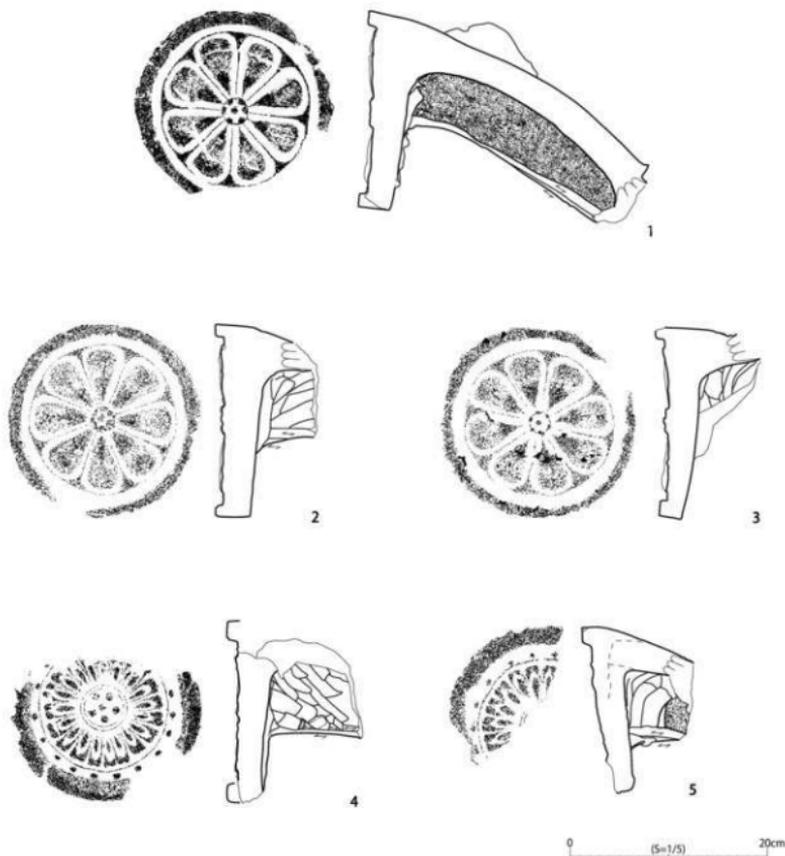
調査区の中央部、G-22～24 グリッドで確認した。5号窯跡から9号窯跡の南に展開する。東西14.6m、南北7.3mの黑色シルトの範囲である。断面観察から6号窯跡の堆積層は7号窯跡の堆積層より新しいが、8号窯跡、9号窯跡については不明である。堆積土は2層に大別される。

遺物は、軒丸瓦・丸瓦・軒平瓦・平瓦・隅切瓦・ロクロ土師器・須恵器・硯が出土した。総破片数は2,699点で、21点を図示した。出土層位は、1層から重弁蓮華文軒丸瓦、細弁蓮華文軒丸瓦、重弧文軒平瓦、風字硯、2層から



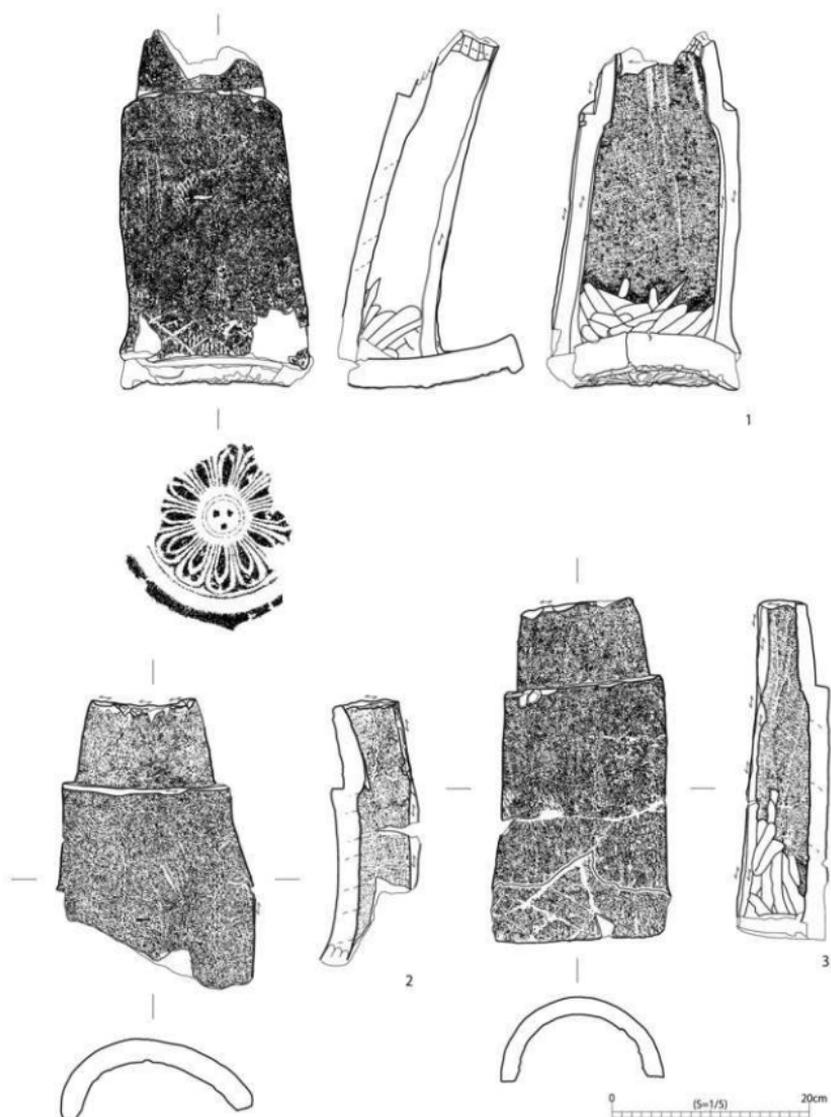
番号	遺構名 グリッド	層位	種類	最大長 (cm)	広幅幅 (cm)	狭幅幅 (cm)	厚さ (cm)	瓦当面 長(cm)	瓦当面 厚さ(cm)	色調	成形・調整	備考	登録 番号	写真 掲載
1	1号灰助	1	平瓦	35.8	22.0 (29.5)	25.9	2.9	-	-	内面：2.5YR4/2 凸面：2.5YR4/1	内面：糸切り織→布目織→ナゲダン 凸面：縄目織→四角付織 両縁：ヘラケズリ		G-265	66-1
2	1号灰助	1	駒切瓦	33.0	23.6	18.4 (21.6)	3.2	-	-	内面：10YR4/1 凸面：10YR4/1	内面：糸目織→ナゲ 凸面：縄目織 両縁：ヘラケズリ		H-035	66-2
番号	遺構名 グリッド	層位	種類	口徑 長さ(cm)	底径 幅(cm)	底径 厚さ (cm)	高さ (cm)	口縁 厚さ (cm)	色調	成形・調整	備考	登録 番号	写真 掲載	
3	1号灰助	1	葉巻蓋 葺	(14.7)	供出	4.0	-	-	内面：N4/O 内面：N5/O	内面：ロケロナデ 底面：切り離し不揃→ヘラケズリ 内面：ロケロナデ		E-066	66-3	

第217図 1号灰原b出土遺物(4)



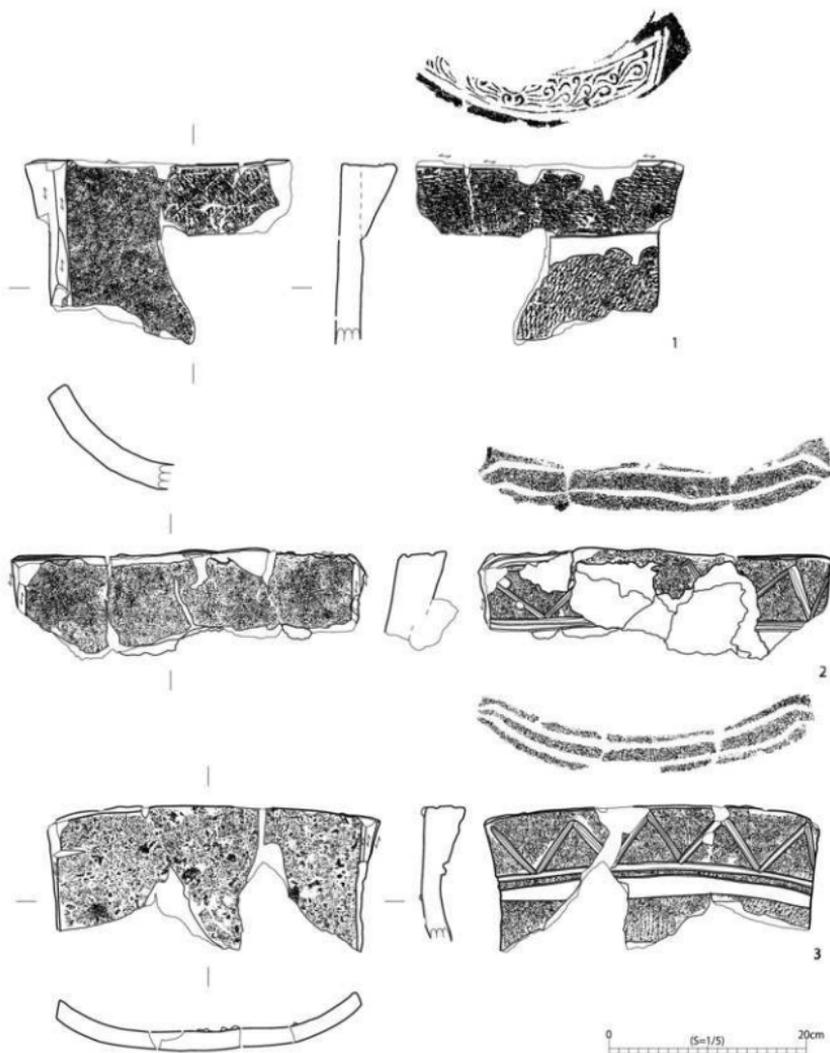
番号	遺物名 ブリード	群位	種類	最大径 (cm)	広さ幅 (cm)	狭さ幅 (cm)	厚さ (mm)	瓦当面 長(cm)	瓦当面 厚さ(mm)	色調	成形・調整	備考	登録 番号	写真 掲載
1	地滑りによる堆積層	1	軒丸瓦	29.5	-	-	3.3	12.0	3.7	瓦当面表: NS/O 瓦当面裏: NS/O 側面: 7.5YR6/1 凸面: NS/O	瓦当面表: 筒 織物 瓦当面裏: ヘラナデ 織物 側面: 粘土紐造→布目織 自然釉 凸面: ヘラナデ 自然釉 陶縁: ヘラケズリ		F-002	67.1
2	地滑りによる堆積層	1	軒丸瓦	10.4	-	-	-	19.6	3.9	瓦当面表: N 6/O 瓦当面裏: 7.5YR 5/1 側面: 10YR 5/1 凸面: N 6/O	瓦当面表: 筒 瓦当面裏: ヘラケズリ→ナデ 側面: ナデ 凸面: ヘラナデ 陶縁: 復原ヘラケズリ		F-003	66.4
3	地滑りによる堆積層	1	軒丸瓦	10.7	-	-	-	19.3	2.3	瓦当面表: N 5/O 瓦当面裏: N 5/O 側面: N 5/O 凸面: N 6/O	瓦当面表: 筒 織物 瓦当面裏: ヘラケズリ→ナデ 側面: 布目織→ユビナデ 凸面: ヘラナデ 陶縁: 復原ヘラケズリ		F-004	66.5
4	地滑りによる堆積層	1	軒丸瓦	-	-	-	-	14.7 (18.5)	3.7	瓦当面表: N 6/O 瓦当面裏: 5YR 6/1 側面: 7.5YR5/1 凸面: 10YR5/1	瓦当面表: 筒 瓦当面裏: ヘラケズリ→ナデ 側面: 布目織→ナデ 凸面: ヘラナデ 新断面: 瓦当面付直。布目織転写 陶縁: 復原ヘラケズリ		F-005	66.6
5	地滑りによる堆積層	1	軒丸瓦	11.3	-	-	-	17.2	2.9	瓦当面表: 10YR 5/2 瓦当面裏: N 6/1 側面: 10YR 4/1 凸面: N 6/O	瓦当面表: 筒 瓦当面裏: ナデ 織物 側面: 布目織→ユビナデ 凸面: ヘラナデ 陶縁: 復原ヘラケズリ		F-006	66.7

第218図 地滑りによる堆積層出土遺物(1)



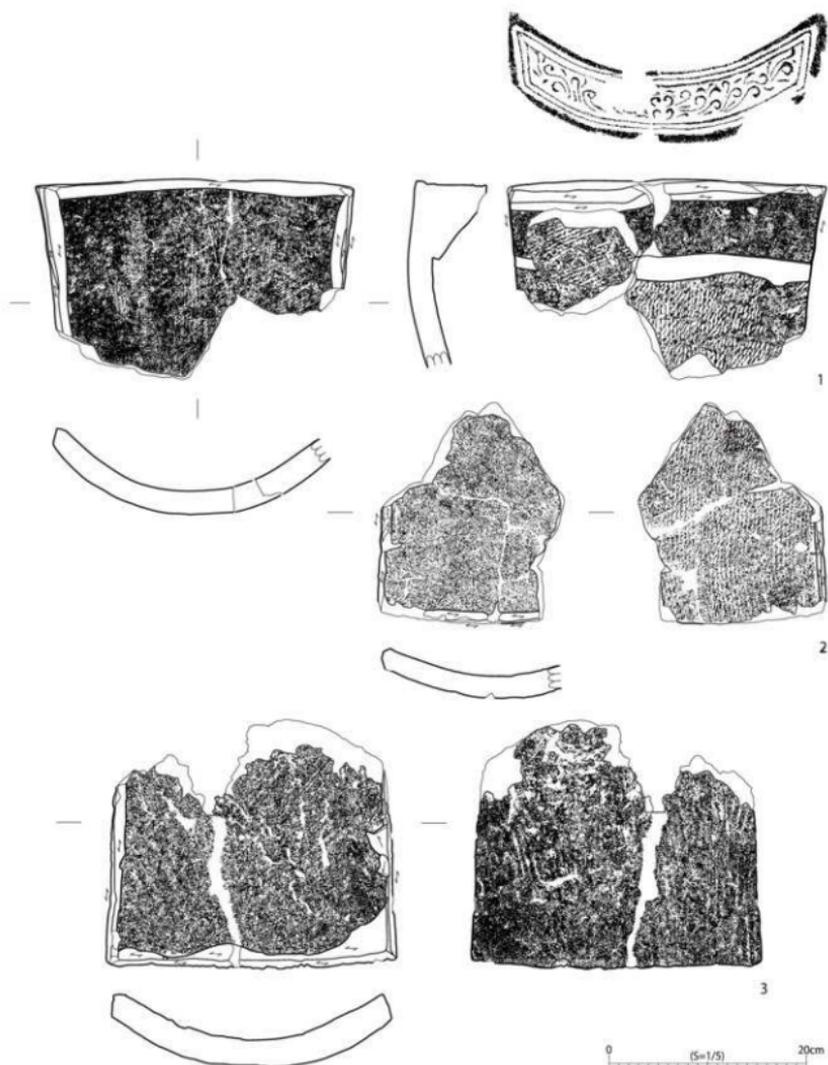
番号	遺物名 グッド	層位	種別	最大長 (cm)	広幅幅 (cm)	新幅幅 (cm)	厚さ (cm)	互当面 長さ(cm)	互当面 厚さ(cm)	色調	成形・調整 備考	登録 番号	写真 図版	
1	地滑りによる堆積層	1	靱丸瓦	36.5	19.1 至12.9	15.8 至-	2.0	17.8	3.2	瓦当面赤・109W 4/1 瓦当面黒・N 5/9 同底・109W 4/1 凸面 9/4/9	瓦当面赤・青, 同縁面へラズク 瓦当面黒・ナツ 同底・軸上縁底へ有目縁へラズク 同縁・器底・器底面へラズク 調整面・縁付面へキヤリ調整	瓦当面赤・ナツ 凸面 溝切面へラズク 赤109W	F-097	67-2
2	地滑りによる堆積層	1	丸瓦	29.7 至9.2	至14.3	至10.4	2.4 至2.2	-	-	同底・NS/0 凸面・PYR7/1	同底・軸上縁底へ有目縁へラズク 凸面 同底・ラズク 自然軸 同縁・へラズクへラズク	F-099	68-1	
3	地滑りによる堆積層	1	靱丸瓦	35.3 至9.4	16.4 至13.4	15.7 至11.2	2.1 至1.7	-	-	同底・NS/0 凸面・NS/0	同底・軸上縁底へ有目縁へラズク 凸面 溝切面へラズク 同縁・へラズクへラズクへラズク 瓦当貼付の調整 溝切面へラズク	F-098	68-2	

第219図 地滑りによる堆積層出土遺物(2)



番号	遺物名 グッド	層位	種類	最大径 (cm)	応答幅 (cm)	群輪幅 (cm)	厚さ (cm)	瓦当面 長さ(cm)	瓦当面 厚さ(cm)	色調	成形・調査 備考	登録 番号	写真 図版
1	埴師口に よる埴師輪	1	軒平瓦	17.8	27.1	-	2.5	5.7	-	瓦当面：10YR 4/1 胎面：N 4/0 凸面：N 4/0 凸面：N 4/0	瓦当面：唐 胎面：輪郭文 凸面：赤目地→ナデ 凸面：輪郭文→ナデ 肩線：ヘラケズリ	G-266	68-3
2	埴師口に よる埴師輪	1	軒平瓦	10.2	35.9	-	-	4.4	-	瓦当面：N 6/0 胎面：N 6/0 凸面：N 6/0	瓦当面：ヘラケズリ→ヘラ抜き垂瓦文 胎面：輪郭文→ナデ→ヘラ抜き垂瓦文 突縁と肩線 凸面：赤目地→ナデ 肩線：輪郭ヘラケズリ	G-267	68-4
3	埴師口に よる埴師輪	1	軒平瓦	14.6	34.8	-	2.0	3.8	-	瓦当面：7.5YR 4/1 胎面：N 3/0 凸面：N 3/0 凸面：N 3/0	瓦当面：ヘラケズリ→ヘラ抜き垂瓦文 胎面：輪郭文→ナデ→ヘラ抜き垂瓦文 凸面：赤目地 突縁と肩線 凸面：輪郭文→ナデ 肩線：断面ヘラケズリ	G-268	69-1

第220図 地滑りによる堆積層出土遺物(3)



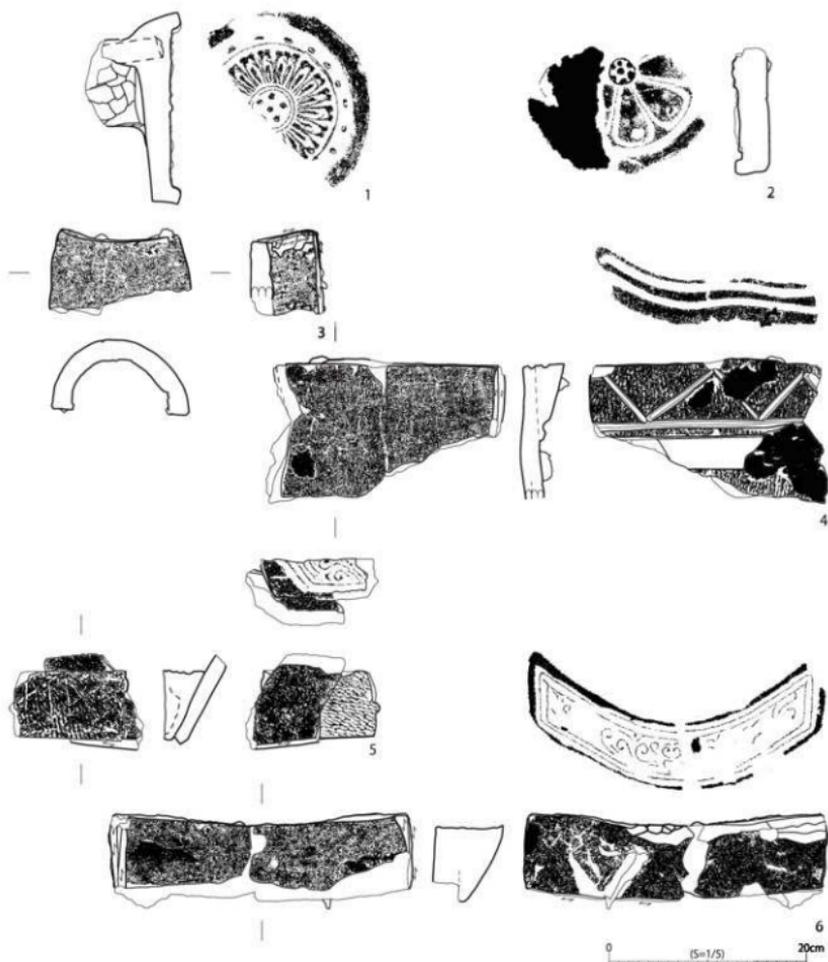
番号	遺構名 アウツ	層位	種類	最大長 (cm)	口縁幅 (cm)	胴幅 (cm)	厚さ (cm)	瓦当面 長さ(cm)	瓦当面 厚さ(cm)	色調	成形・調整 備考	登録 番号	写真 回数
1	地滑りによる堆積層	1	軒平瓦	29.3*	33.8	-	2.4	7.0	-	瓦当面: N 7/0 胴面: N 3/0 口縁: OY 7/1 凸面: N 3/0	瓦当面: 削 胴面: 調印キ→ナゾ、上端部(ヘラケズ) 瓦と継ぎ 口縁: 糸切竹板→糸目唐 凸面: 調印キ→ナゾ、同縁、胴面(ヘラケズ)	G-269	69-2
2	地滑りによる堆積層	1	平瓦	22.6*	18.4*	-	2.4	-	-	胴面: M 0/0 凸面: N 0/0	胴面: 糸切竹板→糸目唐→ナゾケン 凸面: 糸切竹板→調印キ 同縁: 胴面(ヘラケズ)	G-270	69-3 106
3	地滑りによる堆積層	1	平瓦	28.5*	29.4	-	3.4	-	-	胴面: 2.5Y10/1 凸面: OY10/1	胴面: 糸切竹板→糸目唐→ナゾ 凸面: 調印キ→ナゾ 同縁: 胴面(ヘラケズ)→広縁面行唐	G-271	70-1

第221図 地滑りによる堆積層出土遺物(4)



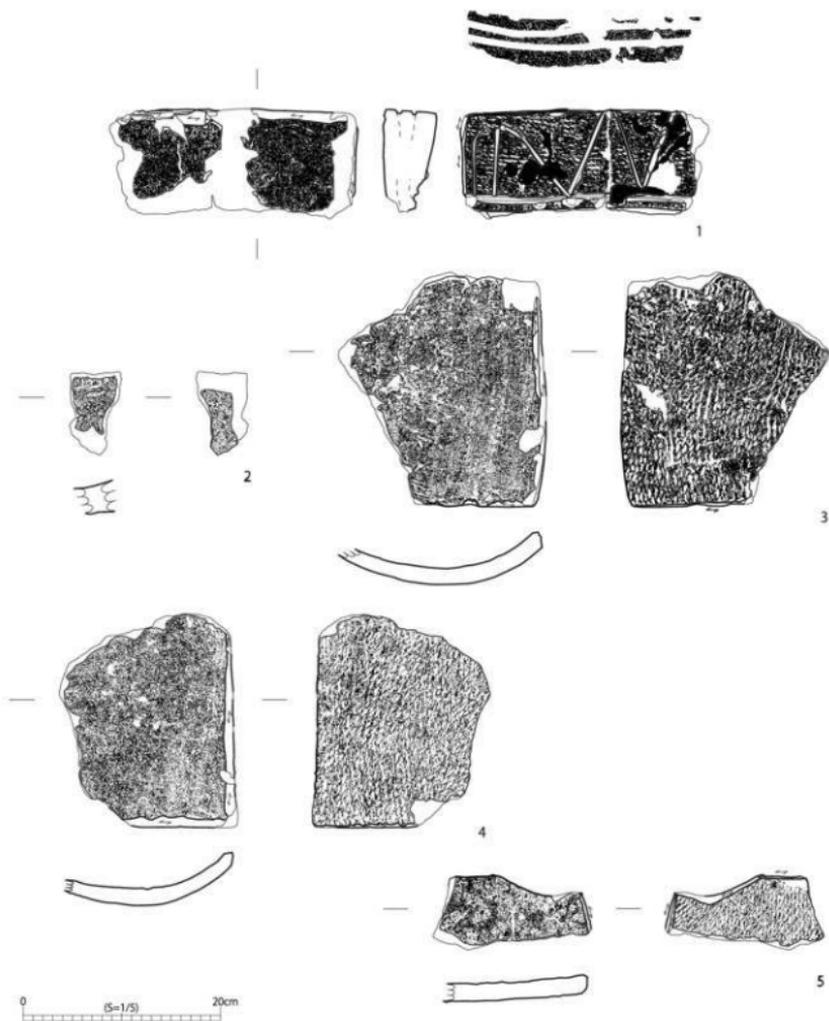
番号	遺物名 グループ	種別	最大長 (cm)	広幅幅 (cm)	狭幅幅 (cm)	厚さ (cm)	瓦片面 長(cm)	瓦片面 厚さ(cm)	色調	成形・調整 備考	登録 番号	写真 図版
1	地滑りによる堆積層	1 平瓦	29.5*	29.5	-	1.7	-	-	同層: 7.2N14/1 凸面: 5Y8/1	同層: 赤切の灰→赤目瓦→ナダ 凸面: 織りき→コピナダ 異層: 赤切→広幅面→ナダズリ→広幅面瓦片 凸面: へら巻が上)	G-272 69-1 159	
2	地滑りによる堆積層	1 平瓦	35.8	18.1*	15.8*	2.9	-	-	同層: 10Y3/1 凸面: 10Y3/6/1	同層: 赤切の灰→赤目瓦→ナダ 凸面: 織りき 異層: へら巻が上→異層・鉄線面瓦片	G-273 79-2	
3	地滑りによる堆積層	1 隅切瓦	17.0*	-	8.6*	2.1	-	-	同層: N5/0 凸面: 7.5Y7/5/1	同層: 赤切の灰→赤目瓦 凸面: 織りき→ナダズリ 異層: 鉄線面→ナダズリ→広幅	H-036 79-3	
番号	遺物名 グループ	種別	口徑 長さ(cm)	器底 径(cm)	器底 厚さ(cm)	器口 高さ (g)	色調		成形・調整 備考	登録 番号	写真 図版	
4	地滑りによる堆積層	1 葉巻形 碗	(17.0)	(18.7)	(3.8)	-	同層: 10Y3/1 異層: N5/0		同層: へら巻が上→ナダズリ 異層: へら巻が上→異層ナダ 異層: へら巻が上 異層: へら巻が上	E-067 79-4		
5	地滑りによる堆積層	1 打製石器 石鏃	(3.0)	3.7	0.4	1.3	-		石材: 積貫頁岩	K-004 79-5		

第222図 地滑りによる堆積層出土遺物(5)



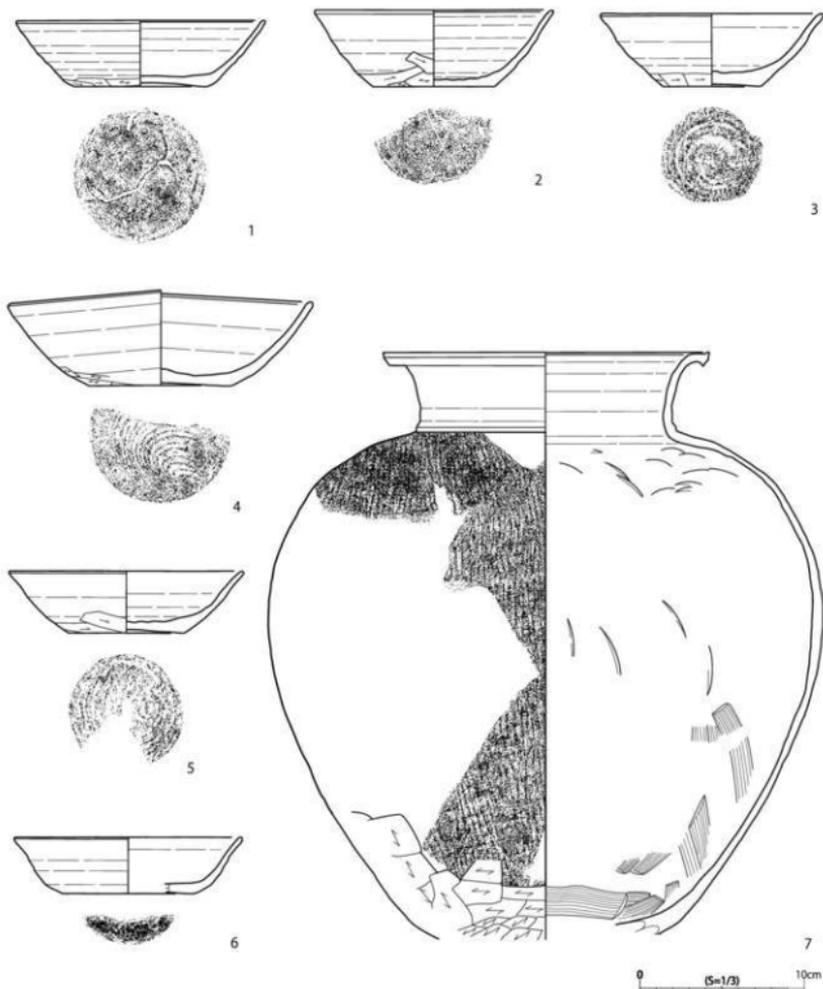
番号	遺物名 フリット	層位	種類	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	瓦当部 長さ(cm)	瓦当部 厚さ(cm)	色調	成形・調整	備考	登録 番号	写真 掲載
1	2号灰瓦	1	軒丸瓦	9.7	-	-	19.6	3.0	瓦当面表: 10YR 5/1 瓦当部表: 7.5YR 5/1 内面: 2.5Y 4/1 凸面: 5YR 4/1	瓦当面表: 瓦。同縁ヘラケズリ→ナデ 瓦当部表: ナデ 内面: ナデ 凸面: ナデ		F-100	70.6
2	2号灰瓦	1	軒丸瓦	3.9	-	-	12.9 (20.2)	3.6	瓦当面表: 10YR 6/1 瓦当部表: N 5/0 内面: 2.5Y 5/1 凸面: 10YR 4/1	瓦当面表: 瓦。縁部 瓦当部表: 自然彫のため不明 内面: 粘土縁部→有目物→目物 自然縁 凸面: ロクロナデ 同縁: ヘラケズリ 縁部		F-101	70.7
3	2号灰瓦	1	丸瓦	8.8 5.8.8	-	5.11.9	3.2.1	-	内面: 2.5Y 5/1 凸面: 10YR 4/1	内面: 粘土縁部→有目物→目物 自然縁 凸面: ロクロナデ 同縁: ヘラケズリ 縁部		F-102	70.8
4	2号灰瓦	1	軒平瓦	14.2	22.4	2.0	4.2	-	瓦当面: 2.5Y 5/1 裏面: 5Y 4/1 内面: 2.5Y 5/1 凸面: 5Y 4/1	瓦当面: ヘラケズリ→ヘラ縁部素瓦 縁部 裏面: 縁部素瓦→ヘラ縁部素瓦 同縁と縁部 内面: 有目物 縁部 凸面: 縁部素瓦→ナデ 縁部		G-274	70.9
5	2号灰瓦	1	軒平瓦	7.0	8.3	-	4.2	-	瓦当面: 2.5Y 4/1 裏面: 10YR 5/2	瓦当面: 瓦。縁部 裏面: 縁部素瓦→ヘラ縁部素瓦 同縁と縁部 内面: ナデ 瓦上縁部		G-275	71.1
6	2号灰瓦	1	軒平瓦	7.8	29.9	-	6.7	-	瓦当面: 10YR 6/1 裏面: 10YR 6/1 内面: N 4.0	瓦当面: 瓦。縁部 裏面: ナデ 瓦上縁部 内面: 有目物→ナデ 縁部 同縁: 縁部ヘラケズリ		G-276	71.2

第223図 2号灰原出土遺物(1)



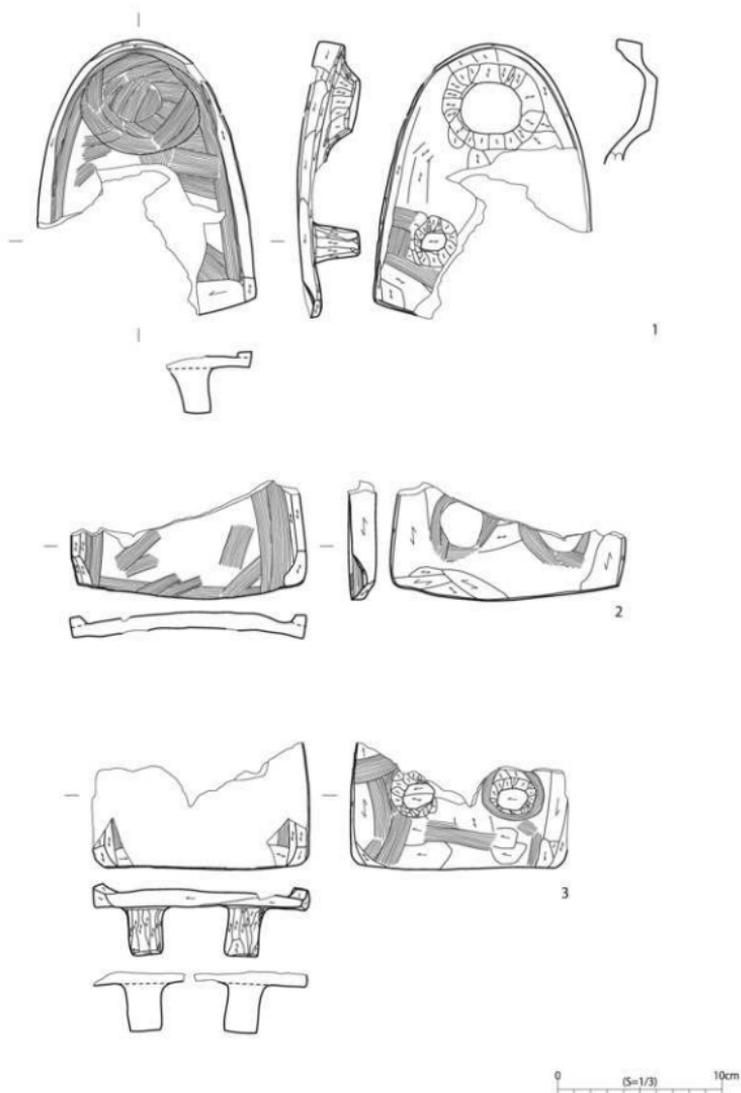
番号	遺構名 アリッド	層位	種類	最大長 (cm)	広径幅 (cm)	狭径幅 (cm)	厚さ (cm)	瓦当面 長さ(cm)	瓦当面 厚さ(cm)	色調	流形・調整 備考	登録 番号	写真 図版	
1	2号灰原	1	軒平瓦	10.3+	20.0+	-	-	5.0	-	瓦当面：2.5Y 5/1 側面：3Y 4/1 凸面：2.5Y 5/1	瓦当面：ヘラケズリ→ヘラ磨き磨弧文 側面：磨甲き→ヘラ磨き磨弧文 磨甲 凸面：赤切取→赤目取→ナデ 磨縁：ヘラケズリ	G-277	71.5	
2	2号灰原	1	軒平瓦	8.5+	5.4+	-	3.0	-	-	凸面：10Y6/2 凸面：7.5Y6/3	凸面：ナデ 凸面：磨縁のため不明	凸面：ヘラ磨き磨弧不明	G-278	71.4
3	2号灰原	1	平瓦	23.9+	12.0+	-	1.7	-	-	凸面：10Y6/1 凸面：7.5Y6/1	凸面：赤切り取→有目磨 凸面：赤切り取→粘土磨ね取→磨甲き 側面：磨甲→広面磨ヘラケズリ→広面磨滑縁 側面：丸たらし磨り合せ取	G-279	71.6	
4	2号灰原	1	平瓦	21.8+	8.2+	-	1.6	-	-	凸面：10Y6/1 凸面：10Y6/1	凸面：赤目取→ナデ 凸面：磨甲き 磨縁：磨甲・広面磨ヘラケズリ	G-280	71.7	
5	2号灰原	1	隅切瓦	7.7+	-	5.7	1.9	-	-	凸面：N4/O 凸面：N4/O	凸面：磨縁のため不明 凸面：磨甲き 自然磨 磨縁：ヘラケズリ→棒取注取	H-037	71.3	

第224図 2号灰原出土遺物(2)



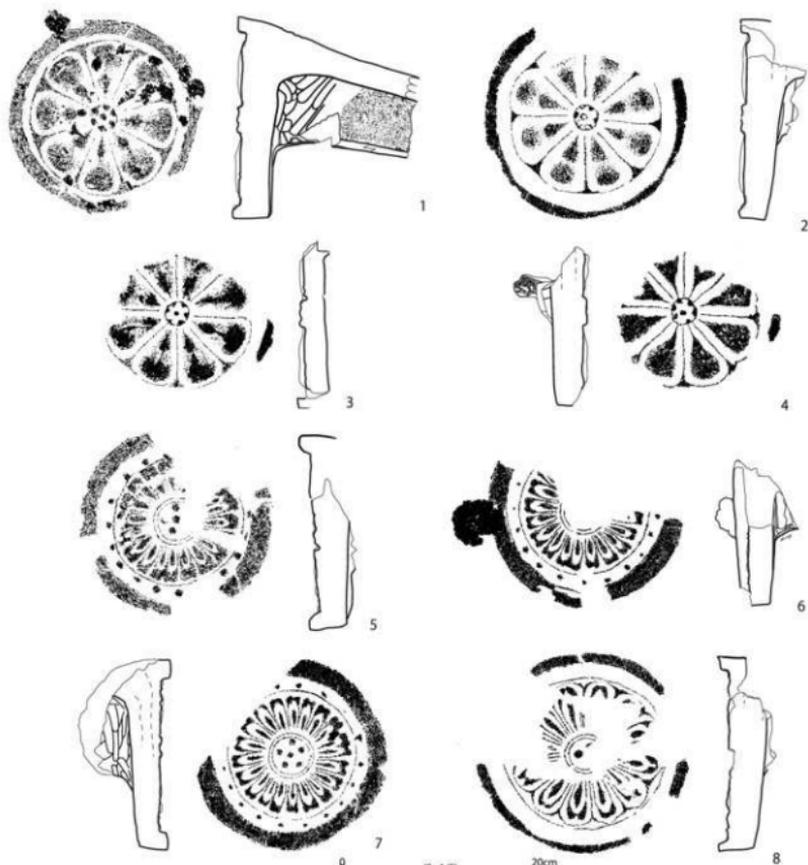
番号	遺構名 アリッド	層位	種類 器形	口径 径(cm)	底径 径(cm)	高さ 径(cm)	厚さ (g)	色調	成形・調整 備考	登録 番号	写真 図版
1	2号灰原	1	築造器 鉢	(14.9)	併存	4.1	-	外底：N4/O 内底：2.5YR4/1	外底：ロクロナデ→下端手持へラケズリ 底面：切り磨し不明→へラケズリ 内底：ロクロナデ	E068	71-10
2	2号灰原	1	築造器 鉢	(14.3)	(7.4)	4.7	-	外底：10YR4/1 内底：10YR4/1	外底：ロクロナデ→下端手持へラケズリ 底面：切り磨し不明→手持へラケズリ 内底：ロクロナデ 底面：へラ磨き「×」	E069	71.11
3	2号灰原	1	築造器 鉢	(13.3)	併存	4.5	-	外底：7.5YR5/2 内底：7.5YR5/2	外底：ロクロナデ→下端手持へラケズリ 底面：回転糸切り→手持へラケズリ 内底：ロクロナデ	E070	71.12
4	2号灰原	1	築造器 鉢	(18.2)	8.6	5.8	-	外底：10YR4/1 内底：10YR4/1	外底：ロクロナデ→下端手持へラケズリ 底面：回転糸切り→へラケズリ 内底：ロクロナデ	E071	71.9
5	2号灰原	1	築造器 鉢	(14.2)	(7.5)	3.8	-	外底：7.5YR5/3 内底：7.5YR5/3	外底：ロクロナデ→下端手持へラケズリ 底面：回転糸切り→手持へラケズリ 内底：ロクロナデ	E072	72.4
6	2号灰原	1	築造器 鉢	(13.8)	併存	3.5	-	外底：10YR4/1 内底：10YR4/1	外底：ロクロナデ 底面：切り磨し不明 内底：ロクロナデ	E073	72.5
7	2号灰原	1	築造器 壺	Ø2.0	-	39.7	-	外底：10YR5/1 内底：2.5YR5/1	外底：口縁部ロクロナデ 体部少クターで平へラケズリ 内底：口縁部ロクロナデ 体部全て具輪→下へラケズリ	E074	71.8

第225図 2号灰原出土遺物(3)



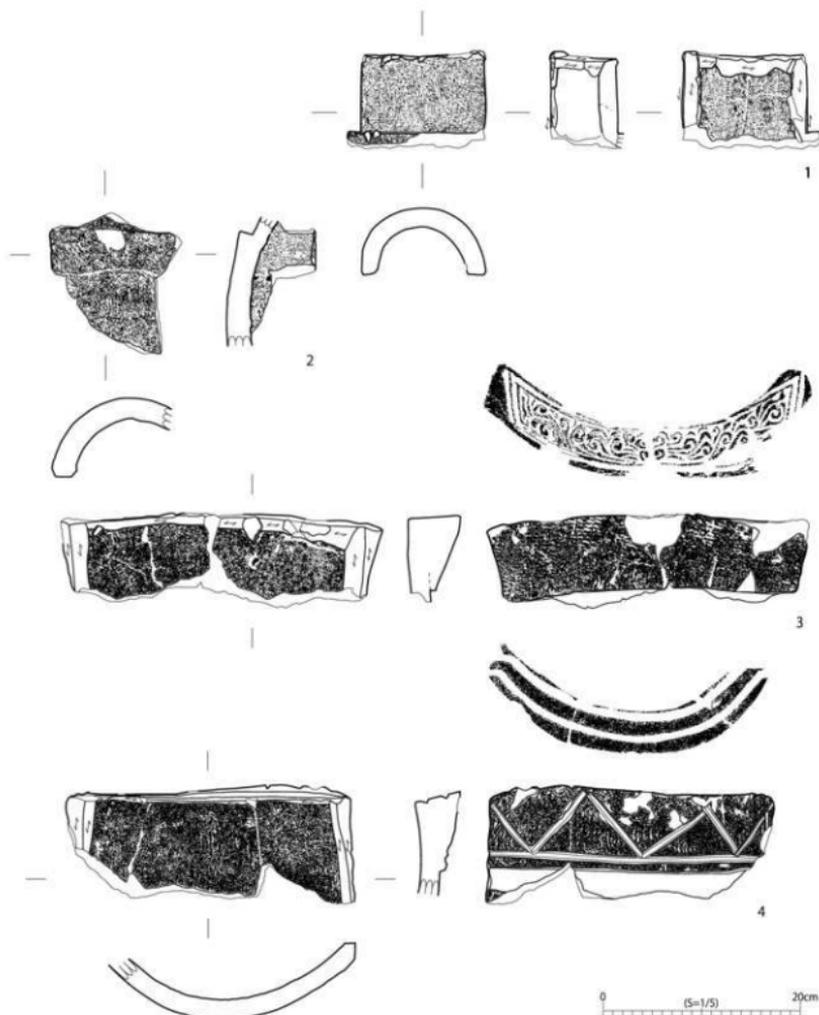
番号	遺物名 グリップ	解位	種別 器形	口径 長さ(mm)	底径 幅(mm)	器高 深さ(mm)	厚さ (g)	色調	成形・調整 備考	登録 番号	写真 掲載
1	2号灰原	1	灰原部 底	(18.7)	(15.7)	4.2	-	外面：7.5YR5/1 内面：7.5YR5/1	外面：ヘラケズリ→ナデ 脚部：ヘラケズリ、筒縁ナデ 裏面：ヘラケズリ 筒縁：ヘラケズリ	E-075	72-2
2	2号灰原	1	灰原部 底	(8.1)	(15.9)	(1.6)	-	外面：10R5/1 内面：10R5/1	外面：ヘラケズリ→ナデ 脚部：筒縁ナデ 裏面：ヘラケズリ 筒縁：ヘラケズリ	E-076	72-3
3	2号灰原	1	灰原部 底	(7.7)	(14.8)	5.0	-	外面：2.5YR5/1 内面：2.5YR5/1	外面：ヘラケズリ→ナデ 脚部：ヘラケズリ→筒縁ナデ 裏面：ナデ、ヘラケズリ 筒縁：ヘラケズリ	E-077	72-1

第226図 2号灰原出土遺物(4)



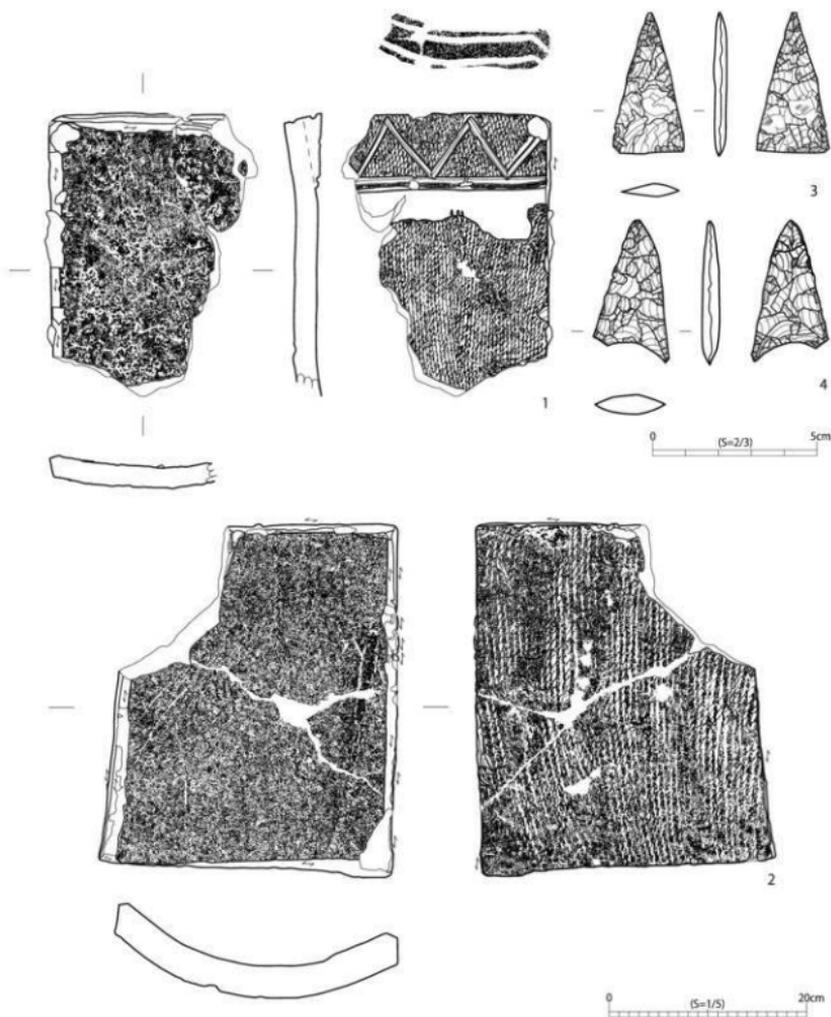
番号	遺物名 ブリード	種別	種別	最大径 (cm)	広径幅 (cm)	狭径幅 (cm)	厚寸 (cm)	外径幅 長さ(cm)	内径幅 長さ(cm)	色調	成形・調整 備考	登録 番号	写真 図版
1	2号灰原a	1	軒丸瓦	18.8+	-	-	2.3	20.6	3.9	瓦当表面：10YR6/1 瓦当裏面：N4/0 凸面：2.5YR5/1 凸面：N5/0	瓦当表面：范 織物 瓦当裏面：ヘラケズリナデ 凸面：布目織+ナデ+ヘラケズリ 凸面：ヘラケナデ 局部キザミメ状目織 織物 磨縁：自然磨のため不明	F-103	72-6
2	2号灰原a	1	軒丸瓦	6.7+	-	-	-	20.2	3.8	瓦当表面：10YR 6/2 瓦当裏面：2.5Y 4/1 凸面：2.5Y 5/1 凸面：2.5Y 5/1	瓦当表面：范 瓦当裏面：印織つぎヘラケズリナデ 凸面：ナデ 凸面：瓦織 凸面：ヘラケズリ 瓦当接合面：布目織+ヘラケズリ転写	F-104	72-7
3	2号灰原a	1	軒丸瓦	2.9+	-	-	-	16.0 (18.5)	2.8	瓦当表面：7.5YR 5/1 瓦当裏面：10YR 5/1	瓦当表面：范 瓦当裏面：印織つぎヘラケズリナデ	F-105	72-8
4	2号灰原a	1	軒丸瓦	7.6+	-	-	-	16.2 (16.4)	3.6	瓦当表面：10YR 6/2 瓦当裏面：2.5YR 5/3	瓦当表面：范 瓦当裏面：ヘラケナデ 磨縁：ナデ	F-106	72-9
5	2号灰原a	1	軒丸瓦	4.2+	-	-	-	15.3 (19.8)	3.6	瓦当表面：10YR 5/1 瓦当裏面：10YR 5/1 凸面：7.5YR3/1 凸面：7.5YR4/1	瓦当表面：范 瓦当裏面：ヘラケズリナデ 凸面：布目織+ナデ 凸面：ヘラケナデ 局部キザミメ状目織 磨縁：ヘラケズリナデ	F-107	72-10
6	2号灰原a	1	軒丸瓦	-	-	-	-	8.2 (13.5)	2.5	瓦当表面：10YR 5/1 瓦当裏面：10YR 5/1	瓦当表面：范 織物に二重押しの特徴 瓦当裏面：ヘラケズリナデ 磨縁：ヘラケズリナデ	F-108	73-1
7	2号灰原a	1	軒丸瓦	8.9+	-	-	-	19.4	3.2	瓦当表面：7.5YR 7/1 瓦当裏面：2.5Y 4/1 凸面：10YR 4/1 凸面：7.5Y 4/1	瓦当表面：范 織物 瓦当裏面：ヘラケズリナデ 凸面：ヘラケナデ 凸面：ヘラケナデ	F-109	72-11
8	2号灰原a	1	軒丸瓦	5.9+	-	-	-	19.9	3.8	瓦当表面：7.5YR 5/1 瓦当裏面：2.5YR 5/3	瓦当表面：范 瓦当裏面：ヘラケズリナデ 磨縁：ヘラケズリナデ	F-110	72-12

第227図 2号灰原a出土遺物(1)



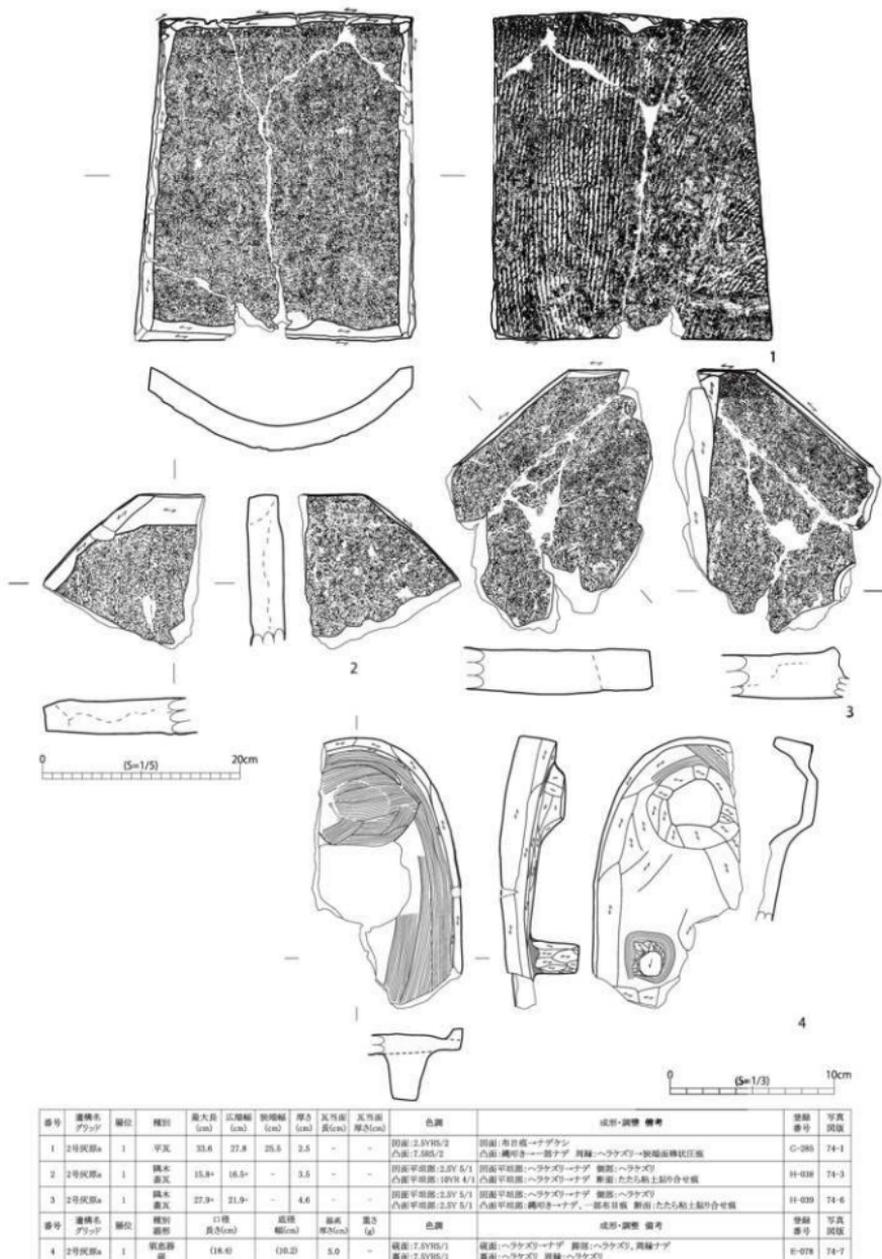
番号	遺構名 グリップ	部位	種類	最大径 (cm)	広径幅 (cm)	狭径幅 (cm)	厚さ (cm)	瓦当面 長さ(cm)	瓦当面 厚さ(cm)	色調	成否・調査 備考	登録 番号	写真 図説
1	2号灰原a	1	丸瓦	100-	13.8- 至12.6	13.8- 至12.2	2.4 至1.9	-	-	内面：10YR5/1 凸面：10YR4/1	内面：粘土組織→布目織 凸面：陶甲キ→ロクロナデ 両縁：無面・狭縁出ヘラケズリ→狭縁出三角	F-111	73-2
2	2号灰原a	1	丸瓦	14.4- 至7.7	11.6- 至11.3	11.6- 至12.3	2.4 至	-	-	内面：7.5YR5/1 凸面：5R5/1	内面：布目織→ナデ 縁部 凸面：陶甲キ→ロクロナデ 両縁：ヘラケズリ 縁部	F-112	73-5
3	2号灰原a	1	軒平瓦	9.4-	32.5	-	1.9	5.4	-	瓦当面：5YR6/1 裏面：10R 5/1 内面：7.5YR 5/1 凸面：N 5/0	瓦当面：簡 裏面：陶甲キ→ナデ 内面：布目織→ナデ 縁部 凸面：ナデ 両縁：ヘラケズリ	C-281	73-3
4	2号灰原a	1	軒平瓦	11.2-	28.3	-	1.9	4.7	-	瓦当面：7.5YR 5/1 裏面：10R 5/1 内面：10R 5/1 凸面：7.5YR 5/1	瓦当面：ヘラケズリ→ハコ目並み厚紙文、両縁ヘラケズリ 裏面：陶甲キ→ロクロナデ 内面：布目織→ナデ 縁部 凸面：陶甲キ→ナデ	G-282	73-4

第228図 2号灰原a出土遺物(2)



番号	遺構名 グリッド	層位	種別	最大径 (cm)	広幅幅 (cm)	狭幅幅 (cm)	厚さ (cm)	瓦当径 (cm)	瓦当厚 (cm)	色調	成形・調整 備考	登録 番号	写真 撮影
1	2号灰原a	1	軒平瓦	28.8	17.8	-	2.4	3.8	-	瓦当部：10YR 4/1 胎土：2.5YR 5/1 内面：7.5YR 5/1 凸部：2.5YR 5/1	瓦当部：ナブ→ヘラ指き表面文 胎土：縄野寺→ヘラ指き表面文 織野 内面：春日輪→ヘラナブ 織野 凸部：縄野寺→ナブ 織野 瓦縁：製版→ラケズリ→製版圧痕	G-283	73.0
2	2号灰原a	1	平瓦	30.0	29.6	16.9 (26.5)	3.4	-	-	胎土：10YR 4/1 凸部：10YR 4/1	内面：春日輪→春日輪→ナブナシ 織野 凸部：縄野寺 瓦縁：ヘラケズリ→圧痕	G-284	74.2
番号	遺構名 グリッド	層位	種別	口径 長さ(cm)	底径 幅(cm)	器高 径(cm)	高さ (g)	色調	成形・調整 備考	登録 番号	写真 撮影		
3	2号灰原a	1	打製石器 石鏃	4.3	2.2	0.5	2.7	-	石材：柱状燧石	K.005	74.4		
4	2号灰原a	1	打製石器 石鏃	4.0	2.1	0.5	3.1	-	石材：柱状燧石	K.006	74.5		

第229図 2号灰原a出土遺物(3)



番号	遺物名 ブツ名	部位	種別	最大長 (cm)	広幅幅 (cm)	狭幅幅 (cm)	厚さ (cm)	互角面 長さ(cm)	互角面 厚さ(cm)	色調	成形・調整 備考	登録 番号	写真 図説
1	2号灰皿a	1	平瓦	33.8	27.8	25.6	3.5	-	-	表面:2.5YH5/2 凸面:7.5B3/2	表面:布目織→ナゲタケ 凸面:縄目織→器ナゲ 両縁:ヘラケズリ→灰縁面輪状圧痕	0-285	74-1
2	2号灰皿a	1	鉄板 鉄瓦 鉄瓦 鉄瓦	15.8*	18.5*	-	3.5	-	-	表面平直部:2.5Y 6/1 凸面平直部:10Y 4/1 表面平直部:2.5Y 5/1 凸面平直部:2.5Y 5/1	表面平直部:ヘラケズリ→ナゲ 裏面:ヘラケズリ 凸面平直部:ヘラケズリ→ナゲ 裏面:たたら製土貼り合せ織 表面平直部:ヘラケズリ→ナゲ 裏面:ヘラケズリ 凸面平直部:縄目織→ナゲ、一部目織 裏面:たたら製土貼り合せ織	11-416	74-3
3	2号灰皿a	1	鉄板 鉄瓦	27.3*	21.9*	-	4.6	-	-	表面平直部:2.5Y 5/1 凸面平直部:2.5Y 5/1	表面平直部:ヘラケズリ→ナゲ 裏面:ヘラケズリ 凸面平直部:縄目織→ナゲ、一部目織 裏面:たたら製土貼り合せ織	11-439	74-6
4	2号灰皿a	1	銅板 銅板	18.4)	19.2)	19.2)	5.0	-	-	表面:7.5YH5/1 裏面:2.5YH5/1	表面:ヘラケズリ→ナゲ 裏面:ヘラケズリ、縄目織 裏面:ヘラケズリ 両縁:ヘラケズリ	0-078	74-7

第230図 2号灰原a出土遺物(4)

重弁蓮華文軒丸瓦、細弁蓮華文軒丸瓦、重弧文軒平瓦、均整唐草文軒平瓦、隅切瓦、平瓦、須恵器環、風字硯が出土している。

## 2号灰原 a (SQ2a) (第206・208・227～230図)

調査区の中央部、地滑りによる堆積層の東、H～J-22～24グリッドで確認した東西16.8m、南北14mの明黄褐色シルトの範囲である。2号灰原の流出土が堆積した層とみられ、遺物を多く含む。窯跡内燃料残滓層を由来としない土層で、広義の意味で灰原とした。堆積層は焼土粒を含む褐色シルト層である。

遺物は、軒丸瓦・丸瓦・軒平瓦・平瓦・隅木蓋瓦・須恵器・硯・石器が出土した。総破片数は368点で20点を図示した。出土層位は1層から隅木蓋瓦・重弁蓮華文軒丸瓦・細弁蓮華文軒丸瓦・重弧文軒平瓦・均整唐草文軒平瓦・平瓦・風字硯が出土している。

## 土 坑

### 1号土坑 (SK1) (第231図・第12表)

調査区北部の南斜面、I-19グリッドに位置する。Ⅲ層上面で確認した。他の遺構との重複関係はない。平面形は、長軸2.80m、短軸2.45mの楕円形である。深さは50cmで、断面形は箱型である。主軸方向はN-16°-Eである。底面は細かい凹凸があり、斜面と同じ方向に傾斜する。堆積土は4層に分けられ、1層は暗褐色砂質シルト、2層は明黄褐色シルト、3層はオリーブ褐色砂、4層は明黄褐色砂である。遺物は出土していない。

### 2号土坑 (SK2) (第231図・第12表)

調査区北部の南斜面、H-21グリッドに位置する。地滑りで移動したⅢ層上面で確認した。他の遺構との重複関係はない。平面形は長軸1.1m、短軸50cmの楕円形である。深さは90cmで、断面形は「U」字形である。主軸方向はN-1°-Wである。堆積土は5層に分けられ、1層は灰黄褐色シルト、2層はにぶい黄褐色砂質シルト、3層は黒色砂質シルト、4層はにぶい黄褐色砂質シルト、5層は黒褐色シルトである。

遺物は、1層から丸瓦・平瓦が出土した。総破片数は4点で、図示したものはない。

### 3号土坑 (SK3) (第231図・第12表)

調査区北部の南斜面、H-22グリッドに位置する。地滑りで移動したⅢ層上面で確認した。他の遺構との重複関係はない。上部は削平を受け、残存状態は悪い。平面形は長軸2.4m、短軸1.3mの長楕円形である。深さは20cmで、断面形は浅い皿形である。主軸方向はN-62°-Wである。底面は緩やかな凹凸があり被熱痕が見られ、短軸方向で北に緩やかに傾斜している。これはⅢ層が崩落したための傾斜である。

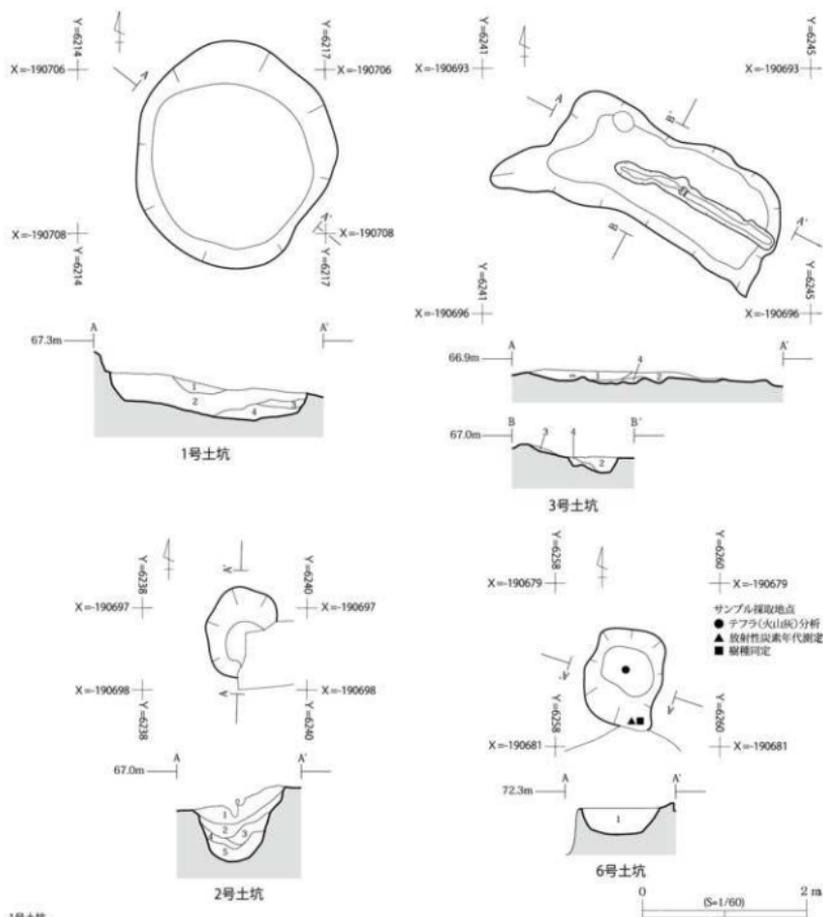
堆積土は4層に分けられ、1層は灰褐色砂質シルト、2層は黒褐色砂質シルト、3層は灰褐色砂質シルト、4層は黒褐色砂質シルトである。遺物は、1層から丸瓦・平瓦が出土した。総破片数は27点で、図示したものはない。

### 4号土坑 (SK4) (第232図・第12表)

調査区北部の南斜面、K-23グリッドに位置する。Ⅲ層上面で確認した。他の遺構との重複関係はない。上部は削平を受けている。平面形は長軸5.6m、短軸1.5mの不整形である。深さは40cmで断面形は浅い皿形である。主軸方向はN-14°-Wである。底面は平坦で、被熱痕が見られる。堆積土は8層に分けられ、上部はにぶい黄褐色砂質シルト、下部は黒色砂質シルトが主体である。遺物は、1層から平瓦が出土した。総破片数は2点で、図示したものはない。

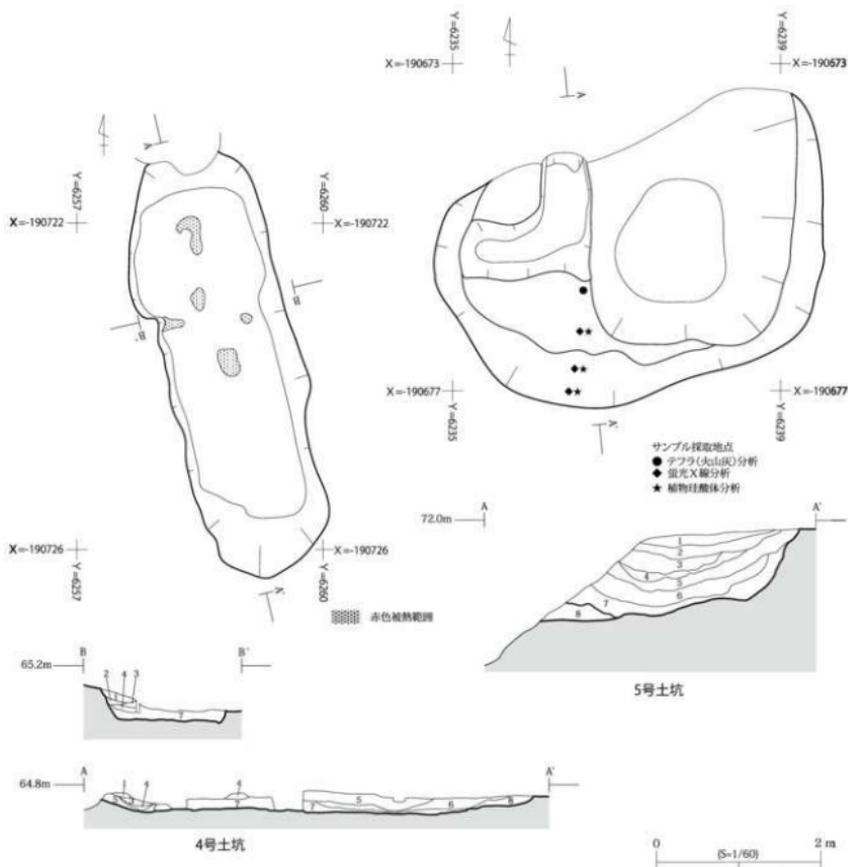
### 5号土坑 (SK5) (第232～236図・第12表)

調査区北部の南斜面、F-21グリッドに位置する。Ⅲ層上面で確認した。2つの遺構の重複で、本遺構が新しく、古い遺構を削平している。ここでは古い遺構を8層とする。平面では確認できなかった。平面形は長軸4.75m、短軸3.35mの楕円形である。深さは1.1mで、断面形は「U」字形である。主軸方向はN-74°-Wである。底面



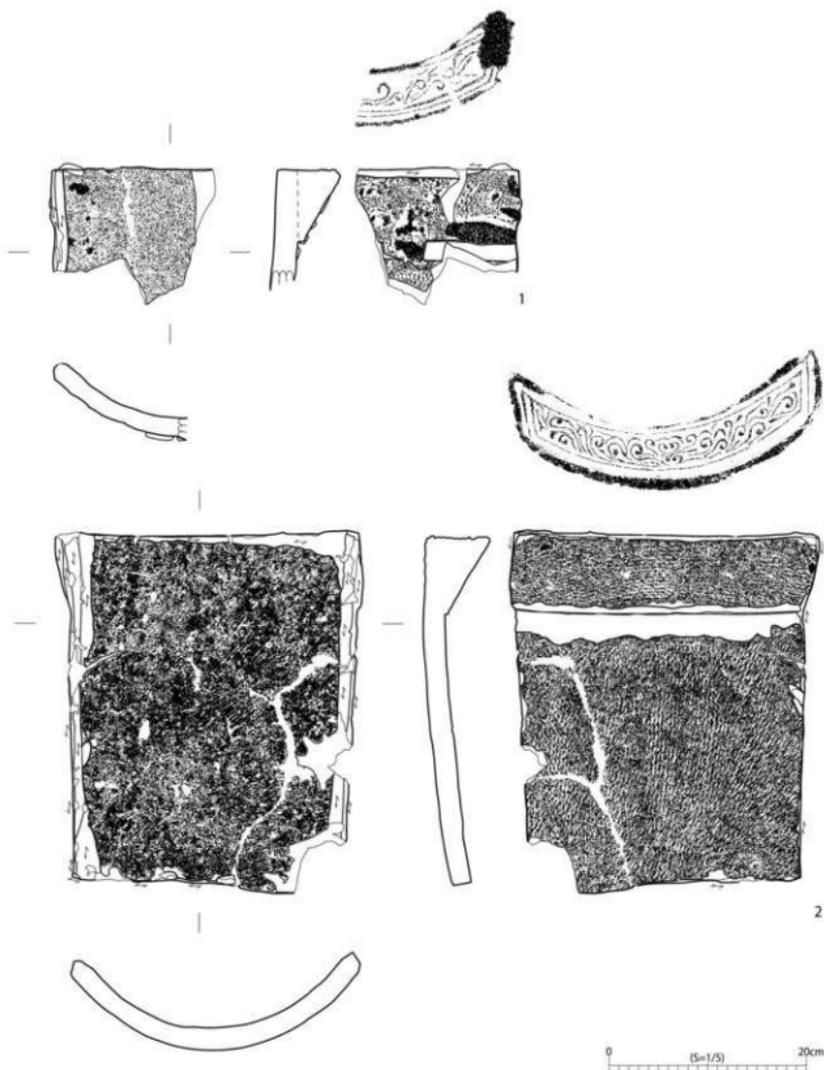
1号土坑				2号土坑			
層位	土色	土性	特徴	層位	土色	土性	特徴
1	黒褐色7.5YR3/3	砂質シルト	砂質シルトに灰・炭粉・ブロック・砂質シルトに灰・炭粉を多量含む。	1	灰褐色10YR4/2	砂質シルト	砂質シルトに灰・炭粉を多量含む。焼土粒を少量含む。
2	明黄褐色10YR6/6	砂質シルト		2	灰褐色10YR5/3	砂質シルト	炭化物粒・焼土粒を微量含む。
				3	黒褐色10YR3/2	砂質シルト	マンガン粒を中量含む。小礫を少量含む。
3号土坑				6号土坑			
層位	土色	土性	特徴	層位	土色	土性	特徴
3	オリーブ5Y3/4	砂質シルト	炭化腐朽ブロックを少量含む。	1	灰褐色7.5YR4/2	砂質シルト	炭化物粒を微量含む。
				2	黒褐色10YR3/1	砂質シルト	炭化物粒を多量含む。焼土粒を微量含む。
				3	灰褐色7.5YR4/2	砂質シルト	炭化物粒を微量含む。
				4	黒褐色10YR3/1	砂質シルト	炭化物粒を多量含む。
6号土坑							
層位	土色	土性	特徴				
1	明黄褐色10YR6/6	シルト	焼土粒を微量含む。灰白色石灰質・焼土ブロックを微量含む。				

第231図 1~3・6号土坑平面図・土層断面図



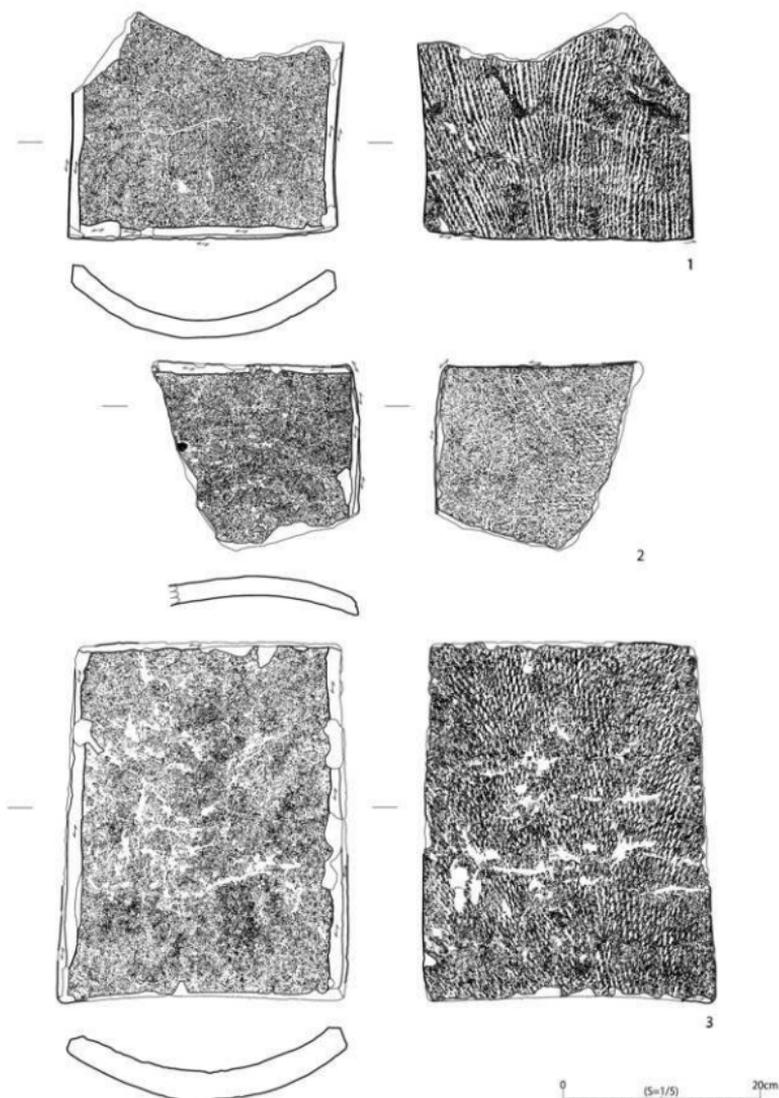
4号土坑				5号土坑			
層位	土色	土性	物産	層位	土色	土性	物産
1	にじい・黄褐色10YR4/2	砂質シルト	砂質シルト(黒褐色)・炭化物粒を少量含む。焼土粒を微量含む。	1	にじい・黄褐色10YR5/4	粘土	下部に粘土質シルト(黒褐色)を少量含む。
2	にじい・黄褐色10YR4/2	砂質シルト	砂質シルト(黒褐色)を少量含む。炭化物粒・焼土粒を微量含む。砂質シルト(にじい・黄褐色)を微量含む。	2	にじい・黄褐色10YR5/4	粘土	粘土(にじい・黄褐色)ブロックを含む。焼土粒を微量含む。
3	黒褐色10YR2/2	砂質シルト	砂質シルト(にじい・黄褐色)・炭化物粒を少量含む。焼土ブロックを微量含む。	3	にじい・黄褐色10YR4/2	粘土質シルト	上部に粘土質シルト(にじい・黄褐色10YR5/4)ブロックを含む。炭化物粒・焼土粒を少量含む。
4	にじい・黄褐色10YR5/4	粘土質シルト	炭化物ブロックを含む。	4	にじい・黄褐色10YR4/2	粘土質シルト	炭化物粒を多量含む。下部に焼土粒を多量含む。
5	黒褐色10YR2/2	砂質シルト	炭化物粒・焼土粒を少量含む。	5	にじい・黄褐色10YR5/4	粘土質シルト	下部に炭化物粒・焼土粒を多量含む。
6	黒褐色10YR2/2	粘土質シルト	炭化物ブロック・砂質シルト(黒褐色)を少量含む。	6	にじい・黄褐色10YR5/4	粘土質シルト	砂質シルト(黄褐色)ブロック・灰白色火山灰(にじい・黄褐色)を含む。炭化物粒・焼土粒を微量含む。
7	黒10YR2/1	砂質シルト	炭化物ブロックを多量含む。粘土質シルト(にじい・黄褐色)を少量含む。焼土粒を微量含む。	7	にじい・黄褐色10YR5/4	粘土質シルト	炭化物粒・焼土粒を少量含む。
8	灰黄褐色10YR4/2	砂質シルト	下部に砂質シルト(にじい・黄褐色)ブロック・炭化物粒を少量含む。焼土粒を微量含む。	8	にじい・黄褐色10YR5/4	粘土質シルト	炭化物粒・焼土粒を含む。 5号土坑より古い遺構の残存上。

第232図 4・5号土坑平面図・土層断面図



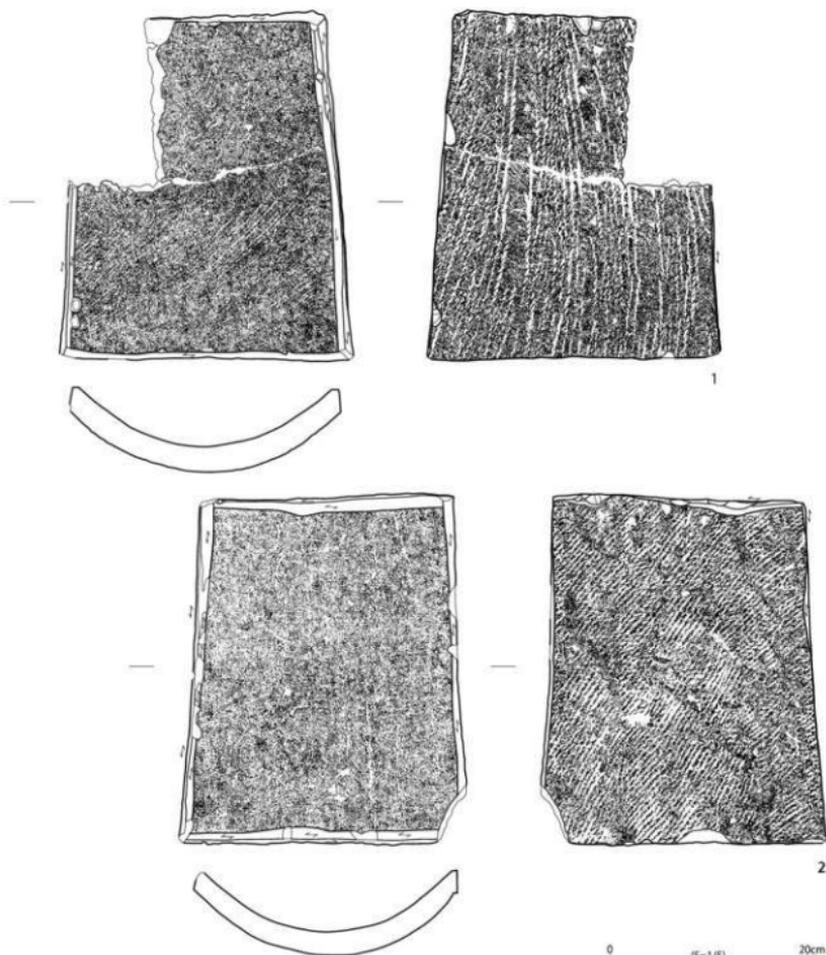
番号	遺構名 グリップ	層位	種別	最大径 (cm)	広端幅 (cm)	狭端幅 (cm)	厚さ (cm)	瓦当面 長(cm)	瓦当面 厚さ(cm)	色調	成形・調整	備考	登録 番号	写真 掲載
1	5号土坑	3	軒平瓦	14.4	10.8	-	2.4	5.0	-	瓦当面：Z.5YR.3/1 製面：2.5Y 6/1 内面：2.5Y 6/1 凸面：2.5Y 6/1	瓦当面：凹 製面：縄甲キ→ナデ 内面：ナデ 凸面：縄甲キ→ナデ	瓦線：ヘラケズリ	G-286	75-1
2	5号土坑	3	軒平瓦	36.0	30.9	22.8 (27.2)	2.2	6.3	-	瓦当面：N 5/O 製面：N 5/O 内面：N 6/O 凸面：2.5YR 5/1	瓦当面：凹 製面：縄甲キ→ナデ 内面：赤切面→赤目黒→ナデ 凸面：縄甲キ→ナデ	瓦線：側面・狭端面ヘラケズリ→側面凹線	G-287	75-2

第233図 5号土坑出土遺物(1)



番号	遺構名	層位	種類	最大長 (cm)	広さ幅 (cm)	狭さ幅 (cm)	厚さ (cm)	瓦当面 長(cm)	瓦当面 厚さ(cm)	色調	成形・調整	備考	登録 番号	写真 番号	
1	5号土坑	4	平瓦	23.3	26.6	-	2.2	-	-	内面：N4/O 凸面：N5/O	内面：糸切り彫→布目織→ナデ 凸面：刷印き	瓦縁：割面・広端部ヘラケズリ	断面：たたら粘土製り合せ	G-288	75-3
2	5号土坑	3	平瓦	19.4	-	19.6	2.0	-	-	内面：2.5Y5/1 凸面：10R5/1	内面：ナデケン 凸面：糸切り彫→刷目織	瓦縁：割面・狭端部ヘラケズリ		G-289	75-4
3	5号土坑	3	平瓦	36.9	29.0	26.9	3.1	-	-	内面：10Y5/1 凸面：2.5Y5/1	内面：糸切り彫→布目織→ナデケン 凸面：刷印き	瓦縁：割面・ヘラケズリ		G-290	76-1

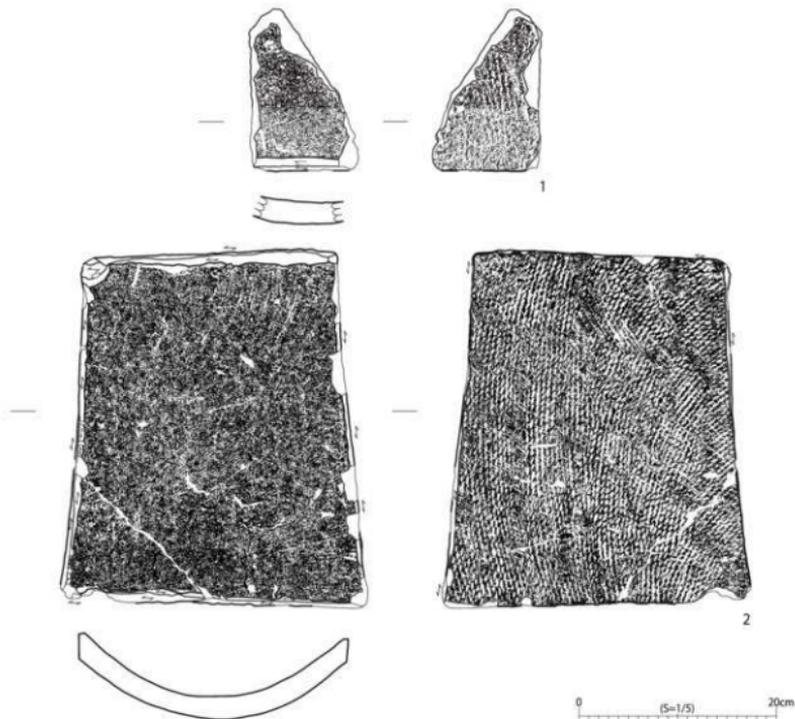
第234図 5号土坑出土遺物(2)



番号	遺物名	層位	種別	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	狭幅幅 (cm)	厚さ (cm)	瓦当面 長さ (cm)	瓦当面 厚さ (cm)	色調	形状・調整	備考	図録 番号	写真 掲載
1	5号土坑	3	平瓦	35.7	29.8	1.80 (26.5)	2.8	-	-	内面：2.5YR6/2 外面：10YR6/1	内面：糸切り線→斜目織→ナデ 外面：糸切り線→斜目織	瓦縁：ヘラケズリ→擦面・鉄線刷毛	C-291	76-2
2	5号土坑	3	平瓦	35.8	25.8 (29.5)	24.8 (25.7)	2.4	-	-	内面：10YR6/1 外面：10YR6/2	内面：糸目織→ナデ 外面：斜目織	瓦縁：ヘラケズリ→鉄線刷毛	C-292	76-3

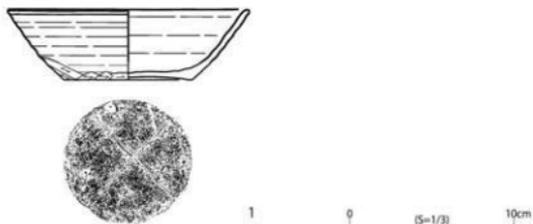
第235図 5号土坑出土遺物(3)

は緩やかな起伏がある。堆積土は7層に分けられる。にふい黄褐色シルトと黒褐色シルトの互層である。そのうち、6層に灰白色火山灰が認められた。遺物は3層から、均整唐草文軒平瓦・方形突出平瓦・平瓦・風字硯、4層から平瓦・土師器が出土している。総破片数は150点で、9点図示した。



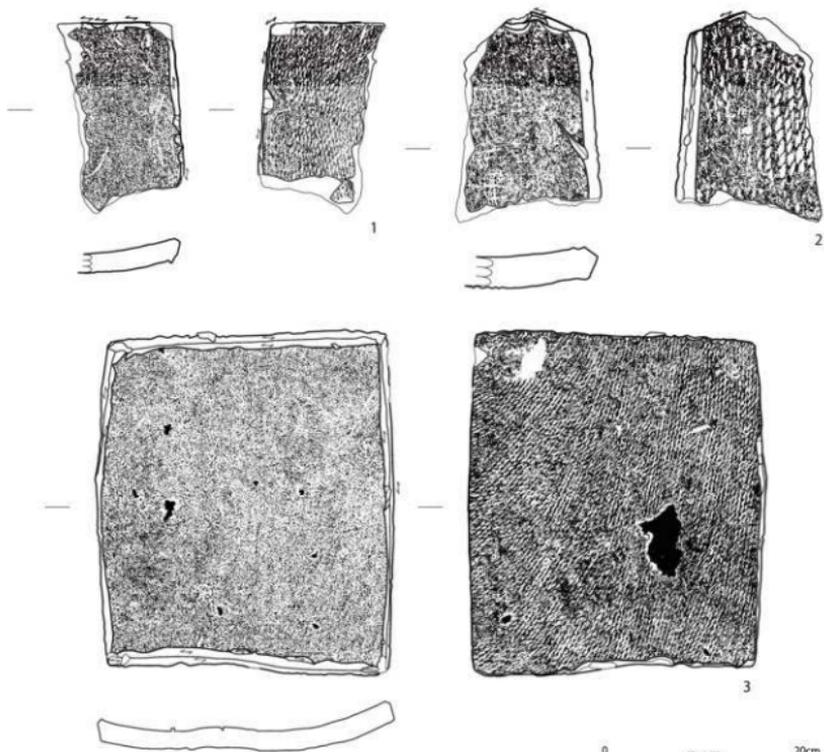
番号	遺体名 フリッド	層位	種類	最大長 [cm]	最大幅 [cm]	取付幅 [cm]	厚さ [cm]	瓦当目 長さ[cm]	瓦当目 厚さ[cm]	色調	形状・調整 備考	登録 番号	写真 図版
1	5号土坑	3	平瓦	16.5	8.4	-	2.3	-	-	内面：10R5/6 凸面：2.5YR4/3	内面：糸切り筋→布目織 凸面：縷巾き 調整：広端部へラケズリ	凸面：不明押印	G-293 77-2 101
2	5号土坑	3	平瓦	30.7	30.9	25.6	2.4	-	-	内面：NS/O 凸面：10R5/1	内面：糸切り筋→布目織→ナゲケシ 凸面：糸切り筋→縷巾き 調整：ヘラケズリ		G-294 77-1

第236図 5号土坑出土遺物(4)



番号	遺体名 フリッド	層位	種類	口径 長さ[cm]	底径 幅[cm]	器高 深2[cm]	高さ 深3[cm]	色調	形状・調整 備考	登録 番号	写真 図版
1	6号土坑	1	深底調 鉢	(14.4)	(7.4)	4.3	-	内面：NS/O 外面：14/O	外面：ロケロナデ→下層手特ヘラケズリ 底部：切り筋 内面：ロケロナデ 調整：ヘラケズリ	底面：不明→手特ヘラケズリ 底面：ヘラケズリ	E-079 77-3

第237図 6号土坑出土遺物



番号	遺構名 グリッド	層位	種類	最大径 (cm)	広径幅 (cm)	狭径幅 (cm)	厚さ (cm)	瓦当径 長(cm)	瓦当径 厚さ(cm)	色調	成形・調査 備考	登録 番号	写真 図版
1	G23K	堆積層	平瓦	19.6	-	11.6	2.3	-	-	凹面：NS/O 凸面：10RS/1	凹面：糸目瓦→ナデ 凸面：陶甲き 両縁：側面・狭径面ヘラケズリ→側面圧痕	G-295	77-4 106
2	F23K	遺構面	隅切瓦	15.3	-	1.4	2.3	-	-	凹面：10YS/1 凸面：10YS/1	凹面：糸目瓦→ナデ 凸面：陶甲き 凹面付付痕 両縁：ヘラケズリ→狭径面付痕	H-040	77-5
3	G23K	堆積層	平瓦	35.3	28.4	28.2	2.2	-	-	凹面：10YS/1 凸面：7.5YS/1	凹面：糸切り瓦→糸目瓦→ナデ 凸面：陶甲き 両縁：ヘラケズリ→圧痕	G-296	77-6

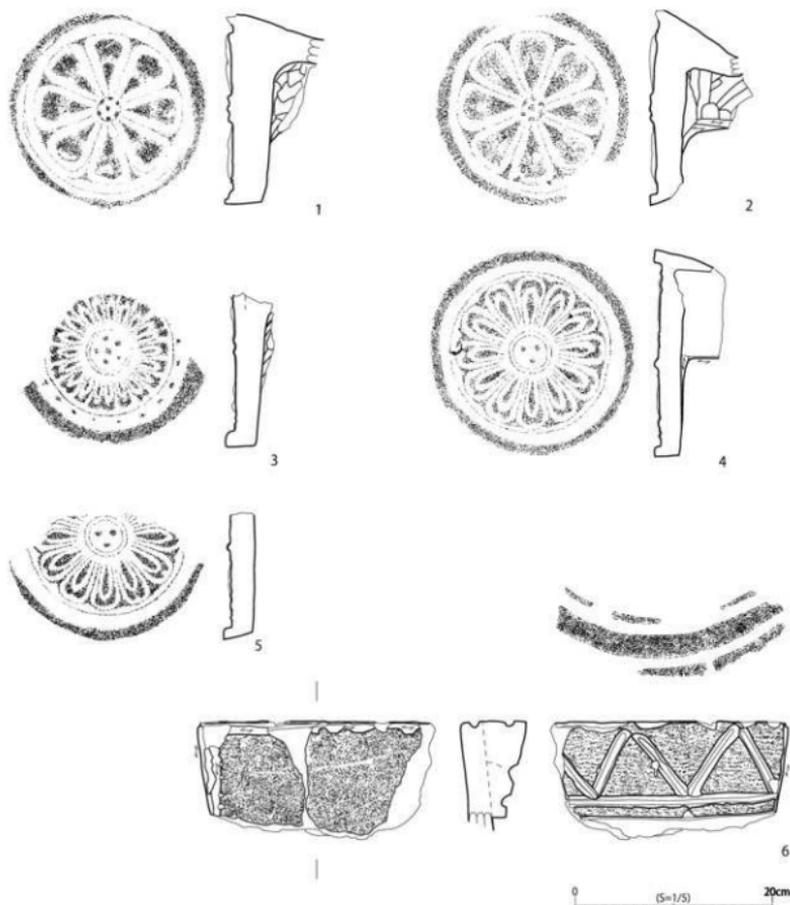
第238図 堆積層出土遺物

## 6号土坑 (SK6) (第231・237図・第12表)

調査区北部の南斜面、F-22・23グリッドに位置する。堆積層上面で確認した。他の遺構との重複関係はない。平面形は長軸1.2m、短軸95cmの隅丸方形である。深さは30cmで断面形は箱形である。主軸方向はN-9°-Wである。底面は、平坦である。堆積土は単層で灰白色火山灰を含む。遺物は1層から須恵器が出土している。総破片数は6点で、1点図示した。

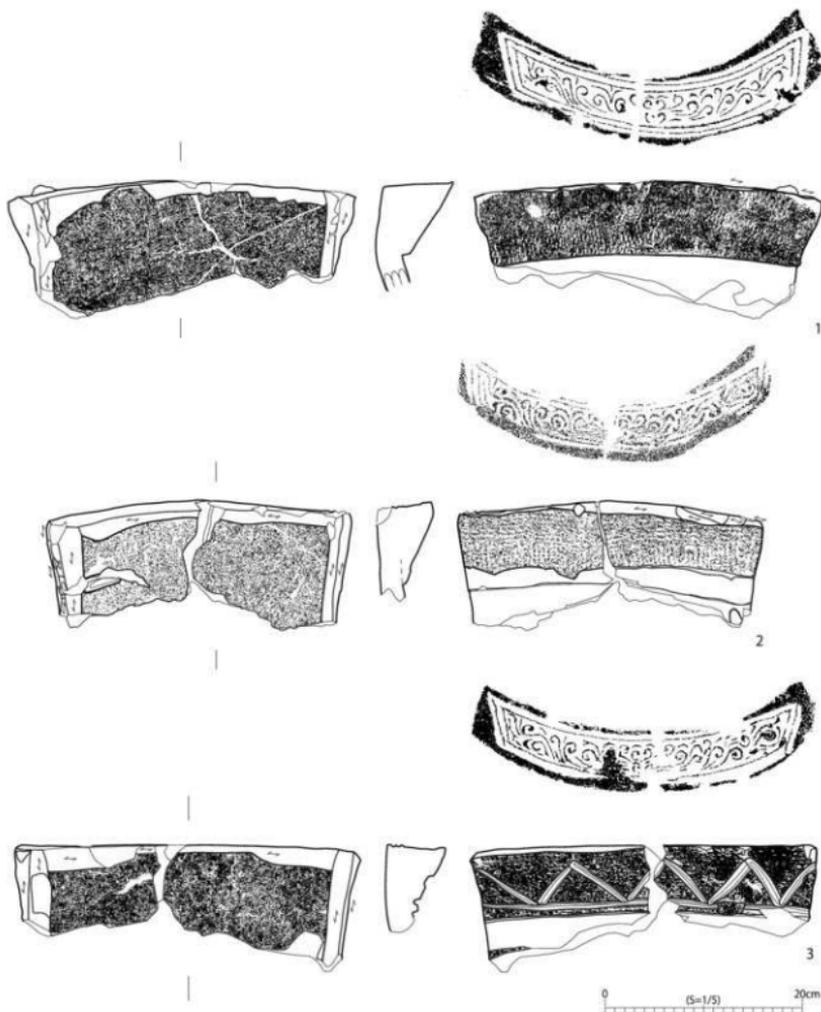
## 遺構外出土遺物 (第239～244図)

表土・表採・攪乱から軒丸瓦・丸瓦・軒平瓦・平瓦・製斗瓦・隅切瓦・隅木蓋瓦・土師器・須恵器・硯・石器が出土した。総破片数は8,816点で、26点を図示した。



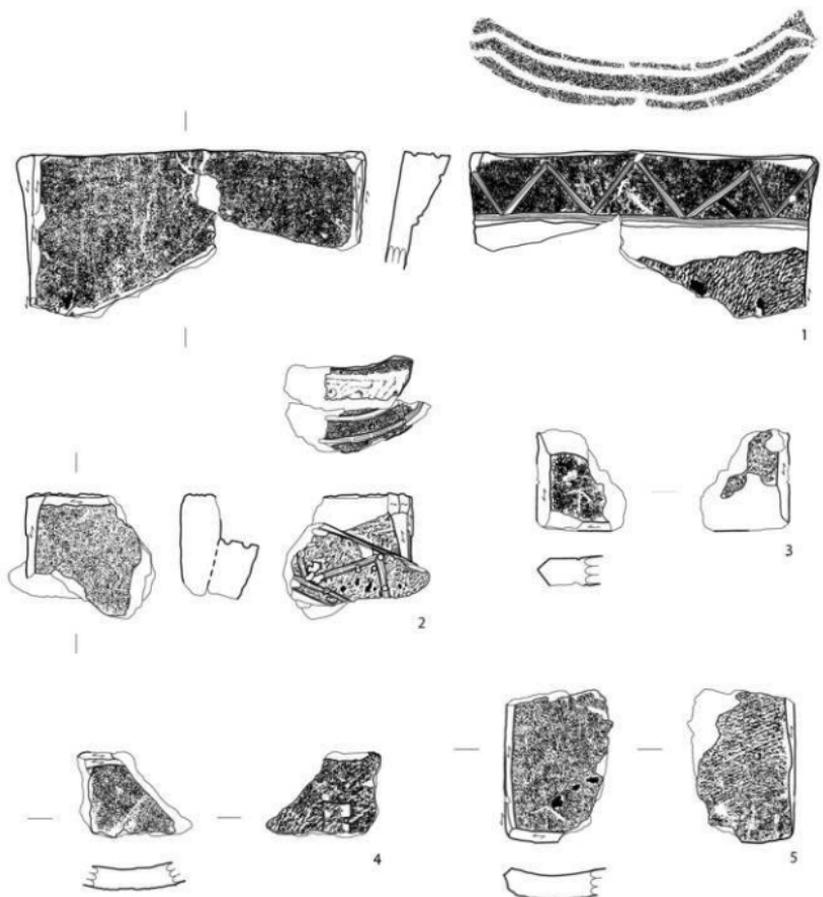
番号	器種名 グリップ	器位	種類	最大径 (cm)	口内径 (cm)	胴径 (cm)	厚さ (cm)	瓦当面 長(cm)	瓦当面 厚さ(cm)	色澤	成形・装飾 備考	登録 番号	写真 図版
1	G23K	表土	軒丸瓦	10.1+	-	-	2.6	19.4	4.8	瓦当面：10YR 6/1 瓦当面裏：N5/O 内面：N 5/O 凸面：10YR 5/1	瓦当面：筒 瓦当面裏：ケズリ→ナデ 内面：木目紋→ナデ 凸面：ヘラケズリ、胴部キザミメ状圧痕 肩縁：胴部ヘラケズリ→ナデ	F-113	78-1
2	G23K	表土	軒丸瓦	10.4+	-	-	19.7	3.6	3.6	瓦当面表：5YR6/1 瓦当面裏：7.5YR5/1 内面：5YR 5/1 凸面：5YR 6/1	瓦当面表：筒 瓦当面裏：ヘラケズリ→ナデ 内面：ナデ 凸面：ナデ、胴部キザミメ状圧痕 肩縁：胴部ヘラケズリ	F-114	78-2
3	H21K	表土	軒丸瓦	-	-	-	15.4 (D0.7)	3.9	3.9	瓦当面表：2.5Y 6/1 瓦当面裏：7.5YR 5/1 内面：10YR 5/1	瓦当面表：筒 瓦当面裏：筒 内面：ヘラケズリ→ナデ 胴縁部：粘土貼付痕	F-115	78-3
4	G21K	表土	軒丸瓦	6.5+	-	-	21.0	2.8	2.8	瓦当面表：10YR 5/1 瓦当面裏：10R 5/1 内面：10YR 5/1 凸面：10YR 5/1	瓦当面表：筒 瓦当面裏：筒 内面：ナデ 凸面：ヘラケズリ→ナデ 肩縁：ヘラケズリ、ヘラナデ	F-116	78-4
5	H23K	横瓦	軒丸瓦	-	-	-	12.9 (D0.4)	2.8	2.8	瓦当面表：7.5YR 5/1 瓦当面裏：N 5/O 内面：10YR 5/1	瓦当面表：筒 瓦当面裏：筒 内面：ヘラケズリ→ナデ 肩縁：ヘラケズリ	F-117	78-5
6	G23K	表土	軒平瓦	11.6+	23.2+	-	6.4	-	-	瓦当面：10YR 6/1 胴面：10YR 6/1 内面：7.5YR 5/1	瓦当面：ヘラケズリ→ナデ 胴面：木目紋 内面：木目紋→布目紋→ナデ 肩縁：胴部ヘラケズリ	G-297	78-6

第239図 遺構外出土遺物(1)



番号	通称名 グリッド	層位	種別	最大長 (cm)	広端幅 (cm)	狭端幅 (cm)	厚さ (cm)	瓦当面 長(cm)	瓦当面 厚さ(cm)	色調	成形・製造 備考	登録 番号	写真 図版	
1	H238C	表土	軒平瓦	13.7	35.2	-	2.7	7.1	-	瓦当面：10YR 6/1 裏面：7.5YR 5/1 凸面：7.5YR 5/1 凸面：7.5YR 5/1	瓦当面：唐 蓮華 裏面：縄文セ→ナデ 凸面：赤切欠→赤目直→ナデ 凸面：縄文セ→ナデ 高縁：割面ヘラケズリ	全面白化粧	G-208	78-7
2	H238C	表土	軒平瓦	13.2	30.6	-	5.4	-	-	瓦当面：10YR 6/1 裏面：5YR 5/1 凸面：5YR 5/1 凸面：2.5YR 5/1	瓦当面：唐 裏面：縄文セ→ヘラケズリ 凸面：赤切欠→赤目直→ナデ 凸面：縄文セ→ナデ 高縁：割面ヘラケズリ		G-209	79-1
3	H238C	腐土	軒平瓦	12.0	35.0	-	5.8	-	-	瓦当面：7.5YR 5/1 裏面：7.5YR 5/1 凸面：10R 5/1 凸面：7.5YR 5/1	瓦当面：唐 蓮華 裏面：10YR 6/1→ヘラケズリ 凸面：赤切欠→ナデ 高縁と高縁 凸面：縄文セ→ナデ 高縁：割面・広縁面ヘラケズリ		G-300	79-2

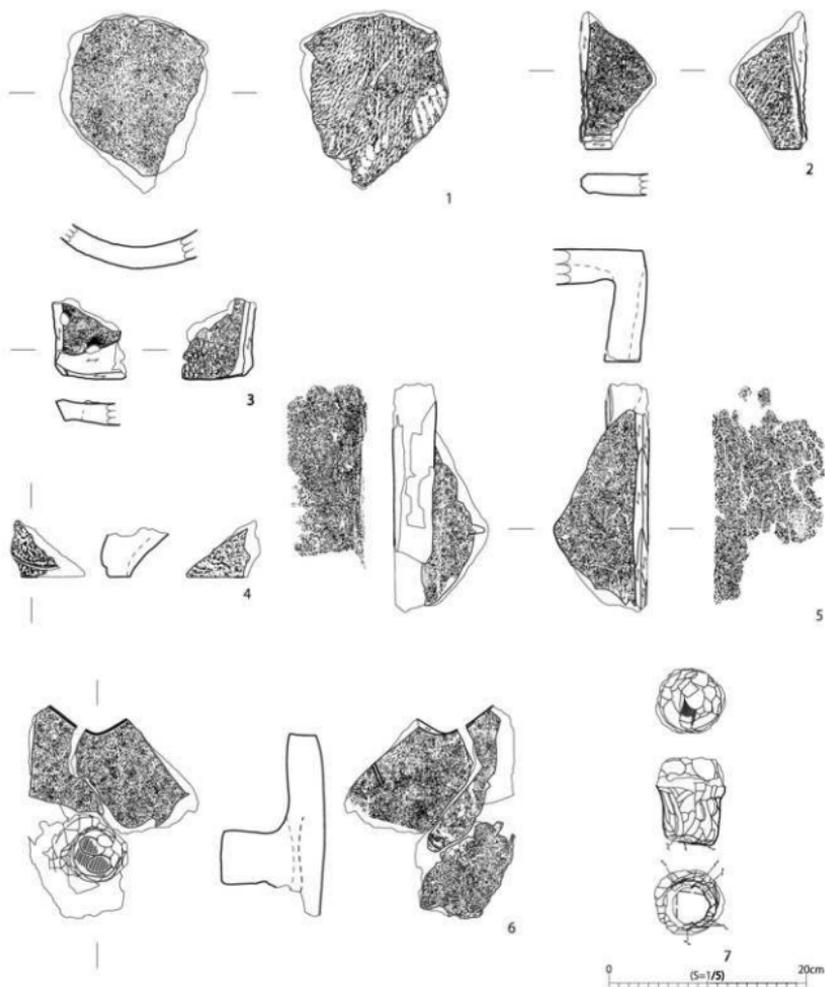
第240図 遺構外出土遺物(2)



0 (5=1/5) 20cm

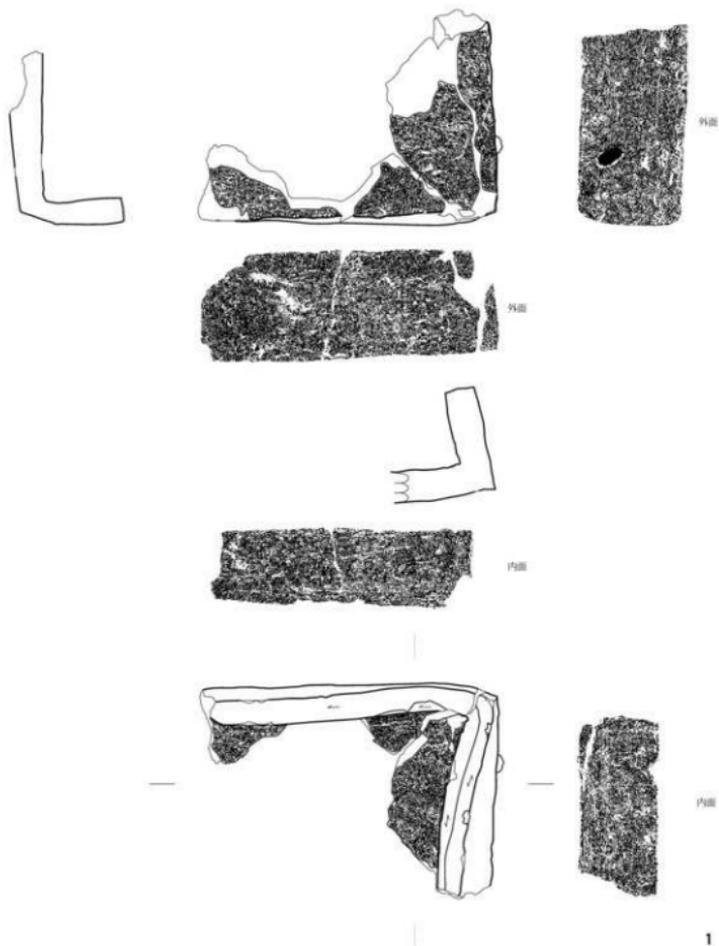
番号	遺構名 グリッド	層位	種類	最大径 (cm)	広径幅 (cm)	狭径幅 (cm)	厚さ (cm)	瓦当面 長(cm)	瓦当面 厚さ(cm)	色調	成肌・調査 備考	登録 番号	写真 図版
1	H23K	覆瓦	軒平瓦	16.6+	35.0	-	-	4.5	-	瓦当面：10R 5/1 製法：7.5YR 5/1 凸面：7.5YR 5/1 凸面：7.5YR 5/1	瓦当面：駒甲き→ヘラケズリ→ヘウ摺き垂瓦文。朝顔ヘラケズリ 製法：駒甲き→ナダケン→ヘウ摺き垂瓦文。朝顔ヘラケズリ 凸面：赤目黒→ナダケン 凸面：駒甲き→ナダ	G-301	79-3
2	H23K	覆瓦	軒平瓦	重(12.8) 均(8.4)	重(12.5) 均(8.5)	-	-	重(4.0) 均(3.0)	-	瓦当面表：重 2.5Y 5/2 瓦当面裏：均 10YR5/2 製法：重 2.5Y 6/2 製法：均 5YR 3/1 凸面：重 5Y4/1 凸面：均 5Y4/1	瓦当面：重ヘラケズリ→ヘウ摺き垂瓦文 自然釉 瓦当面：均 凹 自然釉 製法：重 駒甲き→ヘウ摺き垂瓦文 自然釉 均 駒甲き 自然釉 凸面：重 駒甲のたか不明 自然釉 均 赤切取→赤目黒→ナダ 自然釉 凸面：均ヘラケズリ 垂瓦文軒平瓦と均摺き平瓦軒平瓦が縁	G-302	79-4
3	H225K	表土	平瓦	9.9+	3.5+	-	2.9	-	-	凸面：10YR5/2 凸面：10YR5/2	凸面：ナダケン 凸面：駒甲き 縁線：朝顔、広端面ヘラケズリ 凸面：ヘウ摺き「下」	G-303	79-5 106
4	G215K	表土	平瓦	8.7+	-	1.4+	2.3	-	-	凸面：10YR5/1 凸面：10YR6/1	凸面：ナダケン 凸面：駒甲き 縁線：狭端面ヘラケズリ 凸面：方摺「下」	G-304	79-6
5	F225K	表土	平瓦	15.4+	5.2+	-	2.6	-	-	凸面：2.5YR4/2 凸面：10YR4/1	凸面：赤切り筋→ナダケン 凸面：駒甲き→一部ナダ 縁線：朝顔、広端面ヘラケズリ 凸面：ヘウ摺き「下」	G-305	79-7 106

第241図 遺構外出土遺物(3)



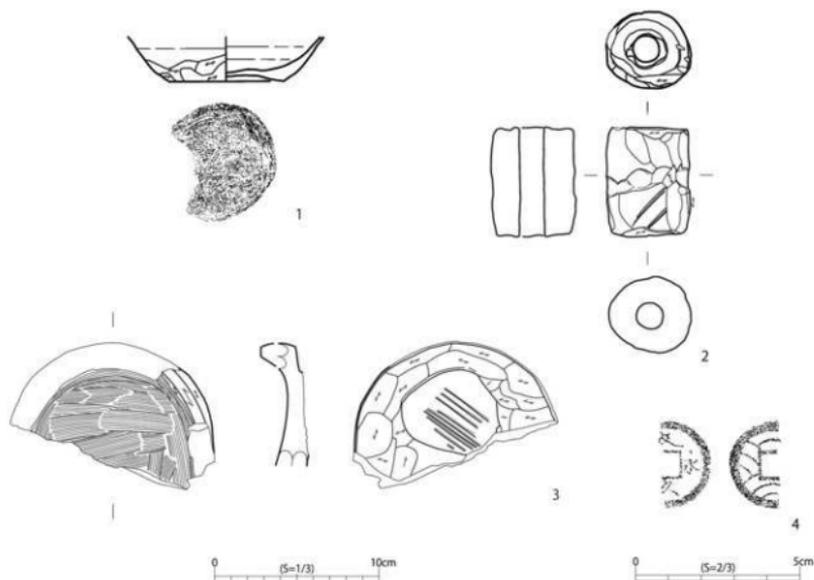
番号	遺構名 ドリット	層位	種類	最大長 (cm)	広径幅 (cm)	狭径幅 (cm)	厚さ (cm)	瓦当部 長さ(cm)	瓦当部 厚さ(cm)	色調	成形・調製 備考	登録 番号	写真 図版
1	H235K	表土	平瓦	18.3-	14.9-	-	2.3	-	-	内面：10YR6/2 凸面：2.5Y5/1	内面：糸切り巻→糸目巻→ナデ 自然釉 凸面：磨甲巻、磨甲状瓦縁	G-306	80.1
2	H235K	表土	平瓦	14.1-	2.6-	-	2.1	-	-	内面：10YR6/1 凸面：10YR5-1	内面：糸目巻→ナデケン 凸面：磨甲巻 凹型凹瓦縁 瓦縁：磨甲・広端面ヘラケズリ、側面磨甲状ワリ出し	G-307	80.2
3	H240K	表土	平瓦	7.3-	7.1-	-	2.2	-	-	内面：5YR3/1 凸面：5Y5/1	内面：ヘラケズリ 縦巻 凸面：磨甲巻 自然釉 瓦縁：磨甲・広端面ヘラケズリ 断面：磨甲粘土貼付	G-308	80.3
4	H225K	表土	不明瓦	3.7-	-	-	2.2	-	-	内面：N 3/0 凸面：10YR 3/1	内面：自然釉のぬめり面 凸面：磨 自然釉 縦巻：磨甲ヘラケズリ	H041	80.4
5	H235K	表土	陶木 蓋瓦	23.0-	9.6-	高 6.7	3.6	-	-	内面平切部：10YR 5/2 凸面平切部：10YR 5/2	内面平切部：ナデ 凸面平切部：ナデ 断面：ヘラケズリ 断面：たたら粘土貼り合わせ巻	H042	80.5
6	H235K	表土	陶木 蓋瓦	21.6-	16.0-	-	3.6	-	-	内面平切部：10YR 3/1 凸面平切部：10YR 3/1	内面平切部：ナデ 突起部：ハケメ→ナデ 凸面平切部：磨甲巻→ケズリ →ナデ 断面：ヘラケズリ 突起部：長さ7.0 厚5.2	H043	80.7
7	H235K	表土	陶木 蓋瓦	9.0	突起部 長さ5.8	-	厚 0.9	-	-	突起部：10YR 5/1	突起部：ナデ、断面ヘラケズリ 接合部：ハケメ	H044	80.6

第242図 遺構外出土遺物(4)



番号	遺構名	層位	種類	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	瓦当部 長(cm)	瓦当部 厚さ(cm)	色調	成形・調整 備考	登録 番号	写真 図版
1	023K	表土	瓦木 破瓦	30.2	21.8	-	3.2	-	内面平部部：10YR5/1 外面平部部：10YR5/1 断面：ヘラケズリ→ヘラナデ	内面平部部：ヘラナデ、ミミナデ 外面平部部：ヘラケズリ→ヘラナデ 断面：ヘラケズリ→ヘラナデ	H045	81-1

第243図 遺構外出土遺物(5)



序号	遺構名 グリッド	層位	種類 名称	口径 長さ(cm)	底径 幅(cm)	高さ 厚さ(cm)	重さ (g)	色調	成形・調整 備考	登録 番号	写真 図版
1	G23K	表土	瓦器 破	-	7.1	-	-	外面：5YR6/4 内面：10YR6/2	外面：ロケロナデード平手持ヘラケズリ 内面：同転糸切りヘラケズリ 底面：同転糸切りヘラケズリ 裏面：ヘラケズリ	E-080	80-8
2	F22K	表土	瓦器 破	6.7	5.0	1.7	2100	外面：10YR4/1	外面：ヘラケズリ 内面：ヘラケズリ	E-081	80-9
3	G21K	表土	瓦器 破	(12.4)	3.9	-	-	外面：7.5YR5/1 内面：7.5YR5/1	外面：ヘラケズリ 内面：ヘラケズリ 裏面：ヘラケズリ 底面：ヘラケズリ	E-082	80-10
4	-	表層	瓦文 木文	直径2.6	孔径0.7	0.1	1.6	-	単文 文久三(1863)年製	N002	80-11

第244図 遺構外出土遺物(6)

## 蟹沢地区西地点の遺物

西地点で出土した遺物は、軒丸瓦・丸瓦・軒平瓦・平瓦・道具瓦などの瓦類と土師器・須恵器・硯がある。瓦類は軒丸瓦 170点・丸瓦 1,112点・軒平瓦 264点・平瓦 13,387点・道具瓦 43点(甃斗瓦 2点・隅切瓦 11点・隅木蓋瓦 30点)の計 14,976点である。このうち窠内出土は軒丸瓦 11点・丸瓦 81点・軒平瓦 18点・平瓦 1,555点・道具瓦 6点(甃斗瓦 1点・隅切瓦 1点・隅木蓋瓦 4点)の計 1,671点である。出土瓦の大部分が平瓦であり、瓦全体の約 89.4%を占めている。図示遺物についてそれぞれの特徴を述べていく。

## 〔軒丸瓦〕

軒丸瓦は総破片数が 170点で、33点図示した。瓦類全体の 1.1%未満である。今回与兵衛沼窠跡で出土した軒丸瓦は、瓦当文様により、3種に分類でき、重弁蓮華文をⅠ類、細弁蓮華文をⅡ類、重圈文をⅢ類とした。蟹沢地区西地点では、Ⅰ～Ⅲ類の 3種全てが出土している。そのうち窠内出土のものが 1号窠跡で 5点、3号窠跡で 1点、4号窠跡で 2点、9号窠跡で 3点の計 11点である。2・5～8号窠跡で軒丸瓦は周縁部などの破片のみで瓦当面が残存する軒丸瓦の出土はなかった。その他 1号灰原 a で 5点、1号灰原 b で 19点、地滑りによる堆積層で 24点、2号灰原 d で 6点、2号灰原 a で 27点、堆積層で 1点、表土で 77点の計 159点出土している。

## 軒丸瓦Ⅰ類

8葉重弁蓮華文軒丸瓦である。14点出土し、14点図示した(第166図1・2、第214図1・4、第218図1～3、第223図2、第227図1～4、第239図1・2)。中房が円形で蓮子構成は1+6、周縁蓮子は円形で周縁蓮子間に区画はない。側面、裏面はヘラケズリのちナデ調整が行われている。丸瓦部は粘土紐作り、縄タタキのちロクロナデ調整の有段の瓦である。瓦当と丸瓦との接着方法は、いわゆる印籠接ぎである。瓦当裏面に溝を刻み、凹面端部に斜格子のヘラキザミを施した丸瓦を押し込み、ナデで接着している。色調は褐灰色及び灰色を基調としている。これらの瓦には、自然釉や変形、窯体との融着がみられるものがある。また、瓦当側面頂部に棒状の圧痕がみられるものがある。軒丸瓦Ⅰ類は、1号窯跡で2点、1号灰原bで2点、地滑りによる堆積層で3点、2号灰原で1点、2号灰原aで4点、出土している。

## 軒丸瓦Ⅱ類

Ⅱ類a:20葉細弁蓮華文軒丸瓦である。20点出土し、そのうち11点図示した(第175図1、第202図2、第214図3・5、第218図4・5、第223図1、第227図5～7、第239図3)。瓦当面径は19.6cmである。中房が二重の圈線で仕切られ、蓮子構成は1+5、周縁蓮子は円形で蓮弁の外側に圈線がめぐらされ、その外側に18ヶの珠文が配される。側面・裏面は、ヘラケズリのちナデ調整で、丸瓦部は粘土紐作り、縄タタキのちロクロナデ調整の有段の瓦である。瓦当と丸瓦との接着方法は、Ⅰ類と同様いわゆる印籠接ぎである。色調は褐灰色を基調としている。Ⅱ類と分類した1号灰原b出土のものには外区の圈線と18ヶの珠文が二重になっているものがある(第214図5)。また、瓦当側面頂部に棒状の圧痕がみられるものがあり、変形や融着がみられるものがある。3号窯跡で1点、9号窯跡で1点、1号灰原bで7点、地滑りによる堆積層で4点、2号灰原で4点、2号灰原aで3点出土している。

Ⅱ類b:12葉細弁蓮華文軒丸瓦である。7点出土し、そのうち6点図示した(第176図1、第202図1、第219図1、第227図8、第243図4・5)。瓦当面径は20.4cmである。中房が二重の圈線で仕切られ、蓮子構成は0+3、周縁蓮子は円形で蓮弁の外側に圈線がめぐらされ、その外側には珠文は配されていない。裏面は、ヘラケズリのちナデ調整で丸瓦部は、粘土紐作り、縄タタキのちロクロナデ調整の有段の瓦である。瓦当と丸瓦との接着方法は、Ⅰ類と同様いわゆる印籠接ぎである。褐灰色及び灰色を基調としている。4号窯跡で1点、9号窯跡で1点、1号灰原bで2点、地滑りによる堆積層で2点、2号灰原aで1点出土している。そのうち、地滑りによる堆積層から、瓦当側面下端部が尖がる、いわゆる「水切り瓦」が出土している(第261図1)。

## 軒丸瓦Ⅲ類

重圈文軒丸瓦である。1点出土している(第166図3)。瓦当面径は11cm以上である。二重の圈線がめぐらされた複線二重圈線瓦である。蓮子は欠損しているため型式は不明である。側面、裏面は、ヘラケズリのちナデ調整で、丸瓦部は凸面ナデ・凹面指ナデ調整の瓦である。瓦当と丸瓦との接着方法は、Ⅰ類と同様いわゆる印籠接ぎである。色調は褐灰色である。瓦当側面頂部に棒状の圧痕がみられた。1号窯跡灰原で1点出土している。

## 〔丸瓦〕

粘土紐作りの丸瓦である。断面形は半円形をし、凸面は縄タタキのちナデ、凹面は粘土紐巻きち布目、周縁・側面にヘラケズリ調整がみられる。今回与兵衛沼窯跡で出土した丸瓦は無段のものⅠ類と、有段のものⅡ類に分類できるが、蟹沢地区西地点ではⅡ類のみが出土している。丸瓦は総破片数が1,112点で、14点図示した。瓦類全体の7.4%を占めている。そのうち室内出土のものは81点である。その他各灰原(地滑りによる堆積層を含む)で532点、2～5号土坑で6点、谷で2点、窯跡周辺の堆積層で3点、表土で489点出土している。変形や自然釉、融着がみられた。

## 〔軒平瓦〕

軒平瓦は総破片数が264点で、38点図示した。瓦類全体の1.8%を占めている。そのうち窯内出土のものが1号窯跡で2点、2号窯跡で1点、5号窯跡で1点、6号窯跡で4点、7号窯跡で5点、8号窯跡で3点、9号窯跡で2点の計18点である。3・4号窯跡では軒平瓦は破片で瓦当面に残存するものは出土しなかった。その他1号灰原aで21点、1号灰原bで11点、地滑りによる堆積層で26点、2号灰原で17点、2号灰原aで5点、5号土坑で2点、窯跡周辺の堆積層で4点、表土で160点である。軒平瓦は瓦当文様により4種に分類され、重弧文をⅠ類、均整唐草文をⅡ類、進符文をⅢ類、単弧文をⅣ類とした。そのうち蟹沢地区西地点では、Ⅰ・Ⅱ類が出土している。

## 軒平瓦Ⅰ類

重弧文軒平瓦である。26点出土し、そのうち17点を図示した(第167図1、第184図2、第188図2～5、第195図2、第210図4、第211図1、第215図3、第220図2・3、第223図4、第224図1、第228図4、第229図1、第239図6)。ヘラ描きにより二重弧文を施し、弧文の両側端部が屈折する。一部には屈折しないものがあるが、平瓦の成形技法の違いより、端部が屈折しない他の特徴を持つ平瓦ではなく、平瓦Ⅲ類を使用する軒平瓦をⅠ類に含めた。平瓦Ⅰ類は、1枚作り・凸面縄タタキ・ツブレ・凹面台庄痕・凹面ナデ調整である。瓦当と平瓦との接着方法は、平瓦にヘラキザミを施し、顎部をのせ叩いて接着している。色調は褐灰色及び灰色を基調としている。2号灰原出土の端部が屈折する重弧文と7号窯跡・1号灰原a出土の端部が屈折しない重弧文は、顎部の縄タタキが縦位で、8号窯跡と1号灰原a、2号灰原a出土の端部の屈折する重弧文は、顎部の縄タタキが縦位である。顎面はヘラ描き鋸歯文と無文のものがある。多くは自然釉や融着がみられた。

端部が屈折するものは、7号窯跡で1点、8号窯跡で1点、1号灰原aで2点、地滑りによる堆積層で2点、2号灰原で2点、2号灰原aで3点出土している。端部が屈折しないものは、7号窯跡で1点、1号灰原aで1点、2号灰原で1点出土している。その他、端部不明重弧文は6号窯跡で1点、7号窯跡で2点、1号灰原bで1点、地滑りによる堆積層で1点、2号灰原で1点、2号灰原aで1点、窯跡周辺の堆積層で2点出土している。

## 軒平瓦Ⅱ類

軒平瓦Ⅱ類a:均整唐草文軒平瓦である。15点出土し、そのうち8点を図示した(第210図5、第215図2、第220図1、第221図1、第223図6、第233図1、第239図1、第240図1)。范によって瓦当面に施文される。均整唐草文を囲む区画線が2線のものである。Ⅱ類aの平瓦部は、1枚作り・凸面縄タタキ・ツブレ・凹面ナデ調整である。瓦当と平瓦との接着方法は、平瓦にヘラキザミを施し、顎部をのせ叩いて接着している。褐灰色を基調としている。1号灰原a・b出土のものは顎部は縄タタキが縦位で、2号灰原・5号土坑出土のものはナデ消され顎面は無文であった。ヘラ描きによる施文はされていない。多くは自然釉がかかり融着している。1号窯跡で1点、1号灰原aで2点、1号灰原bで1点、地滑りによる堆積層で5点、2号灰原で3点、2号灰原aで2点、5号土坑で1点出土している。

軒平瓦Ⅱ類b:均整唐草文軒平瓦である。19点出土し、そのうち12点を図示した(第184図3・4、第195図3、第202図3、第215図3、第220図1、第223図5、第228図3、第233図2、第241図2、第239図2・3)。范によって瓦当面に施文される。均整唐草文を囲む区画線が上下は1線、左右は2線のものである(軒平瓦Ⅱ類b)。軒平瓦Ⅱ類bの平瓦部は、1枚作りで凸面縄タタキ・凹面ナデ調整(平瓦Ⅲ類)である。瓦当と平瓦との接着方法は、平瓦にヘラキザミを施し、顎部をのせ叩いて接着している。褐灰色を基調としている。1号灰原b出土のものは、顎部の縄タタキが縦位で、ヘラ描き鋸歯文が施されている。1号灰原a出土のものは顎部の縄タタキが縦位で、8号窯跡出土のものは横位である。9号窯跡出土のものは顎部の縄タタキが縦位でナデ消され、地滑りによる堆積層出土のものは縦横でナデ消されている。6号窯跡出土のものは、タタキはナデ消され無文であった。いずれもへ

ラ描きによる施文はされていない。多くは自然釉や融着がみられた。平瓦に斜格子ヘラキザミを入れ、貼り付けて叩いているのを、顎部剥離面の転写で観察できるものがある。多くは自然釉や融着がみられた。1号窯跡で1点、6号窯跡で2点、8号窯跡で1点、9号窯跡で1点、1号灰原aで2点、1号灰原bで5点、地滑りによる堆積層で5点、2号灰原で2点、2号灰原aで2点出土している。

#### 〔平瓦〕

1枚作りの平瓦である。今回与兵衛沼窯跡で出土した平瓦は、成形調整により4種に分類できる。Ⅰ類は凸面：縄タタキのち布目・平行タタキ、凹面：布目のちナデ、Ⅱ類は凸面：縄タタキのち布目・縄タタキのちナデ、凹面：布目のちナデ、Ⅲ類は凸面：縄タタキのち凹形台圧痕・タタキツブレ、凹面：布目のちナデ、Ⅳ類は凸面：縄タタキ、凹面：布目である。蟹沢地区西地点ではⅢ類が出土している。凸面は縄タタキ・凹形台圧痕・ナデ、凹面は糸切り痕・布目・ナデ・周縁はヘラケズリの調整が見られる。また、断面でたたら痕跡が見られるものもある。色調は褐色を基調としている。平瓦は、室内から1,555点出土しており、そのうち58点図示した。その他、各灰原（地滑りによる堆積層を含む）で5,308点、1～5号土坑で173点、谷で24点、堆積層で81点、表土で6,246点出土している。1・4・8号窯跡出土のものに、凸面に方形突出のあるものがある。7号窯跡では方形突出のある瓦を燃焼部の壁の補強材として使用していた。凹形台圧痕は両側面に圧痕がみられるが、1号灰原a出土のものでは木口側にみられるものがある。また多くの瓦の周縁に凹形や棒状の圧痕がみられる。

#### 〔道具瓦〕

道具瓦は総破片数が43点である。熨斗瓦2点・隅切瓦11点・隅木蓋瓦30点である。瓦類全体の約0.03%を占めている。そのうち室内出土のものは、1号窯跡で2点、8号窯跡で4点である。その他1号灰原aで3点、1号灰原bで1点、2号灰原で2点、2号灰原aで14点、堆積層から1点、表土から16点出土している。

##### 熨斗瓦

熨斗瓦は2点出土している。いずれも小片で図示していない。

##### 隅切瓦

隅切瓦は11点出土している。そのうち5点図示した（第213図2・3、第217図2、第222図3、第224図5）。1号窯跡から1点、1号灰原aから3点、1号灰原bから1点、地滑りによる堆積層から1点、2号灰原から2点、堆積層から1点、表土から3点、計12点出土している。

平瓦の挟端の隅が切られている。1号灰原a、cの3点は小さく隅を切り落としたもので、1号灰原bの1点は緩やかにそぎ落とされたものである。平瓦はⅢ類が使われている。

##### 隅木蓋瓦

隅木蓋瓦は、寄棟・入母屋造りの屋根の4隅、軒下の隅木の先端を覆う瓦である。隅木上部には茅負と呼ばれる部材の角と接することから直角の切り込みが入る。中心線上に穿孔がみられ、隅木には、釘でとめられる瓦である。総破片数が30点で、そのうち7点を図示した（第197図1、第230図2・3、第242図5・6・7、第243図1）。8号窯跡で4点、2号灰原aで14点、表土で12点出土している。最大のものは8号窯跡出土のものである。長さ34.6cm以上、幅45.4cm、高さ11.3cmである。瓦当面は欠損し、天板と側板を残すのみである。茅負に接するV字の切れ込みを残している。瓦当面を残すものをみると、天板と側板は一枚の粘土板を折り曲げ、表面に粘土を貼り付けて成型され、折り曲げ部分は指ナデされている。切れ込み部分は粘土板が貼りつけられている。外面は天板が縄タタキのちナデ、側板がヘラケズリのちヘラナデ、内面は、天板・側板ともヘラナデ調整である。内面の切れ込みの内側に径約8.6cmの穴がある。穴内部は剝離し、その周囲はナデられ盛り上がっている。穴については、表土出土の破片に突起があるものがあり、穴は突起が剝離したものと考えられる。端部の径4.8cm、高さ6.9cmである。



## 〔 鍾 〕

鍾は2点、1号灰原a及び表土から出土している。いずれも須恵質である。1号灰原a出土のものは長さ5.7cm、幅5.1cm、孔径2.2cmである。体部外面はナデ調整で、孔の周囲には粘土の盛り上がりが見られる。表土出土のものは、長さ6.7cm、幅5.0cm、孔径1.7cm、体部外面はナデ調整で、一部にヘラケズリが見られる。ナデのない部分では斜行する線状痕跡が見られた。周縁部はヘラケズリが施されている。また、孔の両端の周囲には粘土の盛り上がりが見られた。色調は褐灰色である。

## 〔 硯 〕

硯はすべて風字硯である。総破片数は165点で、16点図示した(第167図4、第199図9、第204図4・5、第205図1・2・5・6、第213図1・2、第222図4、第226図1・2・3、第230図4、第244図3)。そのうち窯内出土が、1号窯跡で1点、8号窯跡で1点、9号窯跡で28点である。その他は1号灰原aで11点、地滑りによる堆積層で1点、2号灰原で58点、2号灰原aで1点、5号土坑で2点、表土で62点出土している。硯は海部と脚に大きな特徴を持つ。その特徴により2種類に分けられる。硯部は3本の脚で支えられているが、硯面の海が円形にくぼみ、そのくぼみが空洞の脚になるものと、それらと外形は同じで円形の脚を持つが、海のかぼみを持たないものである。これら海と脚の特徴の分かるものは、8号窯跡出土の1点と9号窯跡出土の3点、1号灰原a出土の1点、地滑りによる堆積層出土の1点、2号灰原出土の1点、2号灰原a出土の1点、表土出土の1点の計9点である。そのうち、1号灰原a・地滑りによる堆積層から出土の2点と、表土出土の1点の3点がくぼみを持たないもので、それ以外は海による空洞の脚を持つものである。これら空洞の脚を持つものの硯面は、くぼんだ海ともどもナデられ、縁の内面はヘラケズリされ、接着部分とその周辺もナデられている。裏面はヘラケズリで、空洞の脚以外の2本の脚は貼り付けられたのちヘラケズリされ、接着部分とその周辺はナデられている。

海のかぼみを持たないものは、空洞の脚を持つものと調整は同じであるが、脚の成形において、ほかの2本同様に貼り付けたものと、貼り付けていないものがある。また貼り付けていないものには極端に脚の短いものがあつた。

## 〔 鉄製品 〕

鉄製品は9号窯跡から1点出土している。下部先端が尖り、上端が平らで、上部に長方形の孔があげられている。長さ17cm、幅1.6cm、厚さ7mm、器種及び用途不明の鉄製品である。

## 〔 石器 〕

石器は9点出土している。そのうち遺構出土の4点を図示した。すべて石畿である。1号灰原aから1点、地滑りによる堆積層から1点、2号灰原aから2点、表土から5点出土している。

## 第3節 まとめ

## 遺物

- ・出土した軒瓦は、軒丸瓦が軒丸Ⅰ類の8葉重弁蓮華文が多賀城跡431・軒丸Ⅱ類aの20葉細弁蓮華文が多賀城310A・軒丸Ⅱ類bの12葉細弁蓮華文が多賀城311A・軒丸Ⅲ類が型式不明重圏文、軒平瓦が軒平Ⅰ類のヘラ描き重弧文多賀城710・軒平Ⅱ類aの均整唐草文が多賀城720・軒平Ⅱ類bの均整唐草文が多賀城721である。これらの内、落下した1号窯跡灰原出土の重圏文1点を除き、多賀城Ⅲ期に位置づけられる。
- ・軒平Ⅰ類は、ヘラ描き重弧文(710)で端部でヘラ描きが屈折するものと、屈折せず弧を描いたままのもの2種類ある。前者は多賀城より出土し、後者は陸奥国分寺から出土していることが知られている。このことから

供給先は多賀城と国分寺であったと見られる。

- 平瓦は、1枚作りで、凸面が縄タタキ、凹面が糸切り痕・布目・ナデがみられる。これらは凸面が縄タタキのち凹形台圧痕とタタキのつづれ、凹面が糸切り痕のち布目、ナデがみられる平瓦Ⅲ類と、凸面が縄タタキ、凹面が糸切り痕、布目の平瓦Ⅳ類がある。また凸面に方形突出のあるものがある。これらの特徴のうち、Ⅲ類の凸面に凹形台圧痕のないものは多賀城Ⅱ・Ⅲ期に位置づけられ、凹形台圧痕のあるものは多賀城Ⅲ期に位置づけられている。また、方形突出のある平瓦は、陸奥国分寺創建期瓦の偏行唐草文軒平瓦に使用されていることから、多賀城Ⅱ期に位置づけられている。7号窯跡では、方形突出平瓦を壁補強材として使用していることから、Ⅱ期瓦の転用とみられる。
- 丸瓦は、全て丸瓦Ⅱ類である。丸瓦Ⅱ類は粘土紐作りの有段丸瓦である。断面形が半円形で、凸面は縄タタキのちクロロナデ、凹面が布目、周縁・側面ヘラケズリの調整が見られる。多賀城跡分類ⅡB類に相当する。これらは多賀城Ⅰ期からⅣ期まですべての時期に存在しているため年代的に他の瓦の年代と矛盾しない。
- 水切り瓦の出土例は、同じ台原・小田原窯跡群の一つである神明社窯跡から出土している。本窯跡出土の軒丸瓦Ⅱ類bと同様12葉細弁蓮華文(311)を使用している。このような形態を持つ瓦は近隣ではほかに例はない。類例は備後の寺町鹿寺を中心とした地域にみられ、備中、安芸、出雲に広がっている。このことは工人・技術の移動を知る上で貴重な手がかりを得たといえる。
- 隅木蓋瓦については、その大ききから隅木の幅が分かり、建物の規模を知る手がかりが得られた。隅木蓋瓦の隅木への取り付けは、瓦の中心線上にある孔から釘を打って取り付けられることが知られているが、今回出土したものは、孔の位置に突起があることから、突起によって取り付けられるものであると考えられる。近隣の出土例としては陸奥国分寺跡からの報告がある。陸奥国分寺跡出土の隅木蓋瓦は、天板内面の成形・調整が糸切り→布目→縄タタキ→つづれ、外面ケズリ→ナデ調整なのに対し、本窯跡出土の隅木蓋瓦は成形・調整が内面ケズリ→ナデ、外面縄タタキ→ナデである。
- 須恵器は、ヘラ切りの1点を除くと、回転糸切り・切り離し不明のち体部下端から底部手持ちヘラケズリである。これらの特徴とする須恵器の年代と、多賀城Ⅲ期とする窯の年代とは概ね一致する。また、粘土紐門柱作りの技法がみられた。
- 硯については生産地および消費地ともに類例がなく、今後の資料の増加に期待したい。
- 焼台については、各窯の最終作業時の焼成部床面をみると、平瓦が多く貼りついている。そのうち規則的に並ぶものは焼台と考えた。6号窯跡上部、5・7・8号窯跡では焼成部との境付近でみられた。そのうち後者については焼成部に自然軸を被り、融着・融着痕を残すものが多く散在している。これらについても配置は不規則ながら焼台と考えられる。また、焼成部に残置された製品との相違は、床面出土遺物が自然軸、融着が著しいのに対し、それらがみられないものである。製品ととらえたものは、8・9号窯跡出土の須恵器などである。瓦についても同様に考えたい。

## 遺 構

### 〔 窯 跡 〕

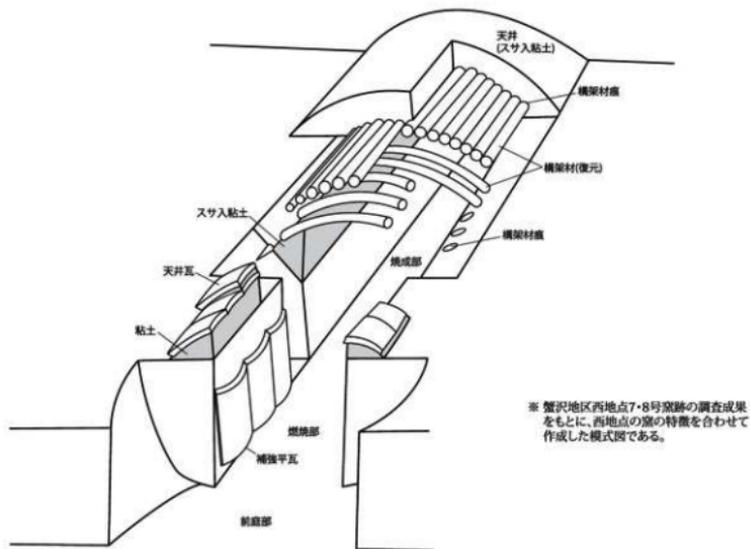
- 蟹沢地区西地点では調査区中央を南北に縦断する谷の南斜面から9基の窯窯を検出した。1～4号窯跡は焼成部が崩落しているため半地下式無段窯としか確認できないが、残存状態の良好な5～9号窯跡は半地下式無階無段窯と確認した。
- 窯の構造は、Ⅲ層を掘り込み、粘土を貼り付けて床面、壁を構築し、スサ入り粘土で天井を架構している。特に天井架構については、天井材や構築材痕跡等多くの資料が得られ、壁上部に密接して並ぶ構築材と、天井のスサ

入り粘土の内面に残る溝状の圧痕から天井架構状況が明らかになった。また壁上部からの構架材による天井架構以外に、床面から壁伝いに伸びる構架材痕があることも判明し、天井架構法が2種類あることを確認した。

- ・室内堆積層、特に燃焼部の堆積で、燃料残渣土とスサ入り粘土の掻き出し土が互層であることから、これらを一単位とみて、操業面とした。その面数が複数あることから、ほとんどの窯が複数回の操業であると考えられる。
- ・8号窯跡より須恵器環、9号窯跡より風字硯が最終操業面より出土している。これらは歪み、ひび割れなどがみられ、焼成後廃棄されたものとみられ、最終操業時に須恵器を生産した瓦陶兼業窯と考えられる。
- ・窯体の断ち割り調査により被熱伝播状況が明らかとなり、被熱状況によって複数回の操業をうかがうことができた。また、表面では観察できなかった構架材の確認やスサ入り粘土の貼り方など窯構造のあり方を確認した。
- ・窯の操業差は、6号窯跡と7号窯跡の灰原の堆積状況から6号窯跡B期より7号窯跡A期の方が古いことを確認した。また、1～3号窯跡と5～9号窯跡の天井架構の違い、焚口を直線上に揃える5号～9号窯跡、その線上に奥壁のある3号窯跡などを考慮すると、西側3基と東側の5基の構造的な異なりは、時期差を反映している可能性がある。4号窯跡については、崩落が激しく不明である。
- ・焼台は、整然と並んで確認できたものは少なかったが、自然釉で融着した破片が床面から多く出土している。これらは、焼台であったと考えられる。

[その他の遺構]

- ・土坑を6基確認した。窯の位置する北斜面で2基、斜面の下で2基、谷の西斜面で1基、東斜面で1基である。そのうち、4号土坑は被熱している。また、6号土坑の堆積土からは灰白色火山灰がみられた。



蟹沢地区西地点 窯窯模式図

第11表 窯窯一覽表

遺構名	グリッド	構造(平地下式)	主軸方向	棟梁回数	全長(m)	焼成部長(m)	焼成厚部(m)	
1号窯跡	F-21	加段	N 4° E	2	1.8	1.8	0.65	
焼成厚部高(m)	焼成厚部傾角(°)	右高厚部高(m)	燃焼部長(m)	燃焼厚部(m)	燃焼厚部高(m)	燃焼厚部傾角(°)	時期	
0.45	21	-	1.38(0度)	0.72(90度)	0.46(90度)	40	-	多賀城前期
備考: 窯体崩落, 構築材あり, 焼台あり								
遺構名	グリッド	構造(平地下式)	主軸方向	棟梁回数	全長(m)	焼成部長(m)	焼成厚部(m)	
2号窯跡	F-21	加段	N 1° E	2	1.7	1.7	0.6	
焼成厚部高(m)	焼成厚部傾角(°)	右高厚部高(m)	燃焼部長(m)	燃焼厚部(m)	燃焼厚部高(m)	燃焼厚部傾角(°)	時期	
0.45	22	-	1.8(0度)	0.7(90度)	0.48(0度)	21	-	多賀城前期
備考: 窯体崩落								
遺構名	グリッド	構造(平地下式)	主軸方向	棟梁回数	全長(m)	焼成部長(m)	焼成厚部(m)	
3号窯跡	F-22	加段	N 11° W	1	1.7	1.7	0.5	
焼成厚部高(m)	焼成厚部傾角(°)	右高厚部高(m)	燃焼部長(m)	燃焼厚部(m)	燃焼厚部高(m)	燃焼厚部傾角(°)	時期	
0.35	24	-	1.3(0度)	0.8(90度)	0.52(90度)	28	-	多賀城前期
備考: 窯体崩落, 崩壊あり, 構築材あり								
遺構名	グリッド	構造(平地下式)	主軸方向	棟梁回数	全長(m)	焼成部長(m)	焼成厚部(m)	
4号窯跡	F-22	加段	N 8° E	1	3.0	3.0	0.55	
焼成厚部高(m)	焼成厚部傾角(°)	右高厚部高(m)	燃焼部長(m)	燃焼厚部(m)	燃焼厚部高(m)	燃焼厚部傾角(°)	時期	
0.64	A 前 19	-	-	-	-	-	-	多賀城前期
備考: 焼成部の一部のみ残存, 構築材あり								
遺構名	グリッド	構造(平地下式)	主軸方向	棟梁回数	全長(m)	焼成部長(m)	焼成厚部(m)	
5号窯跡	F-22	加段	N 10° E	3	4.35	2.5	0.6	
焼成厚部高(m)	焼成厚部傾角(°)	右高厚部高(m)	燃焼部長(m)	燃焼厚部(m)	燃焼厚部高(m)	燃焼厚部傾角(°)	時期	
0.55	A 前 20	-	1.85	0.6	0.64	A9	0.64	多賀城前期
備考: 構築材あり, 焼台あり								
遺構名	グリッド	構造(平地下式)	主軸方向	棟梁回数	全長(m)	焼成部長(m)	焼成厚部(m)	
6号窯跡	F-C 23	加段	N 8° E	2	4.85	2.05	0.65	
焼成厚部高(m)	焼成厚部傾角(°)	右高厚部高(m)	燃焼部長(m)	燃焼厚部(m)	燃焼厚部高(m)	燃焼厚部傾角(°)	時期	
0.55	A 前 24	-	2.8	0.7	0.65	A10	0.64	多賀城前期
備考: 構築材あり, 焼台あり								
遺構名	グリッド	構造(平地下式)	主軸方向	棟梁回数	全長(m)	焼成部長(m)	焼成厚部(m)	
7号窯跡	F-C 23	加段	N 13 E	4	5.25	2.95	0.72	
焼成厚部高(m)	焼成厚部傾角(°)	右高厚部高(m)	燃焼部長(m)	燃焼厚部(m)	燃焼厚部高(m)	燃焼厚部傾角(°)	時期	
0.68	A 前 22	-	2.22	0.65	0.40	6	0.70	多賀城前期
備考: 構築材あり								
遺構名	グリッド	構造(平地下式)	主軸方向	棟梁回数	全長(m)	焼成部長(m)	焼成厚部(m)	
8号窯跡	F-C 23	加段	N 12° E	焼成部3 燃焼部2	5.3	3.6	0.75	
焼成厚部高(m)	焼成厚部傾角(°)	右高厚部高(m)	燃焼部長(m)	燃焼厚部(m)	燃焼厚部高(m)	燃焼厚部傾角(°)	時期	
0.4	A 前 21	-	1.7	0.65	0.4	6	-	多賀城前期
備考: 天井残存, 構築材あり, 焼台あり								
遺構名	グリッド	構造(平地下式)	主軸方向	棟梁回数	全長(m)	焼成部長(m)	焼成厚部(m)	
9号窯跡	F-C 24	加段	N 5° E	2	5.05	2.60	0.65	
焼成厚部高(m)	焼成厚部傾角(°)	右高厚部高(m)	燃焼部長(m)	燃焼厚部(m)	燃焼厚部高(m)	燃焼厚部傾角(°)	時期	
0.5	A 前 24	-	2.45	0.75	0.5	A13	-	多賀城前期
備考: 構築材あり, 焼台あり								

第12表 土坑一覽表

遺構名	グリッド	方位	長軸(m) × 短軸(m) × 深さ(m)	平面形・断面形	底面	時期
1号土坑	H 19	N 16° E	2.8 × 2.45 × 0.5	楕円形・靴形	緩斜・靴状	-
2号土坑	H 21	N 1° W	1.1 × 0.5 × 0.9	楕円形・U字形	平坦	-
3号土坑	H 22	N 62° W	2.4 × 1.3 × 0.2	長楕円形・浅い楕形	緩やかな凸状	-
4号土坑	K 23	N 14° W	5.6 × 1.5 × 0.4	不整形・浅い楕形	平坦	-
5号土坑	F 21	N 74° W	4.75 × 3.35 × 1.10	楕円形・U字形	平坦	前期後半
6号土坑	F 22 - 23	N 9° W	1.2 × 0.95 × 0.3	隅丸方形・靴形	平坦	灰白色土山成層下に埋

## 第4章 蟹沢地区東地点

### 第1節 基本層序と自然地形

調査区は、東西に延びる丘陵を谷が南北に開析する地形である。調査区の中央に谷があり、遺構は谷頭を中心として北側の丘陵頂部付近のやや平坦な面から西側の、谷へと向かう丘陵斜面、谷にかけて位置する。

#### 基本層序（第245図）

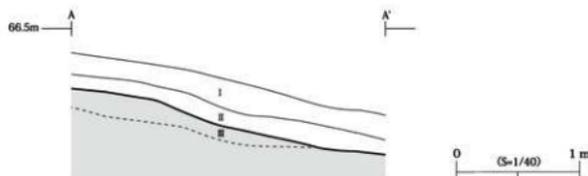
基本層序は以下の通りである。

I層：黒褐色（10YR3/2）シルト層である。木の根・木の葉を含み、丘陵斜面全域に分布する表土層である。

II層：灰黄褐色（10YR5/2）の砂質シルト層で、谷部へと向かう丘陵斜面の一部に堆積する。

III層：にぶい黄褐色（10YR5/4）～明黄褐色（10YR6/6）の砂質シルトで、径2～10mm程度の礫を含む地山である。

下層は、にぶい黄褐色（10YR5/4）～明黄褐色（10YR6/6）の粘土質シルトとなる。丘陵頂部付近では、さらに下層の白色粘土質シルト・凝灰岩質砂岩が露出しているところがある。



第245図 基本層序(蟹沢地区東地点遺構配置図A-A')

#### 谷（第247・248・292・293図）

調査区中央を南北に縦走する谷である。K-32・33、L-32～34、M-32～34、N-32～35、O-33～36、P-33・34、Q・R-33～35で確認した。L-33グリッドで北西側と北東側に分岐する。北西側はK-32グリッドで谷頭を形成し、北東側は調査区外へ延びる。谷の西側では13～18号窯跡が営まれていたが、灰原が一部流出しており、谷の堆積土を構成している。18号窯跡の灰原が谷の西斜面に一部残存していた。調査区内で確認した谷の規模は長さ約75m、上端幅約5～29m、深さ約3.5～8mである。断面形は緩やかな「V」字形である。谷底面直上に青灰色粘土質シルト層が0.2～0.3m堆積しており、窯跡・灰原から流出した遺物が多く出土している。谷底では、I層下のIII層は岩盤となっている。

遺物は軒丸瓦・丸瓦・軒平瓦・平瓦・須恵器・礫石器が出土している。総破片数は148点で、8点を図示した。

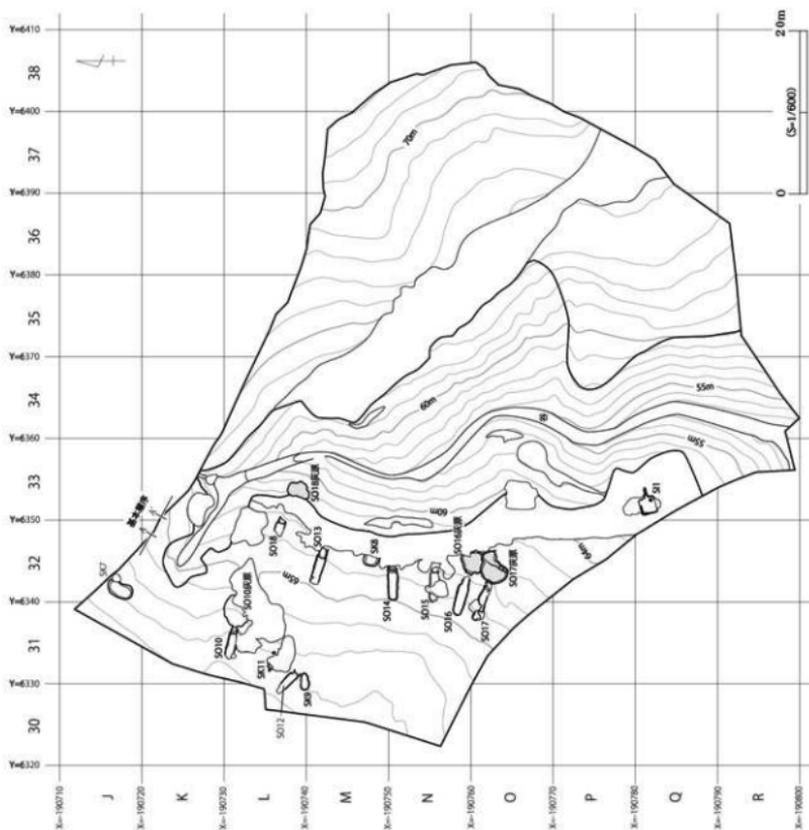
### 第2節 蟹沢地区東地点の遺構と遺物

#### 蟹沢地区東地点の遺構

東地点で確認した遺構は、竈窯9基、土坑3基、竪穴住居跡1軒の計13基である。遺構はIII層上面で確認した。すべて調査区西側の斜面で検出している。

瓦窯と考えられる半地下式竈窯を9基確認した。窯跡群は調査区中央を南北に延びる谷の西側斜面上方に3基、下方に6基がそれぞれ南北に並列して位置する。

10～15・18号窯跡が半地下式有階無段竈窯で、16・17号窯跡は半地下式無階無段竈窯である。後世の削平の



第246図 蟹沢地区東地点遺構配置図

ために上部施設(煙出部、天井部)が残存している窯跡はなかった。窯体側壁から炭化した構架材を確認した。灰原は10・16～18号窯跡で確認した。遺物は、軒丸瓦・丸瓦・平瓦・畷斗瓦・隅切瓦などの瓦類と土師器・須恵器が出土した。軒平瓦は出土していない。

竪穴住居跡は窯群の南に位置し、調査区中央を南北に縦断する谷と調査区外から東西に横走する谷との舌状部から検出した。

## 窯 跡

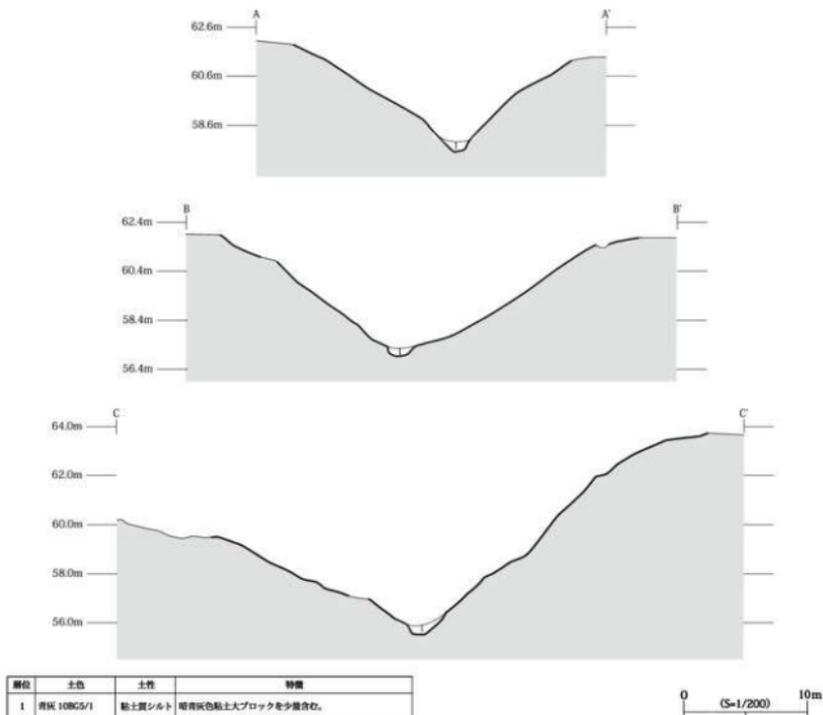
### 10号窯跡(SO10) (第249～252図・第14表)

【確認状況】 調査区西側の斜面上方、L-31グリッドに位置する。Ⅲ層上面で確認した。窯体は後世の削平を受けているため残存状態は悪く、奥壁と煙出部、焼成部の一部が失われている。焼成部と燃焼部、灰原を確認した。他の遺構との重複関係はなく、南西に位置する11号窯跡との間隔は5.4mである。

【窯体構造】 半地下式有階無段の窯窯である。



第247图 谷平面图



第248図 谷土層断面図

【規模】 残存長 4.20m、最大幅 95cm、壁高 10cm

【中軸線の方向】 N - 79° - W

【操業面数】 1面

【焼成部】 平面形は長方形である。残存長 3.15m、最大幅 95cm、残存壁高 10cm、床面は 15°の角度で傾斜する。

床面は凹凸があり、焼台と床面遺物は流入土や後世の削平のために失われている。

壁は、奥壁と南側壁が後世の削平のために失われているが、一部残存している北側壁は床面からほぼ垂直に立ち上がる。北側壁外に架構粘土の残存範囲を確認した。

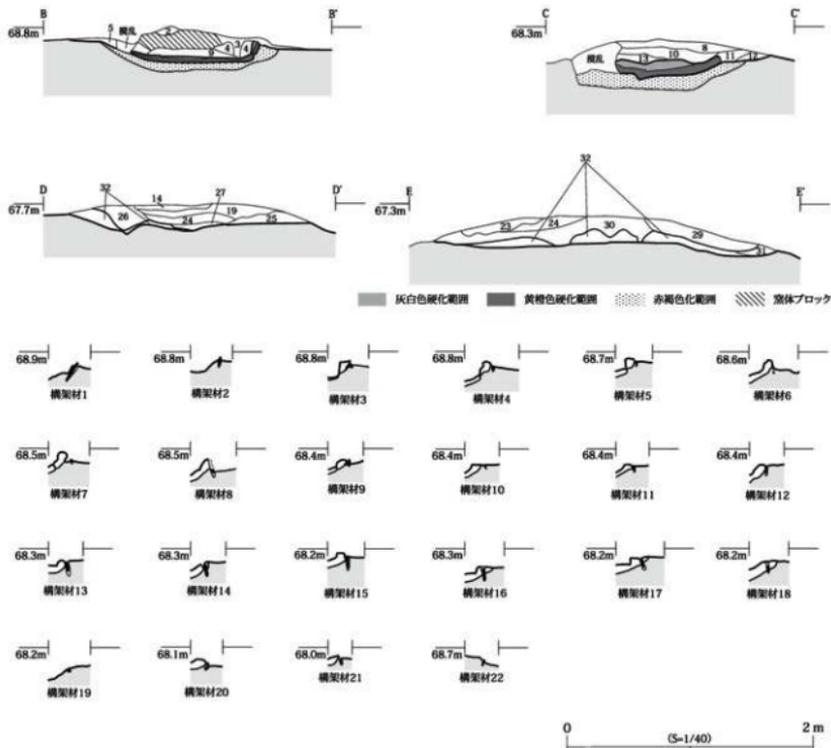
構築材は北側壁外で 20 本、南側壁外で 1 本の計 21 本を検出した（写真 33-7）。いずれも炭化しており、直径は 2.5cm である。構築材 10 ～ 18 付近は架構粘土が残存しており、側壁外に材を設置した後に粘土塊を被覆していたことが認められた。構築材は床面とほぼ同じ高さで確認され、断ち割り調査により、垂直に立ち上がる。

被熱状況は、残存する壁面、床面とも灰白色硬化している。窯体の断ち割り調査では、床面からⅢ層にかけて灰白色硬化（4cm）、黄橙色硬化（6cm）、赤褐色化（18cm）の状況を確認した。

断ち割り調査により、Ⅲ層を掘り込んだのちに床面と側壁を分割して粘土塊の貼り付けを行って窯を構築していることを確認した。

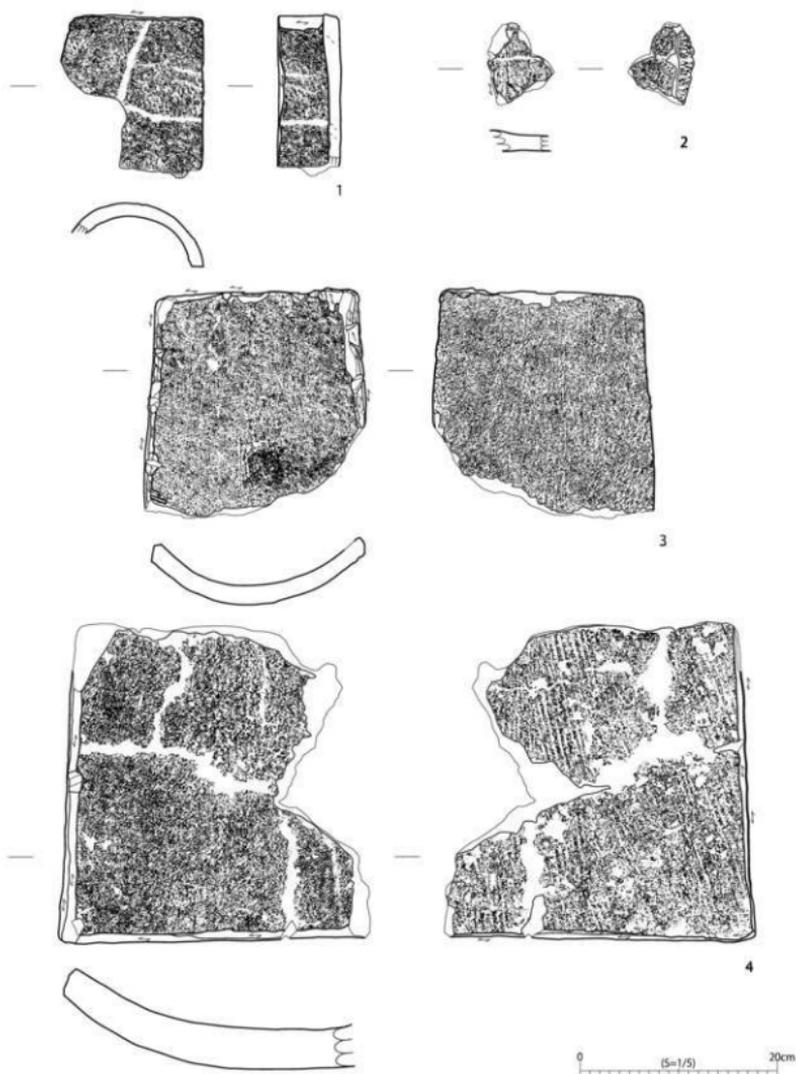


第249図 10号窯跡平面図・土層断面図



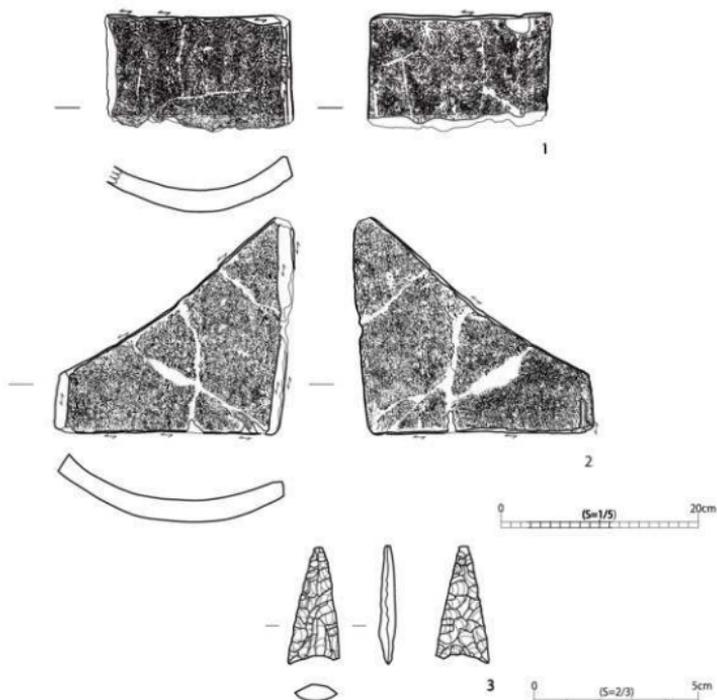
層位	土色	土性	特徴	層位	土色	土性	特徴
1	にぶい黄褐色10YR5/4	砂質シルト	洗入堆積層(大形1期) 被焼結土大ブロック(炭屑)を多数含む。被焼結土大塊(灰白・黄褐色)を多数含む。	17	黄褐色10YR5/6	粘土質シルト	洗入堆積層(大形1期) 粘土粒を少量含む。
2	にぶい黄褐色10YR5/4	砂質シルト	洗入堆積層(大形1期) 被焼結土大ブロック(炭屑)を多数含む。被焼結土大塊(灰白・黄褐色)を多数含む。	18	黄褐色10YR4/4	シルト	洗入堆積層(大形1期) 被焼結土中粒(炭屑・洗炭屑)を少量含む。
3	黄褐色10YR4/4	砂質シルト	洗入堆積層(大形1期) 被焼結土大塊(炭屑・灰白)を多数含む。炭化物中粒を多数含む。	19	黄褐色10YR4/6	砂質シルト	洗入堆積層(大形1期) 被焼結土中粒(炭屑・洗炭屑)を含む。
4	黄褐色10YR4/4	砂質シルト	洗入堆積層(大形1期) 炭化物中ブロック・被焼結土大塊(炭屑)・黄褐色を少量含む。	20	黄褐色10YR4/4	砂質シルト	腐体部(炭屑(大形2期)) 粘土粒を少量含む。被焼結土中粒(炭屑)・黄褐色を少量含む。
5	黄褐色10YR4/4	砂質シルト	洗入堆積層(大形1期) 被焼結土中粒(炭屑)・粘土粒を多数含む。	21	黄褐色10YR4/6	砂質シルト	腐体部(炭屑(大形2期)) 被焼結土大ブロック(炭屑)・炭化物中粒・粘土粒を多数含む。層下部に灰を多数含む。
6	にぶい黄褐色10YR4/3	砂質シルト	洗入堆積層(大形1期) 被焼結土大ブロック(炭屑)を含む。	22	黄褐色10YR4/6	シルト	腐体部(炭屑(大形2期)) 炭化物中粒(炭屑)を含む。粘土粒を少量含む。下部に灰を多数含む。
7	にぶい黄褐色10YR5/4	砂質シルト	洗入堆積層(大形1期) 被焼結土大塊(灰白・黄褐色)を多数含む。	23	にぶい黄褐色10YR4/3	砂質シルト	灰砂堆積層(大形4期) 炭化物中粒を多数含む。
8	にぶい黄褐色10YR5/3	砂質シルト	洗入堆積層(大形1期) 被焼結土中粒(灰白・黄褐色)を少量含む。炭化物中粒・被焼結土大ブロックを多数含む。	24	黄褐色10YR4/1	砂質シルト	灰砂堆積層(大形4期) 被焼結土中粒(炭屑)・炭化物中粒を多数含む。
9	灰白10YR8/2	粘土	洗入堆積層(大形1期) 被焼結土中粒(炭屑)・灰白を多数含む。	25	にぶい黄褐色10YR5/4	砂質シルト	灰砂堆積層(大形4期) 被焼結土中粒(炭屑)・被焼結土中粒(炭屑)を多数含む。
10	黄褐色10YR4/4	砂質シルト	洗入堆積層(大形1期) 被焼結土中粒(炭屑)・灰白を多数含む。	26	黄褐色10YR3/3	砂質シルト	灰砂堆積層(大形4期) 炭化物中粒を多数含む。
11	黄褐色10YR4/6	砂質シルト	洗入堆積層(大形1期) 被焼結土中粒(炭屑・灰白)・黄褐色を多数含む。	27	黄褐色10YR3/1	砂質シルト	燃料残屑層(大形5期) 燃料の残屑。被焼結土中粒(炭屑)を少量含む。粘土粒を多数含む。
12	黄褐色10YR4/6	砂質シルト	洗入堆積層(大形1期) シルト(炭屑)を少量含む。粘土粒を多数含む。	28	にぶい黄褐色10YR5/4	砂質シルト	灰砂堆積層(大形4期) 被焼結土中粒(炭屑)を多数含む。
13	黄褐色10YR6/6	シルト	洗入堆積層(大形1期) 被焼結土大塊(炭屑)・灰白を多数含む。	29	黄褐色10YR3/3	砂質シルト	灰砂堆積層(大形4期) 被焼結土大塊(炭屑)・灰白・炭化物中粒を多数含む。
14	黄褐色10YR4/6	砂質シルト	洗入堆積層(大形1期) 被焼結土中粒(炭屑)・灰白・粘土粒を多数含む。	30	にぶい黄褐色10YR5/4	砂質シルト	灰砂堆積層(大形4期) 炭化物中粒を少量含む。被焼結土中粒(炭屑)を多数含む。
15	黄褐色10YR5/6	シルト	洗入堆積層(大形1期) 被焼結土中粒(炭屑)・灰白を少量含む。粘土粒を多数含む。	31	にぶい黄褐色10YR5/4	砂質シルト	灰砂堆積層(大形5期) 砂粒(灰)・黄褐色を多数含む。
16	黄褐色10YR5/6	シルト	洗入堆積層(大形1期) 被焼結土中粒(灰白・炭屑)・粘土粒を多数含む。	32	にぶい黄褐色10YR5/3	砂質シルト	灰砂堆積層(大形5期) 砂粒(炭屑)を多数含む。層下部に灰を多数含む。

第250図 10号灰跡土層断面図



番号	遺物名	部位	形状	最大径 (cm)	広口幅 (cm)	狭口幅 (cm)	厚さ (cm)	耳当面 長(cm)	耳当面 厚さ(cm)	色調	成分・調査 備考	登録 番号	写真 図版
1	10号窯跡	14	丸瓦	16.8・ 15.6	-	-	5.13	-	-	内面：7.5YR6/3 外面：10YR6/3	内面：粘土結核・布目織 凸面：縄目キ→ロクロナデ	F-118	80-13
2	10号窯跡	22	平瓦	8.4・ 6.8	6.8	-	1.9	-	-	断面：2.5Y 6/1 内面：2.5Y 6/1	内面：ツデ 凸面：縄目キ→ナデ 内縁：ヘラツズリ	個別に撮影	G-309 80-12
3	10号窯跡	31	平瓦	23.5	-	20.4	2.0	-	-	内面：2.5Y 6/1 凸面：7.5YR 5/2	内面：糸切り織・布目織→ヘラナデ 凸面：縄目キ→ヘラナデ 内縁：縄目・鉄線面ヘラツズリ→庄底	G-310	80-14
4	10号窯跡	22	平瓦	16.4・ 15.6	-	-	2.1	-	-	内面：7.5YR 5/1 凸面：N4/D	内面：布目織→ナデ 凸面：ハタメ→ナデ 内縁：縄目・広縁面ヘラツズリ→側面庄底	G-311	82-1

第251図 10号窯跡出土遺物(1)



番号	遺物名 グリップ	層位	種類	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	狭幅幅 (cm)	厚さ (cm)	瓦当面積 (cm)	瓦当厚さ (cm)	色調	成形・調整 備考	登録 番号	写真 図版
1	10号窯跡	10	平瓦	11.9*	-	18.2*	2.2	-	-	内面：NS/O 凸面：NG/O	内面：布目織→コビナダ 凸面：布目織→綿中キ→ナダ 内縁：網目・鉄線網→ヘラズリ→仕込	G-312	82.4
2	10号窯跡	22	圓筒瓦	22.2	22.0	-	2.2	-	-	内面：ナダケン 凸面：平打タケキ→布目織→ナダ 内縁：ヘラズリ→広縁網仕込		H-046	82.6
番号	遺物名 グリップ	層位	種類	口径 長さ(cm)	底径 幅(cm)	器高 長さ(cm)	厚さ 幅	色調	成形・調整 備考	登録 番号	写真 図版		
3	10号窯跡	14	打製石礫 心礫	4.0	1.8	0.6	2.5	-	石材：珪質頁岩	K-007	82.2		

第252図 10号窯跡出土遺物(2)

【 燃 焼 部 】 平面形は方形である。残存長 1.05m、最大幅 55cm、残存壁高 25cm、床面は 5°の角度で傾斜する。焼成部との間の階は高さ 20cmで、71°の角度で立ち上がる（写真 33-5）。焚口は削平され残存していない。

壁は、南側壁が崩乱によって失われていたが、北側壁がわずかに残存していた。

構架材は北側壁外で 1 本検出した。材は炭化しており、直径は 2.5cmで、焼成部床面とほぼ同じ高さで確認され、断ち割り調査により、垂直に立ち上がることが認められた。

被熱状況は、壁面は黄褐色硬化し、床面は全体的に灰白色硬化していた。窯体の断ち割り調査では、床面から III 層にかけて灰白色硬化（6cm）、赤褐色化（10cm）の状況を確認した。

【 前 庭 部 】 削平のために不明である。

【 堆 積 層 】 大別 5 層、細別 32 層を確認した。大別 1 層は焼土粒を含む窯崩壊後の流入堆積層。大別 2 層は崩落した天井材、焼土粒を多量に含む黄褐色シルトの窯体崩落層。大別 3 層は炭化物、黒色シルト主体の燃料残滓層、大別 4 層は灰原堆積層、大別 5 層が灰原整地層である。

【灰原】 燃焼部の東側に黒褐色シルト範囲が見られた。残存する範囲は、掘乱により削平された部分もあるが、南北約2.9m、東西約4.45mの不整形である。

【出土遺物】 大別1～4層から丸瓦・平瓦・隅切瓦が出土している。総破片数は370点で、7点を図示した。また、大別1層から石畿が1点出土した。

#### 11号窯跡(SO11) (第253・254図・第14表)

【確認状況】 調査区西側の斜面上方、L31グリッドに位置する。Ⅲ層上面で確認した。残存状態は非常に悪く、奥壁や煙出部、焼成部、燃焼部の大半が後世の削平と掘乱で失われ、不整形にひろがる赤褐色化範囲と焼成部床面の一部と考えられる灰白色硬化した粘土塊範囲をもって11号窯跡とした。他の遺構との重複関係はなく、南西に位置する12号窯跡まで2.9m、北東の10号窯跡で5.4mである。

【窯体構造】 残存状態が非常に悪いため不明である。

【規模】 残存長2.45m、幅70cm

【中軸線の方向】 N-70°-W

【操業面数】 残存状態が非常に悪いため不明である。

【焼成部】 平面形は後世の削平と掘乱のため、詳細は不明である。残存する床面は15°の角度で傾斜する。被熱状況は、残存する床面は灰白色硬化している。窯体の断ち割り調査では、床面および壁面からⅢ層にかけて灰白色硬化(1cm)、黄褐色硬化(2cm)、赤褐色化(4cm)の状況を確認した。

【堆積層】 大別1層、細別7層を確認した。窯崩壊後に流入した黄褐色シルト主体の流入堆積層である。

【出土遺物】 大別1層から丸瓦と平瓦が出土している。総破片数は20点である。2点を図示した。

#### 12号窯跡(SO12) (第255～257図・第14表)

【確認状況】 調査区西側の斜面上方、L30・31グリッドに位置する。Ⅲ層上面で確認した。残存状態は悪く、上部は後世の削平を受けており、奥壁や煙出部、焼成部の一部が失われ、焼成部と燃焼部が確認された。他の遺構との重複関係はなく、北東に位置する11号窯跡との間隔は2.9mである。

【窯体構造】 半地下式有階無段の窯である。

【規模】 残存長3.6m、幅85cm、壁高10cm

【中軸線の方向】 N-45°-W

【操業面数】 1面

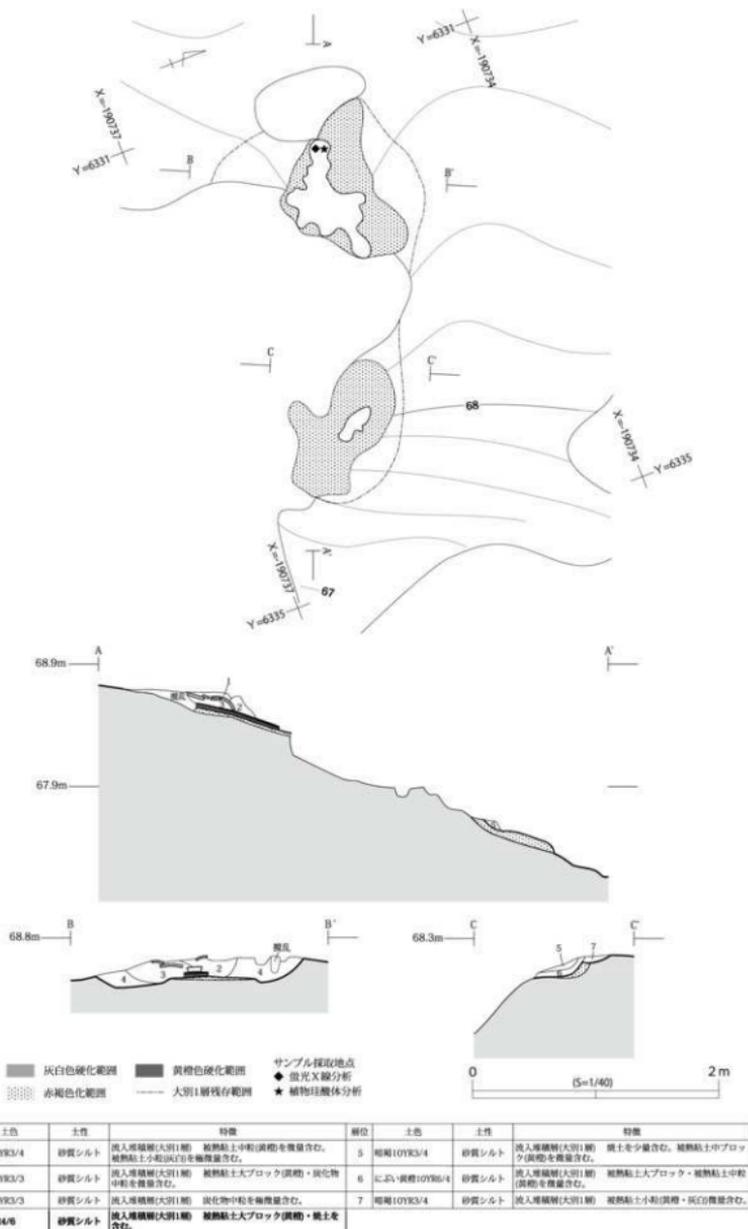
【焼成部】 平面形は奥壁が後世の削平によって失われているが、長方形である。残存長3.25m、最大幅90cm、残存壁高10cm、床面は17°の角度で傾斜する。

床面は凹凸があり、焼成部上方で、凸面を上にした平瓦を横位に配置した焼台と考えられる瓦を確認した(写真34-4)。断続的で列は認められなかった。壁は、両側壁の大半が失われているが、焼成部下半の状況から、両側壁とも床面からやや緩やかに立ち上がると考えられる。

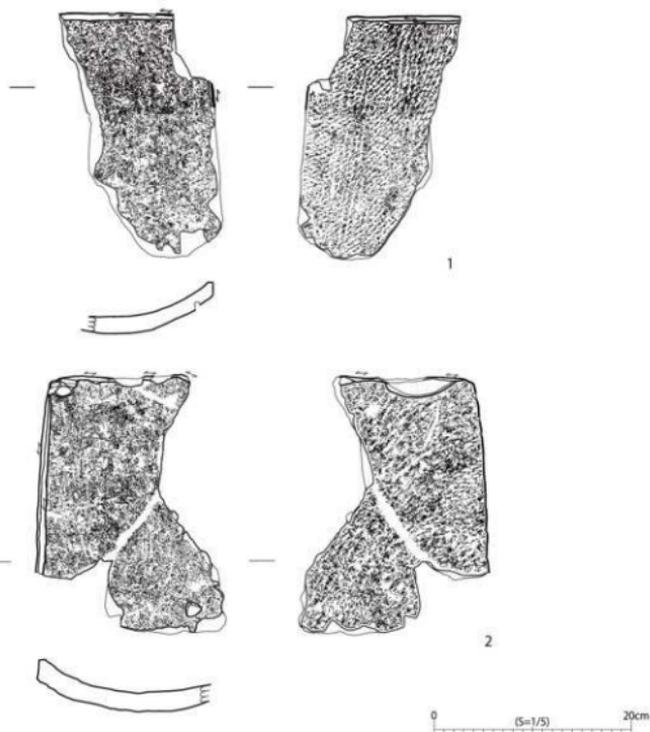
構架材は南側壁外で1ヶ所検出した(写真34-8・9)。材は直径2.5cmで、床面とほぼ同じ高さで確認した。断ち割り調査により、ほぼ垂直に立ち上がることが確認された。

被熱状況は、残存する壁面と床面が灰白色硬化している。窯体の断ち割り調査では、床面および壁面からⅢ層にかけて灰白色硬化(2cm)、黄褐色硬化(6cm)、赤褐色化(12cm)の状況を確認した。

【燃焼部】 平面形は方形で、残存長25cm、最大幅70cm、残存壁高10cm、床面は6°の角度で傾斜する。焼成部との間の階は高さ20cmで、90°の角度で立ち上がる。焚口は削平されて残存しない。



第253図 11号窯跡平面図・土層断面図



番号	遺構名 グリッド	層位	種類	最大長 (cm)	北短幅 (cm)	東短幅 (cm)	厚さ (cm)	瓦当面 長さ(cm)	瓦当面 厚さ(cm)	色調	成形・調整 備考	登録 番号	写真 図説
1	11号窯跡	2	平瓦	24.8	-	11.4	1.8	-	-	内面：10YR5/1 凸面：7.5YR5/1	内面：糸切り筋→水目筋→ナデ 凸面：縄印キ 両縁：縦筋・鉄線面ヘラケズリ	G-313	82-5
2	11号窯跡	1	平瓦	26.5	-	14.3	2.1	-	-	内面：10YR7/2 凸面：10YR6/2	内面：糸目筋→ナデ→圧縮 凸面：縄印キ→ナデ 両縁：縦筋・鉄線面ヘラケズリ→鉄線面圧縮	G-314	82-8

第254図 11号窯跡出土遺物

壁は、南側壁が削平されて失われていたが、北側壁の一部を検出した。

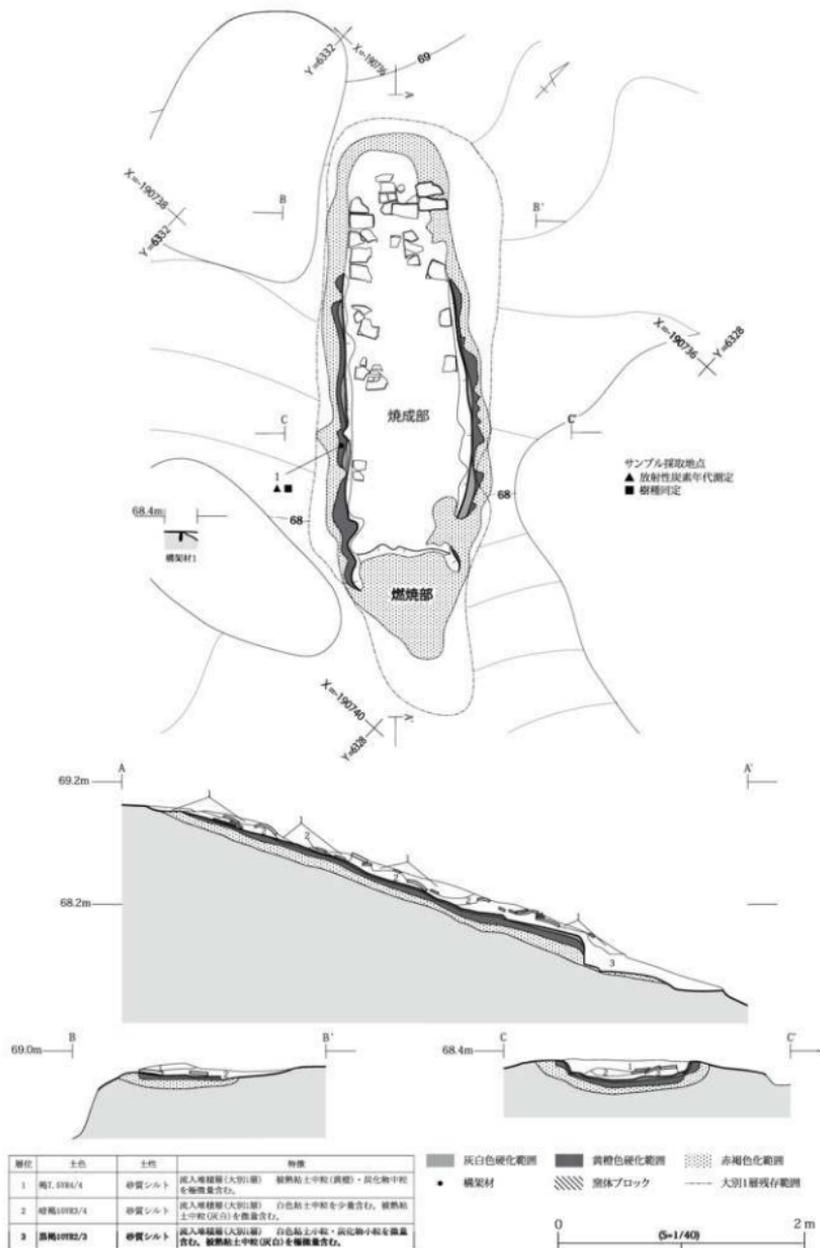
被熱状況は、壁面は弱く灰白色硬化し、床面の大部分が赤変硬化していた。断ち割り調査では、窯体の内側から外側にかけて、黄橙色硬化（4cm）、赤褐色化（10cm）の状況を確認した。

【堆積層】大別1層、細別3層を確認した。焼土粒を含む窯崩壊後に流入した黄褐色砂質シルト主体の流入堆積層である。

【出土遺物】大別1層から丸瓦と平瓦が出土している。総破片数は525点である。8点を図示した。焼成部から「田」押印瓦・無段丸瓦が出土している。焼台として確認した床面出土遺物はすべて平瓦である。

#### 13号窯跡（S013）（第258～260図・第14表）

【確認状況】調査区西側の斜面下方、M-32グリッドに位置する。Ⅲ層上面で確認した。残存状態は悪く、上部は後世の削平を受け、奥壁や煙出部、焼成部の一部が失われ、焼成部と燃焼部を確認した。他の遺構との重複関係はなく、南に位置する14号窯跡まで9.3m、北の18号窯跡まで6.85mである。



第255図 12号窯跡平面図・土層断面図